令和6年

第1回定例会

会議録

令和6年3月6日

令和6年第1回 江差町議会定例会

(第1号)

◎ 期日及び場所

令和6年3月6日(水) 午前10時00分 江差町役場 議場

◎ 議事日程

- 日程第 1 会議録署名議員の指名
- 日程第 2 会期の決定
〔議長 諸般の報告〕
- 日程第 3 閉会中の継続調査の申し出について
〔町長 行政報告〕
- 日程第 4 報告第 1号 放棄したその他の債権の報告について
- 日程第 5 承認第 1号 令和5年度江差町一般会計補正予算(第14号)の専決処分の承認を求めることについて
- 日程第 6 議案第 1号 令和5年度江差町一般会計補正予算(第15号)について
- 日程第 7 議案第 2号 令和5年度江差町国民健康保険費特別会計補正予算(第2号)について
- 日程第 8 議案第 3号 令和5年度江差町介護保険特別会計補正予算(第3号)について
- 日程第 9 議案第 4号 令和5年度江差町公共下水道事業特別会計補正予算(第2号)について
- 日程第10 議案第 5号 令和5年度江差町水道事業会計補正予算(第1号)について
- 日程第11 議案第30号 江差町公共下水道江差・上ノ国下水道管理センターの建設工事委託に関する協定の一部を変更する協定の締結について
- 日程第12 議案第31号 工事請負契約の締結について
〔町長 ～ 令和6年度町政執行方針表明〕
〔教育長 ～ 令和6年度教育行政執行方針表明〕
- 日程第13 一般質問
- 日程第14 議案第 6号 令和6年度江差町一般会計予算について
- 日程第15 議案第 7号 令和6年度江差町国民健康保険費特別会計予算について
- 日程第16 議案第 8号 令和6年度江差町後期高齢者医療特別会計予算について
- 日程第17 議案第 9号 令和6年度江差町介護保険特別会計予算について

日程第18	議案第10号	令和6年度江差町公設地方卸売市場事業特別会計予算について
日程第19	議案第11号	令和6年度江差町港湾整備事業特別会計予算について
日程第20	議案第12号	令和6年度江差町奨学金特別会計予算について
日程第21	議案第13号	令和6年度江差町水道事業会計予算について
日程第22	議案第14号	令和6年度江差町公共下水道事業会計予算について
日程第23	議案第15号	江差町財政調整基金の処分について
日程第24	議案第16号	江差町コミュニティプラザえさしの設置及び管理に関する条例の制定について
日程第25	議案第17号	江差町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について
日程第26	議案第18号	江差町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について
日程第27	議案第19号	江差町青少年問題協議会条例を廃止する条例について
日程第28	議案第20号	江差町看護職員養成修学資金貸付条例の一部を改正する条例について
日程第29	議案第21号	江差町学童保育所設置条例の一部を改正する条例について
日程第30	議案第22号	江差町介護保険条例の一部を改正する条例について
日程第31	議案第23号	指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準等の一部を改正する省令の施行に伴う関連条例の整備に関する条例の制定について
日程第32	議案第24号	江差町農業委員会の委員等の定数に関する条例の一部を改正する条例について
日程第33	議案第25号	江差町港湾管理条例の一部を改正する条例について
日程第34	議案第26号	江差町給水条例の一部を改正する条例について
日程第35	議案第27号	江差町水道の布設工事監督者の配置基準及び資格基準並びに水道技術管理者の資格基準に関する条例の一部を改正する条例について
日程第36	議案第28号	江差町公共下水道条例の一部を改正する条例について
日程第37	議案第29号	江差町公共下水道利用促進条例の一部を改正する条例について
日程第38	議案第32号	指定管理者の指定について
日程第39	議案第33号	指定管理者の指定について
日程第40	議案第6号～議案第15号、議案第16号～議案第29号、議案第32号、議案第33号、 令和6年度江差町各会計予算並びに関連議案中	

□ 議会事務局・総務課・選挙管理委員会事務局・監査委員事務局 所管分

- 議案第17号 江差町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について
- 議案第18号 江差町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について
- 議案第19号 江差町青少年問題協議会条例を廃止する条例について

□ まちづくり推進課 所管分

- 議案第16号 江差町コミュニティプラザえさしの設置及び管理に関する条例の制定について

◎ 会議に付した事件

- 日程第 1 会議録署名議員の指名
- 日程第 2 会期の決定
〔議長 諸般の報告〕
- 日程第 3 閉会中の継続調査の申し出について
〔町長 行政報告〕
- 日程第 4 報告第 1号 放棄したその他の債権の報告について
- 日程第 5 承認第 1号 令和5年度江差町一般会計補正予算(第14号)の専決処分の承認を求めることについて
- 日程第 6 議案第 1号 令和5年度江差町一般会計補正予算(第15号)について
- 日程第 7 議案第 2号 令和5年度江差町国民健康保険費特別会計補正予算(第2号)について
- 日程第 8 議案第 3号 令和5年度江差町介護保険特別会計補正予算(第3号)について
- 日程第 9 議案第 4号 令和5年度江差町公共下水道事業特別会計補正予算(第2号)について
- 日程第10 議案第 5号 令和5年度江差町水道事業会計補正予算(第1号)について
- 日程第11 議案第30号 江差町公共下水道江差・上ノ国下水道管理センターの建設工事委託に関する協定の一部を変更する協定の締結について
- 日程第12 議案第31号 工事請負契約の締結について
〔町長 ～ 令和6年度町政執行方針表明〕
〔教育長 ～ 令和6年度教育行政執行方針表明〕
- 日程第13 一般質問
- 日程第14 議案第 6号 令和6年度江差町一般会計予算について
- 日程第15 議案第 7号 令和6年度江差町国民健康保険費特別会計予算について

日程第16	議案第8号	令和6年度江差町後期高齢者医療特別会計予算について
日程第17	議案第9号	令和6年度江差町介護保険特別会計予算について
日程第18	議案第10号	令和6年度江差町公設地方卸売市場事業特別会計予算について
日程第19	議案第11号	令和6年度江差町港湾整備事業特別会計予算について
日程第20	議案第12号	令和6年度江差町奨学金特別会計予算について
日程第21	議案第13号	令和6年度江差町水道事業会計予算について
日程第22	議案第14号	令和6年度江差町公共下水道事業会計予算について
日程第23	議案第15号	江差町財政調整基金の処分について
日程第24	議案第16号	江差町コミュニティプラザえさしの設置及び管理に関する条例の制定について
日程第25	議案第17号	江差町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について
日程第26	議案第18号	江差町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について
日程第27	議案第19号	江差町青少年問題協議会条例を廃止する条例について
日程第28	議案第20号	江差町看護職員養成修学資金貸付条例の一部を改正する条例について
日程第29	議案第21号	江差町学童保育所設置条例の一部を改正する条例について
日程第30	議案第22号	江差町介護保険条例の一部を改正する条例について
日程第31	議案第23号	指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準等の一部を改正する省令の施行に伴う関連条例の整備に関する条例の制定について
日程第32	議案第24号	江差町農業委員会の委員等の定数に関する条例の一部を改正する条例について
日程第33	議案第25号	江差町港湾管理条例の一部を改正する条例について
日程第34	議案第26号	江差町給水条例の一部を改正する条例について
日程第35	議案第27号	江差町水道の布設工事監督者の配置基準及び資格基準並びに水道技術管理者の資格基準に関する条例の一部を改正する条例について
日程第36	議案第28号	江差町公共下水道条例の一部を改正する条例について
日程第37	議案第29号	江差町公共下水道利用促進条例の一部を改正する条例について
日程第38	議案第32号	指定管理者の指定について
日程第39	議案第33号	指定管理者の指定について

日程第40 議案第6号～議案第15号、議案第16号～議案第29号、
議案第32号、議案第33号、
令和6年度江差町各会計予算並びに関連議案中

□ 議会事務局・総務課・選挙管理委員会事務局・監査委員事務局 所管分

- 議案第17号 江差町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について
- 議案第18号 江差町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について
- 議案第19号 江差町青少年問題協議会条例を廃止する条例について

□ まちづくり推進課 所管分

- 議案第16号 江差町コミュニティプラザえさしの設置及び管理に関する条例の制定について

◎ 出席議員（11名）

議		長	萩	原	徹
副	議	長	塚	本	眞
議		員	打	越	東 亜 夫
	〃		飯	田	隆 一
	〃		室	井	正 行
	〃		小	梅	洋 子
	〃		西	海 谷	望
	〃		出	崎	太 郎
	〃		田	畑	豊 利
	〃		大	門	和 幸
	〃		増	永	一 彦

◎ 欠席議員（1名）

議		員	小	野	寺	眞
---	--	---	---	---	---	---

◎ 出席説明者

町	長	照井	誉之介
副町	長	田畑	明
教育	長	出崎	雄司
総務課	長	岸田	礼治
まちづくり推進課	長	尾山	徹
財政課	長	長尾	恵一
税務課	長	西海谷	靖
町民福祉課	長	畑	竜哉
健康推進課	長	白鳥	智子
健康推進課	参事	若狭	巧
産業振興課	長	竹内	強
産業振興課	参事	布施	順司
追分観光課	長	国仙	敏孝
建設水道課	長	岸田	雄治
高齢あんしん課	長	畑	明日香
出納室	長	岸田	真由美
学校教育課	長	宮津	宗介
社会教育課	長	安田	克臣
総務課	主幹	森	直彦
まちづくり推進課	主幹	秋山	悦子

(議会事務局)

局	長	梅川	年代
書	記	三宮	弘之

※ベルが鳴る。

(議長)

ただ今の出席議員数は11名です。定足数に達しておりますので、会議は成立いたしました。

ただ今から、令和6年第1回江差町議会定例会を開会します。

(議長)

本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元の配布のとおりとなっております。

(議長)

日程第1、会議録署名議員の指名をいたします。

会議録署名議員は、会議規則129条の規定により、1番増永議員、11番塚本議員を指名いたします。

(議長)

日程第2、会期の決定を議題といたします。

今定例会の会期及び議会運営委員会については、所管の議会運営委員会に付託されておりますので、委員長の報告を求めます。

「室井委員長」

はい。

(議長)

室井委員長。

「室井委員長」

おはようございます。

(「おはようございます」の声)

「室井委員長」(報告)

えーと、議会運営委員会から報告いたします。

まず1点目、委員会の開催状況について、ご報告いたします。

当委員会は、2月16日、2月26日の2日間、委員会を開催し、町理事者の出席

を求め、今定例会に提出される議案内容の説明を受けるなど、日程及び運営について協議致しました。

2、今定例会の議案、一般質問等について。今定例会には、各会計補正予算など36件の議案が提出されている他、報告1件、承認2件、同意1件、諮問1件、一般質問は7名の通告であります。詳細については、お手元に配布しておりますので、報告書の通りでございます。

3、会期の日程について。会期の日程については、本日、3月6日及び明日3月7日間の2日間といたします。

4、一般質問などについて。一般質問などについても、これまでと同様といたします。また、町理事者の反問権についても従来通りです。

以上、議会運営委員会において、協議した内容を報告致します。

よろしく願いいたします。

(議長)

お諮りします。

今定例会の会期及び議会運営については、委員長の報告のとおりにしたいと思いますが、ご異議ありませんか。

(「なし」の声)

(議長)

異議なしと認めます。よって、今定例会の会期については、本日から明日の7日までの2日間に決定いたしました。

一般質問については、一問一答方式とし、議員の質問は自席で行うものとし、理事者側の答弁は、1回目は演壇で、2回目以降は自席で行う事といたします。

質問の回数は再々質問まで答弁を含め、60分の時間制を採用して行うものといたします。また理事者においては、議員からの質問に対して、議長の許可を得て、反問できることとし、それに要する時間は60分の制限時間外とすることに決定しました。

また、議場内の換気のため、出入り口のドアを開口しますので、ご協力をお願いいたします。

(議長)

次に、議長からの諸般の報告をいたしますが、報告内容はお手元に配付のとおりでございますが、裏面に記載しておりますとおり、去る2月14日に田畑豊利議員に対し、地方自治法第137条に規定されている、正当な理由のない会議の欠席が、この間、数多く見受けられたため、嚴重注意を行いましたことをご報告申し上げます。

(議長)

日程第3、閉会中の継続調査の申し出についてを議題といたします。

(議長)

議会運営委員会、各常任委員会及び議会広報特別委員会から、会議規則第76条の規定に基づき、お手元に配布のとおり、継続調査の申し出がありました。

お諮りします。各委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることに、ご異議ありませんか。

(「なし」の声)

(議長)

異議なしと認めます。

よって、各委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続調査とすることに、決定いたしました。

(議長)

次に、町長より行政報告の申し出がありますので、これを許可いたします。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」 (行政報告)

はじめに、能登半島地震における珠洲市への災害派遣について、1月17日の全員協議会にてご報告しておりますが、改めて行政報告をさせていただきます。

石川県能登半島で発生した地震により被災した珠洲市に対し、当町としても1日も早い復興に最大限支援していきたいと考え、友好都市災害時相互応援協定書に基づき、人的支援として、1月11日から20日までを江差町単独の取り組みとして、7名の職員を避難所運營業務支援などに充てるため派遣して来ました。

その後、檜山町村会並びに檜山振興局の協力を得て、1月19日から2月末までの間、避難所支援、市民窓口業務、コールセンター業務等にあたって来たところですが、現地の状況等から災害派遣の延長が必要との共通認識のもと、3月末までの支援継続を決定し、江差町を含めた檜山管内及び檜山振興局職員の延べ61名を予定しているところです。

被災から2ヶ月経過した現在でも、水道の復旧の見通しが立たず、倒壊した家屋も

手つかずの状況にあり、復興に向けた支援金制度の受付も始まっておりませんが、市役所の職員はその対応に追われ、疲弊している状況にあります。

友好都市珠洲市の日でも早い復興に当町も最大限支援していきたいと考えておりますが、3月末までの支援を一区切りとしつつも、新年度における支援策につきましては、改めて派遣などの対応について検討していきたいと考えておりますことを申し添え、報告といたします。

次に、寄附採納についてご報告申し上げます。

令和6年2月29日、札幌市中央区北4条西1丁目3番地、ホクレン農業協同組合連合会 代表理事会長 篠原末治 様より、企業版ふるさと納税として、100万円のご寄附がございました。

農業は地域に根差した基幹産業であり、その持続的発展には地域社会の活性化が不可欠であるため、地方創生に微力ながら役に立ちたいとの意向から、全道各市町村に対し企業版ふるさと納税を行ったものです。

当町では「豊かな産地づくり総合支援事業」に活用させていただきます。

続いて、令和6年2月29日、札幌市に事務所を置く、生活協同組合 コープさっぽろ 理事長 大見英明 様より、新入学児童の交通安全への願いを込めて、交通安全ランドセルカバー35枚のご寄附がございました。

同組合の地域貢献活動は、平成24年度から継続されており、交通安全推進の一翼を担っているところであります。ご寄附いただいたランドセルカバーは小学校入学式当日に配布を予定しております。

以上、ご寄附がありましたことをご報告申し上げますとともに、改めてご厚志に厚くお礼申し上げます。

(議長)

以上で、行政報告を終わります。

(議長)

日程第4、報告第1号、放棄したその他の債権の報告についてを、議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」（提案説明）

報告第1号、放棄したその他の債権の報告についてでございます。

江差町債権管理条例第12条第1項の規定により、別紙調書のとおり債権放棄したので、同条第2項の規定により報告するものでございます。

具体的内容につきましては、担当課長より説明いたしますので、よろしくお願い申し上げます。

「財政課長」

財政課長。

（議長）

財政課長。

「財政課長」

おはようございます。それでは報告第1号について、補足説明をさせていただきます。議案書2ページの債権放棄調書をご覧ください。

本件につきましては、町の債権管理条例第2条に規定する、その他の債権を放棄した内容でございます。この、その他の債権というのは、いわゆる私債権とも言われるものですが、今回、年度末における各課確認を行った上、調書に記載のとおり3つの債権を放棄致しました。

まずは、水道使用料です。放棄の理由としましては、6人全てが同条例第1項第7号の該当で、債務者の死亡により、回収不能と判断したものです。抜けている年度もありますけれども、平成11年度から平成31年度までの分を放棄しました。記載の件数については、該当年度の各月に賦課した調定額を1件というふうに数えてございます。

次に住宅使用料です。内訳について、1号該当の1人は、生活保護に準ずる状態にあり、資力の回復が困難で、債権の履行が見込まれないというものです。7号該当の6人は、全て債務者本人の死亡によります。水道料と同じく抜けている年度もありますが、1号、7号の両方をあわせて、平成17年度から平成31年度までの分を放棄しました。

最後に、普通財産に係る土地貸付収入です。2人の7号該当となるもので、1人が失踪によるもので平成20年度分、もう1人が死亡によるもので、平成22年度から24年度までの分を放棄したものです。

以上、放棄した合計は、15人、276件、318万2千344円となりました。

なお、今回の放棄にあたりましては、本年2月8日に開催した町の債権等不納欠損処分委員会において、慎重に審議をまいりました。今後におきましても、債権管理条例に基づき、適切に対応してまいりますので、ご理解いただきますようお願い申し上げます。説明は以上となります。

(議長)

以上で、提案理由の説明が終わりましたので、質疑を許します。
質疑希望ありませんか。

(「なし」の声)

(議長)

質疑希望ありませんので、報告第1号については、以上で終わります。

(議長)

日程第5号、承認第1号、令和5年度江差町一般会計補正予算(第14号)の専決処分の承認を求めることについてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」(提案説明)

承認第1号、令和5年度江差町一般会計補正予算(第14号)の専決処分の承認を
求めることについてでございます。

地方自治法第179条第1項の規定により、別紙のとおり専決処分をいたしました
ので、同条第3項の規定によりこれを報告し、承認を求めるものでございます。

能登半島地震における珠洲市への災害派遣に係る経費につきまして、令和6年2月
20日付けをもって専決処分したものでございます。

具体的内容につきましては、担当課長より説明いたしますので、ご審議の上、承認
いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

「財政課長」

財政課長。

(議長)

財政課長。

「財政課長」(補足説明)

はい。それでは、承認第1号について、補足説明させていただきます。

議案書5ページの補正予算構成表をご覧ください。能登半島地震災害派遣、珠洲市です。

被災地における人的支援として、本年1月11日から町職員を派遣している本事業につきまして、2月29日までの費用を本年第1回臨時会において補正予算で措置しておりましたが、現地復旧状況からは、さらに1か月間支援を延長すべきとの判断に立ち、職員時間外手当や旅費等の所要の経費を補填することと致しました。

3月の支援につきましては、年度替わりの時期であり、檜山管内的にも負担が大きい状況等がありますことから、これまでの4人体制から2人体制に縮小したうえ、各町からはペアで選出していただきながら、輪番制にて対応してございます。

切れ目なく派遣を継続していく必要がありましたことから、2月20日付けにて専決処分したものでございます。

補正額は132万円、全額一般財源です。

説明は以上です。ご審議のうえ、ご承認いただきますようよろしくお願い致します。

(議長)

以上で、提案理由の説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑希望ありませんか。

(「なし」の声)

(議長)

質疑希望ありませんので、質疑を終結いたします。

お諮りします。本案については、討論を省略し、直ちに採決したいと思いますが、ご異議ありませんか。

(「なし」の声)

(議長)

異議なしと認め、直ちに採決いたします。

承認第1号、令和5年度江差町一般会計補正予算(第14号)の専決処分の承認を求めることについて、原案に賛成の方の挙手を求めます。

(議長)

挙手全員であります。

よって、承認第1号については、原案のとおり承認されました。

(議長)

日程第6、議案第1号、令和5年度江差町一般会計補正予算(第15号)について、

議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」 (提案説明)

議案第1号、令和5年度江差町一般会計補正予算(第15号)についてでございます。

今回の補正につきましては、事業執行に伴います減額補正及び財源更正のほか、総務管理事務など、合計55事業に係る経費の補正をお願いするものでございまして、歳入歳出予算の総額にそれぞれ、6,996万円6千円を増額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ、72億7,821万8千円とするものでございます。

またあわせまして、繰越明許費、債務負担行為、地方債の補正をお願いするものでございます。

具体的内容につきましては、担当課長より説明いたしますので、ご審議の上、議決いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

「財政課長」

財政課長。

(議長)

財政課長。

「財政課長」 (補足説明)

それでは、議案第1号の補正予算第15号について、補足説明致します。

議案書16ページから18ページの補正予算構成表をご覧ください。

本補正予算につきましては、減額補正、財源更正、一般事業補正の3つに区分をし整理してございます。

はじめに、減額補正です。事業の完了等により、執行残が見込まれる28事業を減額するものです。なおそのうち、16ページの下、下から4段目のかもめ島中央遊歩道保全対策調査(法面崩落防止)については、道の地域づくり総合交付金の交付決定を受けたことにより、また、17ページ上から3段目、4段目の学校給食無償化(小学校・中学校)については、ふるさと応援基金繰入金を充当したことにより、財源更

正もあわせて行ったほか、戻りますけれども16ページ下から3段目の直轄港湾整備については、令和4年度事業の精算追徴金が確定したことに伴い、地方債を60万円減額しております。これにつきましては、26ページの第4表・地方債補正にも記載がありますので、あわせて御確認ください。

以上、減額補正の合計は4,352万3千円となりました。財源内訳はご覧のとおりです。

次に財源更正です。企業版ふるさと納税や一般寄附金の充当、あるいは国費・道費の交付決定等に伴う9事業の財源更正を行いました。内訳につきましては、災害備蓄品整備と運動公園テニスコート多目的改修については、道の地域づくり総合交付金、両事業をあわせまして740万円の交付決定を受けたこと、町立小学校・中学校エアコン設置工事については、2月の臨時会でご説明しましたとおり、1月30日付けで文科省所管補助金、小学校・中学校を合計して6,684万1千円の内定を受けましたことから、今回財源更正することにあわせて、地方債を6,680万円減額しました。

また、全国瞬時警報システム（Jアラート）情報自動起動配信システム整備事業につきましては、ハード事業が伴わないため適債事業と認められず、地方債90万円が皆減となったものでございます。学校エアコン・Jアラートの両事業につきましても、地方債補正に記載をしてございますので、御確認をお願いします。

財源更正の方の説明は以上となります。

次に、一般事業補正をご説明致します。

まずは、総務管理事務です。事業費の確定により一般事務用消耗品費を300万円減ずる一方、自治法派遣として、まちづくり推進課に配属された道職員の人件費に係る道への負担金449万8千円を増額するものです。補正額は149万8千円。全額一般財源です。

次に、減債基金積立です。国の令和5年度補正予算の成立に伴い、本年度普通交付税の基準財政需要額の再算定が行われた結果、臨時財政対策債償還基金費が措置され、令和6年度及び令和7年度の臨時財政対策債を償還するための基金積立に要する経費の交付を受けたものです。補正額は1,396万7千円です。

次に、ふるさと応援寄附金対策です。本年1月31日時点の速報値で1億9,471万1,500円の収入となり、年度末までに2億円を超える見込みのため、その他特定財源の当該寄附金とあわせて、ふるさと応援基金への積立金を増額するものです。なお、あの、昨夜では今年度2億円を達成したという、あの、嬉しい速報を頂きましたので、あわせてご報告申し上げます。補正額は2,000万円です。

次に、江差町企業版ふるさと納税地方創生基金積立です。本件につきましては、昨年6月に受領しました札幌市企業からの企業版ふるさと納税の充当事業を移し替えるもので、先ほどの財源更正の一覧にありました、北の江の島構想推進と対になるものです。本財源は当初、北の江の島拠点施設に係る民間活力導入調査業務委託へ充当したところですが、当該委託業務が明許繰越となりましたことから、予算経理の関係

上、基金積立に移し替えることとしたものです。補正額は300万円です。

次に、珠洲市災害支援寄附代理受入事業です。令和6年能登半島地震で甚大な被害を受け、現在も日々の復旧作業に追われている珠洲市の事務負担軽減のため、同市へ寄せられたふるさと納税の受付事務を当町が担うものです。町と取引するポータルサイトへの事務経費を計上しております。補正額は30万円。全額一般財源です。

次に、令和4年度新型コロナウイルスワクチン接種対策費・国庫負担金返還から令和4年度子ども・子育て支援交付金国費返還までの5事業を一括して説明させていただきます。いずれの事業も、実績報告に基づき、既に交付決定を受けた金額を実績が下回ったことによる国庫負担金・補助金の返還金です。補正額は、5事業を合計し270万7千円。全額一般財源です。

次に、能登半島地震珠洲市義援金です。今回の地震により、多大な被害を被った友好都市・珠洲市の1日も早い復旧、復興を支援するための江差町としての義援金です。補正額は300万円です。

次に、個人住民税定額減税に係る総合行政システム改修委託業務です。政府税制改正大綱に基づく令和6年度個人住民税の定額減税の実施に伴い、賦課決定システムを改修するものです。補正額は106万円。財源の国費は、物価高騰対応重点支援地方交付金です。

次に、旧氏及び振り仮名の記載に係る戸籍附票システム改修及び振り仮名通知の仮登録に係る戸籍附票システム改修を関連がございますので一括して説明致します。住民基本台帳法等の改正に伴い、戸籍附票システムに旧氏及び振り仮名の記載に関する機能を搭載するためのシステム改修です。補正額は、2事業を合計し267万3千円。財源の国費は、社会保障・税番号制度システム整備補助金です。

なお、個人住民税定額減税に係る総合行政システム改修及び、ただいま説明しました戸籍附票システム改修につきましては、年度内に事業完了ができないことから、22ページの第2表・繰越明許費補正に追加をさせていただきますので、あわせて御確認ください。

次に、社会福祉法人が行う利用者負担軽減事業助成です。本事業は、社会福祉法人等による生計困難者等に対する介護保険サービスに係る利用者負担額軽減制度に要する経費に対して町が助成する事業で、介護保険制度の円滑な施行に資することを目的とします。助成の対象は、特別養護老人ホームえさし荘を運営する社会福祉法人恵愛会となります。補正額は676万8千円。本事業は、道の介護サービス利用者負担軽減事業費補助金に基づき実施するものであり、事業費の4分の3、507万6千円が別途交付されます。

次に、障害者医療給付です。疾病、事故等による身体的損傷に対して医療等がなされ、日常生活能力、社会生活能力及び職業能力を回復・向上させるためのリハビリテーション医療を給付するもので、透析患者の増加等に伴う更生医療の支出を補います。補正額は510万円。財源内訳は、障害者自立支援法に基づく医療費負担金であり、国が50%、道と町が各25%を負担します。

次に、直轄港湾整備事業、令和5年度補正予算分です。令和3年度着工、令和8年度完成を目指す、北埠頭マイナス5.0メートル岸壁、通称フェリー岸壁の改良工事に関するものですが、着工から4年目となる令和6年度については、国の計画変更により、国の令和5年度予算における繰越事業となりましたことから、今回町におきましても、予算の増額とあわせて繰越明許費及び地方債の追加を補正するものです。繰越明許費補正、地方債補正それぞれに記載がございますので、あわせて御確認ください。補正額は4千万円。地方債は、防災・減災・国土強靱化緊急対策事業債でございます。

次に、公共下水道特別会計繰出金です。ご案内のとおり、令和6年度からは公共下水道事業特別会計は、公営企業会計に移行致します。この手続きに伴い、本年3月末をもって特別会計を締め、精算しなくてはならないことから、今後支払期限が到来する施設の維持管理費や、管渠工事費等々の不足分を繰り出すものです。補正額は1,341万6千円。全額一般財源です。

これで、一般補正18事業の全てを説明致しましたが、合計額は1億1,348万9千円となりました。財源内訳はご覧のとおりです。

以上、第15号補正予算全体の合計額は6,996万6千円となりました。財源内訳はご覧のとおりです。

最後になりますが、繰越明許費と債務負担行為につきまして、若干、補足をさせていただきます。

まずは、繰越明許費です。22ページをご覧ください。これまでの説明になかった事業についてです。4段目の在宅型総合福祉施設高圧受電設備更新につきましては、能登半島地震の影響を受けケーブル類の調達が遅れているため、5段目の新型コロナウイルスワクチン接種体制確保（令和5年度秋接種）については、本年3月接種に係る国保連への支払いが出納閉鎖後の6月以降となるため、また、6段目の町道五厘沢山崎線道路改良工事については、財源である社会資本整備総合交付金が、国の令和5年度補正予算における翌債事業となったため、以上の理由によって、今年度内に事業完了することができないことから、予算の繰越しをお願いするものです。

次に、債務負担行為です。23ページから25ページに記載がございます。記載の57の契約については、予算の執行が可能となる4月1日以前に入札や契約等の手続きを行う必要がありますことから、今回、債務負担行為の追加をお願いするものです。

説明は以上となります。ご審議のほどよろしくお願い致します。

(議長)

以上で、提案理由の説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑希望ありませんか。

(「なし」の声)

(議長)

質疑希望ありませんので、質疑を終結いたします。

お諮りします。本案については、討論を省略し、直ちに採決したいと思いますが、ご異議ありませんか。

(「なし」の声)

(議長)

異議なしと認め、直ちに採決いたします。

(議長)

議案第1号、令和5年度江差町一般会計補正予算(第15号)について、原案に賛成の方の挙手を求めます。

(議長)

挙手全員であります。

よって、議案第1号については、原案のとおり可決されました。

(議長)

日程第7、議案第2号、令和5年度江差町国民健康保険費特別会計補正予算(第2号)についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」(提案説明)

議案第2号、令和5年度江差町国民健康保険費特別会計補正予算(第2号)についてでございます。

今回の補正につきましては、事業執行に伴う国庫負担金返還にかかる増額をお願いするものでございまして、歳入歳出予算の総額にそれぞれ、15万2千円を増額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ、8億315万4千円とするものでございます。

また、合わせまして、債務負担行為の補正をお願いするものでございます。

具体的内容につきましては、担当課長より説明いたしますので、ご審議の上、議決

いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

「健康推進課長」

健康推進課長。

(議長)

健康推進課長。

「健康推進課長」（補足説明）

おはようございます。

議案第2号につきまして、補足説明いたします。議案書49ページの補正予算構成表をお開き下さい。事業名は、償還金及び還付加算金でございます。令和4年度国民健康保険特定健康診査・保健指導国庫負担金でございますが、既に交付決定された額を実績額が下回ったことにより、返還金が生じたものでございます。補正額は15万2千円で、財源は一般財源でございます。

議案書52ページをお開き下さい。債務負担行為補正について、ご説明いたします。第2表に記載してある2事業は、令和6年4月1日からの継続性事業でございます。支出予定額は記載のとおりでございます。

ご審議方、よろしくお願いいたします。

(議長)

以上で、提案理由の説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑希望ありませんか。

（「なし」の声）

(議長)

質疑希望ありませんので、質疑を終結いたします。

お諮りします。本案について、討論を省略し、直ちに採決したいと思います。ご異議ありませんか。

（「なし」の声）

(議長)

異議なしと認め、直ちに採決いたします。

(議長)

議案第2号、令和5年度江差町国民健康保険費特別会計補正予算（第2号）につい

て、原案に賛成の方の挙手を求めます。

(議長)

挙手全員であります。

よって、議案第2号については、原案のとおり可決されました。

(議長)

日程第8、議案第3号、令和5年度江差町介護保険特別会計補正予算(第3号)についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」(提案説明)

議案第3号、令和5年度江差町介護保険特別会計補正予算(第3号)についてでございます。

今回の補正につきましては、事業執行に伴う6つの事業費の減額補正及び財源更正のほか、介護保険給付準備基金への積立にかかる補正をお願いするものでございまして、歳入歳出予算の総額からそれぞれ、1,424万7千円を減額し、保険事業勘定の歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ、12億2,430万円とするものでございます。

これによりまして、介護保険特別会計の歳入歳出予算の総額は、サービス事業勘定とあわせまして歳入歳出それぞれ、12億2,955万2千円となるものでございます。

具体的内容につきましては、担当課長より説明いたしますので、ご審議の上、議決いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

「高齢あんしん課長」

高齢あんしん課長。

(議長)

高齢あんしん課長。

「高齢あんしん課長」（補足説明）

おはようございます。

私より議案第3号、令和5年度江差町介護保険特別会計の補正予算につきまして、ご説明申し上げます。議案書63ページの予算構成表をお開き下さい。まず、総務費、令和5年度介護報酬改定等に伴うシステム改修につきましては、12月定例会において、国の補助金額が不明であったため、全額一般会計繰越金としておりましたが、その後内示額80万円が示されたため、同額分の財源を更正し、合わせて一般会計の介護保険特別会計繰出金を減額しております。

次に保険給付費についてでございます。地域密着型介護サービス給付費580万8千円、介護予防サービス給付費177万1千円、地域密着型介護予防サービス給付費150万円、高額介護サービス費100万円、特定入所者介護サービス費500万円、介護予防マネジメント事業費275万円、それぞれサービス量が見込みを下回ったことから、不用額を減額をするものでございます。財源内訳につきましては、国庫支出金、道支出金など記載のとおりとなっております。

次に、基金積立金でございます。介護保険給付費の減額補正に伴い、第1号被保険者65歳以上の高齢者に納めて頂いている介護保険料に余剰金が生じたことから、基金積立するものでございます。財源は全て一般財源となります。

尚、今回積み立てた基金は、今後、介護保険給付費など計画以上の増額となった場合の補填財源となるものでございます。これにより、介護保険特別会計の補正額は、合計で1,424万7千円の減で、その内訳は国庫支出金368万3千円、道支出金157万2千円、その他特定財源819万9千円、それぞれ減額となり、一般財源の減額分につきましては、介護予防ケアマネジメント事業費を除き、基金積立金の財源となりますので、79万3千円の減額となります。

以上、補正予算の説明を終わります。ご審議の程、よろしくお願い致します。

（議長）

以上で、提案理由の説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑希望ありませんか。

（「なし」の声）

（議長）

質疑希望ありませんので、質疑を終結いたします。

お諮りします。本案については、討論を省略し、直ちに採決したいと思います。ご異議ありませんか。

（「なし」の声）

(議長)

異議なしと認め、直ちに採決いたします。

(議長)

議案第3号、令和5年度江差町介護保険特別会計補正予算(第3号)について、原案に賛成の方の挙手を求めます。

(議長)

挙手多数であります。

よって、議案第3号については、原案のとおり可決されました。

(議長)

日程第9、議案第4号、令和5年度江差町公共下水道事業特別会計補正予算(第2号)についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」(提案説明)

議案第4号、令和5年度江差町公共下水道事業特別会計補正予算(第2号)についてでございます。

今回の補正につきましては、事業執行に伴う2つの事業費の減額補正及び公債費に係る補正をお願いするものでございまして、歳入歳出予算の総額からそれぞれ、1,178万4千円を減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ、3億7,214万9千円とするものでございます。

またあわせまして、債務負担行為、地方債の補正をお願いするものでございます。

具体的内容につきましては、担当課長より説明いたしますので、ご審議の上、議決いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

「建設水道課長」

建設水道課長。

(議長)

建設水道課長。

「建設水道課長」（補足説明）

はい。おはようございます。

それでは私の方から補足説明申し上げます。議案の75ページ、予算構成表をお開き下さい。

まずは、下水道の管理センター費でございます。こちらにつきましては、ストックマネジメント計画に基づきます下水道管理センターの修繕でございまして、社会資本整備総合交付金の内示額の減額に伴いまして、事業費が減額となったものと、一部管理センターの光熱水費の減額でございます。補正額は2,420万円で、財源内訳につきましては記載のとおりでございます。

次に、公共下水道施設費でございます。こちらにつきましては、令和5年度南が丘地区での管渠新設工事の執行残でございまして、工事費の精査や入札執行残に伴いまして減額となったものでございます。補正額は100万円、財源内訳につきましては記載のとおりでございます。

次に公債費でございます。こちらにつきましては、利率の変更などに伴いまして、増額となったものでございます。補正額は92万5千円、財源内訳は全額その他特定財源でございます。

次に予備費でございます。先程、一般会計予算でも説明ありましたとおり、下水道の公営企業会計へ移行に伴いまして、現在の特別会計を3月で打ち切り決算するための補正でございます。補正額は1,249万1千円、財源内訳につきましては全額その他特定財源でございます。

以上、補正額合計が1,178万4千円の減額でございまして、財源内訳につきましては記載のとおりでございます。

続きまして、78ページをお開き下さい。第2表、債務負担行為補正でございます。新年度、直ちに事業を実施する必要があるものにつきまして、予算の執行が可能となります4月1日以前に入札や見積り合わせ、契約の手続きを行うため、債務負担行為の議決をお願いするものでございます。業務につきましては記載のとおりでございまして、期間につきましては、江差・上ノ国下水道管理センターほか維持管理業務が令和5年から令和8年度でございまして、それ以外につきましては、いずれも令和5年度から令和6年度でございます。また、限度額につきましても、それぞれ記載の額でございしますので、よろしくお願い致します。

次に79ページ、第3表、地方債補正でございます。先程、補正の説明でありましたとおり、事業費の減額に伴い地方債の額が変更となるものにつきまして、地方債補正をお願いするものでございます。限度額以外の項目につきましては、変更がございませんので、説明を割愛させていただきます。

以上、補足説明となりますので、よろしくお願い申し上げます。

(議長)

以上で、提案理由の説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑希望ありませんか。

(「なし」の声)

(議長)

質疑希望ありませんので、質疑を終結いたします。

お諮りします。本案については、討論を省略し、直ちに採決したいと思います。ご異議ありませんか。

(「なし」の声)

(議長)

異議なしと認め、直ちに採決いたします。

(議長)

議案第3号、令和5年度江差町介護保険特別会計補正予算(第3号)について、原案に賛成の方の挙手を求めます。

(議長)

挙手多数であります。よって、議案第3号については、原案のとおり可決されました。

(事務局長)

議案第4号です。

(議長)

あっ、議案第3号、3号になってる。

「室井議員」

下水道じゃないのか。

(事務局長)

(違うページを指し) こっちですよ。

(議長)

あーすいません。失礼しました。

議案第4号、令和5年度江差町公共下水道事業特別会計補正予算（第2号）について、原案に賛成の方の挙手を求めます。

（議長）

挙手多数です。

よって、議案第4号については、

「室井議員」

全員。

（議長）

後ろ、挙げてないんです。

「室井議員」

ちゃんと挙げてないんだ。全員。

（議長）

挙手、多、いやー

（議長）

挙手、全員でございます。よって、議案第4号については、原案のとおり可決されました。

（議長）

日程第10、議案第5号、令和5年度江差町水道事業会計補正予算（第1号）についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

「町長」

議長。

（議長）

町長。

「町長」（提案説明）

議案第5号、令和5年度江差町水道事業会計補正予算（第1号）についてでございます。

今回の補正につきましては、令和5年度中に契約行為が必要な令和6年度以後の事

業に係る債務負担行為の補正をお願いするものでございます。

具体的内容につきましては、担当課長より説明いたしますので、ご審議の上、議決いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

「建設水道課長」

建設水道課長。

(議長)

建設水道課長。

「建設水道課長」（補足説明）

はい。こちらにつきましても、私の方から補足説明申し上げます。

議案の90ページをお開き下さい。第1表、債務負担行為補正でございます。こちらにつきましても、新年度に直ちに事業を実施する必要があるものでございまして、予算の執行が可能となります4月1日以前に入札や見積り合わせ、及び契約の手続きを行うため、債務負担行為の議決をお願いするものでございます。内容でございますが、水道施設の水処理等維持管理部分委託業務につきましては、期間が令和5年度から令和8年度、自家用電気工作物保安管理委託業務につきましては、期間が令和5年度から6年度となるものでございまして、限度額につきましては、それぞれ記載のとおりでございます。

補足説明は以上となります。よろしくお願い致します。

(議長)

以上で、提案理由の説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑希望ありませんか。

（「なし」の声）

(議長)

質疑希望ありませんので、質疑を終結いたします。

お諮りします。本案については、討論を省略し、直ちに採決したいと思います、ご異議ありませんか。

（「なし」の声）

(議長)

異議なしと認め、直ちに採決いたします。

(議長)

議案第5号、令和5年度江差町水道事業会計補正予算(第1号)について原案に賛成の方の挙手を求めます。

(議長)

挙手全員であります。

よって、議案第5号については、原案のとおり可決されました。

(議長)

日程第11、議案第30号、江差町公共下水道江差・上ノ国下水道管理センターの建設工事委託に関する協定の一部を変更する協定の締結についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」(提案説明)

議案第30号、江差町公共下水道江差・上ノ国下水道管理センターの建設工事委託に関する協定の一部を変更する協定の締結についてでございます。

令和5年4月26日に議決した本協定について、事業費を変更する必要性が生じ、予定価格が5千万円以上の工事に係る請負契約の締結であることから、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定に基づき議会の議決を求めるものでございます。

契約の内容につきましては、

委 託 の 対 象：江差町公共下水道江差・上ノ国下水道管理センターの建設
工 事。

工 事 場 所：江差町字砂川411番地6

委 託 期 間：令和5年度

委 託 の 相 手 方：東京都文京区湯島2丁目31番地27号

日本下水道事業団 代表者 理事長 黒田憲司

変更前の事業費：7,288万円

変更後の事業費：6,272万円、でございます。

ご審議の上、議決いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

(議長)

以上で、提案理由の説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑希望ありませんか。

(「なし」の声)

(議長)

質疑希望ありませんので、質疑を終結いたします。

お諮りします。本案については、討論を省略し、直ちに採決したいと思いますが、ご異議ありませんか。

(「なし」の声)

(議長)

異議なしと認め、直ちに採決いたします。

(議長)

議案第30号、江差町公共下水道江差・上ノ国下水道管理センターの建設工事委託に関する協定の一部を変更する協定の締結について原案に賛成の方の挙手を求めます。

(議長)

挙手全員であります。

よって、議案第30号については、原案のとおり可決されました。

(議長)

日程第12、議案第31号、工事請負契約の締結についての議題といたします。提案理由の説明を求めます。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」(提案説明)

議案第31号、工事請負契約の締結についてでございます。

議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定に

基づき、議会の議決を求めるものでございます。

契約の内容につきましては、

契約の目的：令和5年度陣屋・円山地区町有地法面崩落防止工事

工事場所：江差町字陣屋町303番地9のうち

契約の方法：指名競争入札

契約の金額：6,875万円

契約の相手方：江差町字桧岱215番地

亀田工業株式会社 代表取締役 川合智、でございます。

ご審議の上、議決いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

(議長)

以上で、提案理由の説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑希望ありませんか。

(「なし」の声)

(議長)

質疑希望ありませんので、質疑を終結いたします。

お諮りします。本案については、討論を省略し、直ちに採決したいと思います、ご異議ありませんか。

(「なし」の声)

(議長)

異議なしと認め、直ちに採決いたします。

(議長)

議案第31号、工事請負契約の締結について、原案に賛成の方の挙手を求めます。

(議長)

挙手全員であります。

よって、議案第31号については、原案のとおり可決されました。

(議長)

次に、お手元に配布してございます、追加議事日程及び議案について、これを本日の日程に追加し、直ちに審議したいと思います、ご異議ありませんか。

(「なし」の声)

(議長)

異議なしと認めます。

したがって、本日の日程に追加し、直ちに審議することに決定いたしました。

(議長)

追加日程第1、承認第2号、江差町税条例の一部を改正する条例の専決処分の承認を求めることについて、議題といたします。

提案の理由の説明を求めます。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」(提案説明)

承認第2号、江差町税条例の一部を改正する条例の専決処分の承認を求めることについてでございます。

地方自治法第179条第1項の規定により、別紙のとおり専決処分をいたしましたので、同条第3項の規定によりこれを報告し、承認を求めるものでございます。

地方税法及び同法施行令の一部改正に伴い、令和6年2月29日に専決処分をしたものでございます。

具体的内容につきましては、担当課長より説明いたしますので、ご審議の上、承認いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

「税務課長」

税務課長。

(議長)

税務課長。

「税務課長」(補足説明)

それでは、承認第2号、江差町税条例の一部を改正する条例の専決処分の承認を求めることについての補足説明をさせていただきます。

議案書は追加議案書の(その2)の2ページから3ページ。資料につきましては、追加資料ナンバー2の1ページから2ページの、資料44の新旧対照表となります。

本改正につきましては、地方税法の一部を改正する法律などが、令和6年2月21

日に公布され、同日から施行されたことに伴い、専決処分を行ったものでございます。改正内容でございますが、本年1月1日に発生した能登半島地震の被災者の国の税制対策として、住宅や家財などの損害に応じて税負担を軽くする雑損控除について、1年前倒しして令和6年度分の個人住民税から適用対象とする特例規定が設けられたことから、一部改正するという内容でございます。

以上が、一部改正の内容となっておりますので、ご審議方、よろしくお願い致します。

(議長)

以上で、提案理由の説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑希望ありませんか。

(「なし」の声)

(議長)

質疑希望ありませんので、質疑を終結いたします。

お諮りします。本案については、討論を省略し、直ちに採決したいと思います。ご異議ありませんか。

(「なし」の声)

(議長)

異議なしと認め、直ちに採決いたします。

(議長)

承認第2号、江差町税条例の一部を改正する条例の専決処分の承認を求めることについて、原案に賛成の方の挙手を求めます。

(議長)

挙手全員であります。

よって、承認第2号については、原案のとおり承認されました。

(議長)

追加日程第2、議案第34号、工事請負契約の締結についてを議題といたします。提案理由の説明を求めます。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」(提案説明)

議案第34号、工事請負契約の締結についてでございます。

議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定に基づき、議会の議決を求めるものでございます。

契約の内容につきましては、

契約の目的：町立江差小学校エアコン設置工事

工事場所：檜山郡江差町字本町170番地

契約の方法：指名競争入札

契約の金額：6,578万円

契約の相手方：檜山郡江差町字豊川町168番地1

株式会社前田組 代表取締役 前田憲男、でございます。

ご審議の上、議決いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

(議長)

以上で、提案理由の説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑希望ありませんか。

(「なし」の声)

(議長)

質疑希望ありませんので、質疑を終結いたします。

お諮りします。本案については、討論を省略し、直ちに採決したいと思います。ご異議ありませんか。

(「なし」の声)

(議長)

異議なしと認め、直ちに採決いたします。

(議長)

議案第34号、工事請負契約の締結について、原案に賛成の方の挙手を求めます。

(議長)

挙手全員であります。

よって、議案第34号については、原案のとおり可決されました。

(議長)

追加日程第3、議案第35号、工事請負契約の締結についてを議題といたします。
提案理由の説明を求めます。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」(提案説明)

議案第35号、工事請負契約の締結についてでございます。

議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定に基づき、議会の議決を求めるものでございます。

契約の内容につきましては、

契約の目的：町立南が丘小学校・江差中学校エアコン設置工事

工事場所：檜山郡江差町字南浜町370番地及び檜山郡江差町字陣屋町
506番地

契約の方法：指名競争入札

契約の金額：7,227万円

契約の相手方：檜山郡江差町字伏木戸町634番地

株式会社田畑建設 代表取締役 田畑昌伸、でございます。

ご審議の上、議決いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

(議長)

以上で、提案理由の説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑希望ありませんか。

(「なし」の声)

(議長)

質疑希望ありませんので、質疑を終結いたします。

お諮りします。本案については、討論を省略し、直ちに採決したいと思います、ご異議ありませんか。

(「なし」の声)

(議長)

異議なしと認め、直ちに採決いたします。

(議長)

議案第35号、工事請負契約の締結について、原案に賛成の方の挙手を求めます。

(議長)

挙手全員であります。

よって、議案第35号については、原案のとおり可決されました。

(議長)

追加日程第4、議案第36号、工事請負契約の締結についてを議題といたします。
提案理由の説明を求めます。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」(提案説明)

議案第36号、工事請負契約の締結についてでございます。

令和5年6月14日に議決いただきました、旧江光ビル跡地活用拠点施設建設工事について、仕様の変更等により設計金額に変更が生じたため、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定に基づき、議会の議決を求めるものでございます。

契約の変更内容につきましては、

変更前の契約金額：2億8,820万円

変更後の契約金額：2億8,872万8千円、となるものでございます。

ご審議の上、議決いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

(議長)

以上で、提案理由の説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑希望ありませんか。

(「なし」の声)

(議長)

質疑希望ありませんので、質疑を終結いたします。

お諮りします。本案については、討論を省略し、直ちに採決したいと思いますが、ご異議ありませんか。

(「なし」の声)

(議長)

異議なしと認め、直ちに採決いたします。

(議長)

議案第36号、工事請負契約の締結について、原案に賛成の方の挙手を求めます。

(議長)

挙手全員であります。

よって、議案第36号については、原案のとおり可決されました。

(議長)

暫時休憩いたします。

11時5分まで休憩いたします。

休憩 10:55

再開 11:05

(議長)

休憩を閉じて、再開いたします。

(議長)

次に、町長から、令和6年度町政執行方針の表明について、また、教育長から令和6年度教育行政執行方針の表明について、それぞれ発言の申し出がありますので、これを許可いたします。

まず、町長の発言を許可いたします。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」（執行方針）

令和6年第1回江差町議会定例会の開会にあたり、町政執行への所信を申し上げます。

はじめに、1月1日発生 of 能登半島地震では、友好都市である珠洲市を含めた能登半島地域において多数の尊い人命が犠牲となりました。改めて町を代表してご冥福をお祈りしますとともに、ご遺族の皆様にお悔やみを申し上げます。

また、被災地では、住民の避難生活が長期化しており今もなお不安な日々が続いております。一日も早く平穏な日常が戻りますよう心からお祈りいたします。

町としましては、この間、珠洲市へ職員を派遣しながら避難所運営などの支援をはじめ、町民の皆様へ呼びかけさせていただいております義援金や災害復興を目的とした、ふるさと納税の代理受付を行っており、今後も復旧状況にしっかりと寄り添った支援に取り組んでまいります。

さて令和6年度は、令和2年度に策定した第6次江差町総合計画の前期基本計画最終年であり、かつ後期基本計画策定の年となります。

顧みますと計画のスタートと時を同じくして、新型コロナウイルス感染症の流行が始まり、以降の4年間は感染防止対策を重点としながらも、そこで生まれた住民不安の解消と地域経済の維持に向けた施策を進めてきました。新型コロナが5類となった現在、新年度はそこから更に一步踏み出し、全町民が、将来に明るい希望を持ちながら、いつまでも住みたい、住み続けたいまちづくりを進めるとともに、地域コミュニティを発展させ、賑わいと活力を創出する地域経済・産業の振興を図るべく、所信表明で掲げた施策をより具現化する予算編成としました。

令和6年度の重点施策として、住民生活の利便性と活力の向上を目指した取り組みと、再生可能エネルギーに対する取り組み、安全・安心の地域づくりを掲げながら各種事業を展開してまいります。

まずは、住民生活の利便性と活力の向上を目指した取り組みに関してです。

町交通施策として、まず、北部地区既存バス路線見直しに伴う代替交通を4月から実施します。また、これまで実証実験を重ねてきた江差マースについては、新たな公共交通サービスとして、今後早い段階で議会に運営方法と予算案をお示ししながら、今年夏ごろを目途に本格運行を開始してまいります。

旧江光ビル跡地を活用して整備を進めているコミュニティプラザえさしは、間もなく竣工します。供用開始となる6月以降、上町地区活性化の起爆剤として、また、まち全体の賑わいに波及するよう運営してまいります。

北の江の島構想の推進につきましては、現在、拠点施設に関する基本設計業務と、施設完成後の管理運営について、民間のノウハウを活用しながら効率的で魅力ある施設整備とするための調査を進めており、これらの業務完了後、公募によって、より町の方針に近い考え方を提案する企業体を選定しながら、事業の本格的なスタートにつなげる年とします。

一次産業では、農水産業とともに次代を見据えた事業を展開します。

農業では水田農業の大規模化を図る観点から、北部地区において水田の大区画化をはじめとした基盤整備事業を進めるとともに、作業の省力化・効率化を図る農業用ドローンなどの購入費補助を新設します。また、水産業では獲る漁業から育てる漁業への転換を目指し、2年目となるトラウトサーモンの養殖試験を進めてまいります。

2つ目に、再生可能エネルギーに対する取り組みです。

先般、江差町再生可能エネルギーに係るゾーニング報告書を取りまとめました。この報告書で設定したゾーニングマップについて、民意を反映し実効性を持たせるための関連条例を本年提案させていただきます。また、檜山沖で計画されている洋上風力発電事業では、昨年12月に再エネ海域利用法に基づく法定協議会の議論がスタートしました。町といたしましては、地域資源である風を活かしながら国のエネルギー政策に協力していくとともに、その計画が地域の振興策にしっかりと結びつくよう協議会へ参加してまいります。さらに、江差町地域再エネ導入マスタープランなどにおいて、公共施設を中心として2030年までに重点的に対策を講じることとし、主要な公共施設における太陽光発電の導入可能性に関する調査を実施することとしています。

3つ目は、安全・安心の地域づくりです。

町立小・中学校のエアコン設置については、順調に進めば、今年、今夏、酷暑に見舞われても児童生徒が安全に学校生活を送り、保護者が安心できる環境を整えられる見込みです。

1月の能登半島地震で、私たちは多くのことを学びその対策が急務だという認識を改めて強く持ちました。令和6年度は、携帯電話、戸別受信機などへ災害情報を伝達するための防災行政無線整備に向けた実施設計に着手するとともに、大型タンクを搭載した消防車や消防無線装置などを更新し、消防力の強化を図ってまいります。

ソフト面では、心身の状態から自ら避難することが困難な要配慮者に関して、介護や福祉に関わる事業所など地域と連携し、個別避難計画の策定を進めてまいります。

地域経済や町の活性化を図るうえで観光振興の果たす役割はとても重要です。

国内では、コロナ禍からの脱却が進む中で観光需要は回復傾向にあるものの、当町においては、それを実感できるまでには至っていない状況です。

我が町の観光は、日本遺産のストーリー・ニシンの繁栄が息づく町に代表されるように、本物の歴史や文化が今なお数多く残っていることが強みです。それら全ての礎である鷗島を中心に、現在、進めているマリンスポーツや海洋体験、各種の日本遺産事業などに取り組みながら当町の魅力を積極的に発信するとともに、江差ならではのアクティビティを体験していただけるプログラムを整えながら、来訪者に満足度の高い観光を提供することで、地域の活性化につなげてまいります。

また、江差追分全国大会については、記念すべき60回大会となります。江差追分を次世代にしっかりと継承するとともに、町民の皆様にも改めて江差追分の魅力を感じてもらえるよう取り組んでまいります。

主要観光施設である開陽丸記念館は、時代に合った展示替えと外観改修に向けた議論を加速してまいります。

さて、冒頭に触れましたように、令和6年度は第6次江差町総合計画の後期計画に着手します。策定審議会には、様々な分野でご尽力いただいております町民の方々はもちろんのこと、連携協定を締結している北海道教育大学函館校と公立はこだて未来大学からも委員に就いていただきます。特に次代において、デジタル化が江差町の住民サービスをどのように高められ、効率化につなげていけるのかなど、行政のデジタルトランスフォーメーションを追求していきます。

同じく連携協定を締結しているサツドラホールディングス株式会社との事業展開については、これまでも福祉・健康・交通など多岐に渡り、官だけでは作り上げることができない行政サービスを提供できていると実感しており、更なる連携強化を図ってまいります。

人口減少や高齢化に伴う担い手不足、国際情勢の複雑化による資材・物価高騰など、様々な要因により地域における全ての産業の低迷が顕著であり、複合的な対策を切れ目なく推進することが求められています。

農業分野では、生産力の向上と振興作物の地域ブランド化の推進を図る、豊かな産地づくり総合支援事業を継続するほか、令和6年度末には、地域の農業者や関係機関との協議を深めながら、10年後の江差町農業の在り方や農地の利用の姿を明確化した地域計画や目標地図を策定します。

次に林業分野です。

植えて、育てて、伐って、有効に活用する。限りある地球資源の中で、そのサイクルを見つめ直すことは、まさに脱炭素、SDGsへの行動です。森林環境譲与税の意義を踏まえ、檜山南部森林組合をはじめとした林業関係団体と連携を図りながら、更なる江差の森づくり、木材を活用したまちづくりを推進してまいります。

有害鳥獣対策は、増加を続けるヒグマの出没対策として、家庭菜園などへの電気柵の貸出事業やハンターによるパトロール強化、若手ハンターの育成・確保対策を強化するほか、地元猟友会、北海道や関係機関などと連携を図りながら、町民の安全安心のための対策に万全を期してまいります。

水産業については、回遊性魚種の資源変動に左右されない前浜づくりが重要な課題となっています。このためトラウトサーモン養殖試験事業に加え、エゾバフンウニの種苗放流、キタムラサキウニの移植、ナマコの簡易種苗生産や種苗放流などを引き続き実施し、根付資源の維持拡大を図ります。

商工業に目を向けます。アフターコロナの気運が高まるなか、町内のさまざまな行事が通常開催されるなど、多くのシーンで以前の日常に戻しつつあるものの、地域経済の回復は容易ではありません。地域住民の多様なニーズに応える、生活を支える街として、商店街の賑わいを創出するために、引き続き、商工会と連携を進め、がんばる商店街等応援補助や持続可能な商店街づくり事業などを進めてまいります。

当町の強みの一つは地域力です。その力を存分に活かし、特に福祉やコミュニティ

分野において、町民と行政による協働のもと、不幸ゼロのまちの実現を目指してまいります。

子どもへの投資は未来への投資を理念に、子育て世帯に対する支援の更なる拡充を図るべく、昨年度に子育て世帯の住宅新築や中古住宅購入助成制度を創設し、また、子どもの未来応援事業制度も助成対象を拡充したところであり、より多くの子育て世帯に活用していただけるよう周知徹底を図ってまいります。

また、これまで父母会で運営していた水堀学童保育所を町立化に移行するとともに、老朽化が進む水堀・日明保育園の統合に向けた協議を進め、北部地区における子育て環境を充実させます。

令和6年度から始まる第1期江差町障がい福祉プランの策定を通じ、障がいのある方が自らの決定に基づき、安心して地域で暮らせる共生社会の実現に向け、地域住民や関係機関と連携しながら取り組みを推進してまいります。

高齢者福祉に関してです。現在約40%の高齢化率は、今後更に進み、20年後には約50%と推計されており、年齢を重ねても住み良い町を目指した施策が必要です。

4月に施行する第9期江差町高齢者福祉計画・第9期江差町介護保険事業計画においても、高齢者が健康で安心して暮らせる町を基本理念として中長期的な目標を定め、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、町の実情に応じた地域包括ケアシステムの深化・推進に努めてまいります。

地域包括ケアシステムの構築には、地域の多様な人々の主体的な参画及び協働が不可欠であり、高齢者の生活を支援する体制を整備するための地域支え合い協議体やネクストイノベーションを進めてきたところです。次の段階として、地域に暮らす高齢者の身近な生活課題となる移動・買い物・食事など、より具体的な日常課題に着目しながら、地域と協働で支え合う互助活動を確立し、活躍する人々の介護予防に繋げ、展開する事業同士を連動させることで、高齢者が輝ける暮らしを持続していけるまちづくりを進めてまいります。

ハード面として、多様な福祉活動を支える町の福祉バス20人乗りについては、老朽化の現状と近年の利用実態を踏まえつつ、将来的な人口減少社会・高齢化社会を見据え、現在の40人乗りとの統合も検討の視野に入れ、30人乗りバスを新規購入します。

次に、医療と介護の連携として、ICTを活用したケースカンファレンスの定期化、専門職の資質向上を目指した医療介護連携会や、地域への専門的な支援体制の構築を目指した地域リハビリテーション活動運営委員会などを継続開催し、医療や介護が必要になっても頼れる専門職の体制構築を進めてまいります。

さらに認知症施策の推進、地域の見守り体制として、チーム江差の活動充実、配食時見守り支援、緊急通報システムの設置など、町独自の高齢者福祉サービスも充実させてまいります。

地域医療につきましては、南檜山圏域全体で持続可能な医療体制の構築に努めるとともに、民間医療機関に対する地域医療連携システム運営補助、道南ドクターヘリ及

び脳血管疾患救急搬送の救急医療体制に対する支援を継続します。また、看護職員等修学支援貸付制度の貸付金額を増額し、より魅力ある制度にすることで看護師確保に努めます。

母子保健につきましては、産後において支援が必要な母子を対象に産科医療機関へ宿泊してもらい、専門職による心身のケア、育児サポートや指導を受ける産後ケア事業を新たに実施いたします。また、不妊治療につきましては、メール相談の普及浸透を図るとともに、国が告示している先進不妊治療費も支援メニューに加えながら、子どもを望む夫婦の経済的支援を行い、安心して産み育てる環境づくりに取り組むことで、妊娠期から切れ目のない子育て支援を実施してまいります。

町民の健康づくりにつきましては、令和6年度から始まる第3期国保データヘルス計画及び第2期健康増進計画の推進、関係機関との連携による高齢者の生活習慣病及び重症化予防と健康づくりを一体的に実施し、町民の健康づくり気運の醸成、健康寿命の延伸を目指した施策を展開してまいります。

教育環境に取り組む基本姿勢についてです。

町は、令和3年に策定した江差町教育大綱で掲げている子どもたちの誰ひとり取り残さない教育行政を推進する方針を着実に実践し4年目を迎えます。教育委員会が策定した江差町教育推進計画と歩調をあわせ、目指すべき目標に向けて、地域の皆様のご理解とご協力、さらにはご意見をいただきながら、教育委員会と連携し各種の教育施策を推進してまいります。

学校教育につきましては、コロナ禍以前のような行事や活動が行えるようになりました。地域とのつながりを大切にしながら、子どもたちの笑顔溢れる教育環境の充実に努めてまいります。

社会教育や図書館活動は、各種事業や団体などの活動を通じて子どもから成人までの幅広い世代の方々に対する学習機会の確保に努めてまいります。また、社会教育施設長寿命化計画に基づき施設の適切な維持管理と利用の促進を図ってまいります。

文化財の保存活用については、開陽丸の調査を引き続き継続し、開陽丸遺跡の国史跡への指定と、開陽丸遺物の国重要文化財への指定を目指すとともに、平成29年に策定した歴史文化基本構想について、その目的の具現化に向けて、着実に歩みを進めてまいります。

道路や下水道などの社会資本につきましては、将来需要を見通しながら、効率的で計画的な維持管理に努め長寿命化を図るとともに、国、道などの関係機関と連携し安全で快適な生活環境の構築に努めてまいります。

町道では新規の道路改良工事として、公共下水道管渠新設工事と併せて、陣屋椴川線を、また五厘沢山崎線と新栄町稻荷通りを継続事業として実施するほか、日常的な維持管理に努めてまいります。

橋梁につきましては、現在進めております第3椴川橋の架け替え工事を実施し、令和6年度内の供用開始を目指してまいります。

河川の新規事業では、災害を未然に防止する観点から、豊部内川の河床低下防止工

事を実施してまいります。

都市計画事業では、令和元年度に策定した立地適正化計画について、5年毎の進捗管理を行うとともに、防災指針を新たに計画へ盛り込むほか、北の江の島拠点施設整備を見据え、都市機能誘導区域などの一部見直しも検討してまいります。

上水道事業につきましては、安全で安心な水道水を安定的に供給するため、これまで水道本管のルートが不明となっておりました円山地区の老朽管の布設工事を実施するほか、継続事業として朝日地区と新栄地区及び柳崎地区の老朽管更新工事を実施してまいります。

公共下水道事業につきましては、管渠の未普及路線整備として、新たに陣屋地区の管渠整備を2カ年計画で実施するほか、ストックマネジメント計画に基づき継続事業として下水道管理センター建物の躯体の修繕工事を進めてまいります。

港湾につきましては、港湾利用者と協議を行いながら維持・保全に努め、引き続き国の江差港本港地区国内物流ターミナル整備事業として、南ふ頭物揚げ場整備とフェリー岸壁改修を実施してまいります。

また、町有地法面の崩落防止に向けて、陣屋・円山地区での事業を継続実施するほか、鷗島の中央階段部法面崩落防止工事に着手いたします。

テレビ難視聴対策については、新栄デジタル中継局送受信機更新を行い、視聴環境の維持を図ってまいります。

令和6年度の当初予算は、引き続き中期財政運営方針と財政基盤強化に向けた取り組みを踏まえ、持続可能な財政構造を念頭に編成にあたりました。

コミュニティプラザえさしのオープンや北の江の島拠点施設整備、江差マース事業といった重点施策に加え、教育・子育て支援・福祉・健康づくりをはじめとする必要不可欠な施策に配慮しつつ、道路や橋梁、消防設備など都市インフラの適切な維持を図り、町民の安全安心を最優先とした予算配分に努めました。さらには、観光産業を基軸とした一次産業の振興、ゼロカーボンシティの具現化、自治体情報システムの標準化対応など、次を見据えた事業費も盛り込みました。

全般的に、歳出においては、経常経費・新規事業ともに緊急性・必要性を十分に精査し、限られた財源の有効活用を図る観点から、また歳入においては、適正な実質収支を目指し、国庫補助金などの特定財源の確保に努めるとともに、ふるさと応援基金などの特定目的基金も有効に活用しながらも、財政調整基金から3億円を繰入れる状況です。

急激な少子高齢化に伴う社会保障関係費の増加や公共施設の老朽化への対応、昨今の物価高騰の影響など、厳しい財政環境は、今後も続いていくことが見込まれます。そのような中であっても、町民生活に必要なサービスを安定的に提供しつつ、重要施策の推進や新たな課題に対応できるよう、町債残高の縮減など財政規律のバランスに配慮しながら持続可能な財政運営に取り組んでまいります。

なお財源対策としましては、ここ数年で成果を上げている、ふるさと納税につきまして、令和4年度の実績が初の1億円を突破し、令和5年度もPR活動の推進だけで

なく、町内事業者との連携を図りながら新たな製品の発掘を行い、目標である2億円を突破する見込みです。しっかりと安定的な歳入として確保できるよう取り組みを進めてまいります。

また、近年は企業版ふるさと納税の申し出が増えました。企業全体に制度の趣旨が浸透し地方創生の取り組みに対する支援の意識が高まっており、町独自の取り組みをアピールしながらご寄附につながる対策を強化してまいります。

その結果、令和6年度予算は、一般会計6億6,430万円、特別会計2億2,412万円、水道事業会計7億6,109千円、下水道事業会計5億6,254万1千円となったものでございます。

令和6年度は、私が町長の任に就いて丸10年となります。この間、コロナ禍やロシアによるウクライナ侵略などを経て、国内の社会情勢、経済情勢は大きく変化しました。特に国際情勢が不安定化する中、光熱費や食料品などの物価高騰が家計を直撃し、日本経済に影を落としています。要因の一つには、食糧とエネルギー燃料を海外に依存している状況にあります。

我が町江差町は、人口減少や少子高齢化という難局にありますが、農水産物の食糧や風を生かしたエネルギーを生産できる可能性の大きい地域です。令和6年度は、農業のICT化やサーモン養殖事業、檜山沖で検討されている洋上風力発電事業の推進などによって、国の課題解決に協力していくとともに、江差の強みをより一層、まちづくりに生かしていく所存です。

令和6年度も引き続き、町民の皆様、町議会議員の皆様、町内外の民間企業や団体の皆様としっかりと力を合わせて、誠実に、丁寧に、全力で町政運営にあたっていくことをお約束し、執行方針とさせていただきます。

(議長)

以上で、町長の町政執行方針の表明を終わります。

(議長)

次に、教育長の発言を許可いたします。

「教育長」

教委長。

(議長)

教育長。

「教育長」 (執行方針)

令和6年第1回江差町議会定例会の開会にあたり、江差町教育委員会の所管する教育行政の執行に関する主要な方針を申し上げます。

変化の激しい社会において、本町の持続可能な発展のためには、人づくり、地域づくりの基盤である教育の役割は極めて重要であります。

このため、子どもたちが充実した学びのプロセスを通じて、社会に出るための力をしっかりと身に付け、未来を担う人材へと成長していくことができるよう本町教育の一層の充実・発展に取り組んでいかなければなりません。また、人生100年時代にあって、町民一人ひとりが、喜びを持っていきいきと学び、活動し続けることができる生涯学習社会の構築に向け、その取り組みを加速していくことが求められています。

江差町教育委員会では、全ての教育活動において幸福の持続可能性を追求し、学校・家庭・地域・行政による連携をこれまで以上に深めながら、町民の皆さまが生涯にわたって活躍できる教育環境の充実に向け、教育行政を推進してまいります。

以下、令和6年度の学校教育、社会教育の各分野における考え方を申し上げます。

始めに学校教育の推進についてですが、江差町教育推進計画では、学校教育の目標として、ふるさと江差に心の向く教育の推進を掲げており、子どもたち一人ひとりに、特色ある教育活動を展開する中で、新たな時代を生きるために必要となる資質・能力の育成を図ることが重要です。

このため、学力向上への取り組みとして、ALTによる活きた英語の授業や、ICTを活用した楽しくわかりやすい学習機会の提供、AIドリルの活用による家庭学習習慣の定着化により、全体の学力の底上げを図ります。また、教職員のほかに、特別支援教育支援員や学習指導員による複数体制での指導を行い、子どもたちにとって、学校生活が楽しいと思える環境づくりのための事業を継続して実施します。加えて、教職員の研修参加を積極的に促し、子どもたちの指導に対する資質や能力の向上にも努め、子どもたちの興味・関心を高める、いわゆる、わかる授業の展開を図ります。

一方で、目まぐるしく変わる教育現場において、これらに対応する教職員の負担軽減を図るためにも、引き続き町において学習指導員を各校へ配置し、学校における働き方改革を着実に進めます。

いじめや不登校、或いは児童虐待といった問題への対応は、未然防止と相談体制の充実が重要であり、引き続き、指導主事及びスクールカウンセラーを配置し、子どもたちのサインを見逃さず、適切な対応を図ってまいります。あわせて、かねてより検討しておりました、いじめ防止対策推進法に基づく調査委員会設置条例につきましては、令和6年度において条例化を目指します。

児童生徒を養育する保護者の皆さまに対しても、学校給食費の無償化や、食物アレルギーのため手弁当となる児童生徒に対する給食費相当分の補助など、経済的負担の軽減を図り、安心して子どもを育てられる環境づくりを引き続き行います。

コロナ禍により様々なかたちで制限を受けてきた教育現場は、徐々にその形をコロナ禍以前のものに近づけ、あるいは発展させ、子どもたちの笑顔が戻ってきていることを実感しています。生涯にわたって健康的な身体や生活を維持・増進するためにも、生活リズムチェックシートなどを活用しながら、適切な指導を行ってまいります。

江差町教育委員会では、一人ひとりの個性を尊重しながら、子どもたちそれぞれが

持つ能力を着実に伸ばし、未来の江差を担う人財を育成するための学校運営を全力でサポートしていきます。

この間、連携協定を結ぶ北海道医療大学の指導・助言を得ながら、安心して学べる基盤がつかれるよう課題解決に向けて、義務教育9年間の連携・接続に努めてきましたが、これからは、より良くつなぎ、15の姿に責任を持ち、幼保小中の10年間という単位で子どもたちを見守り、育てていくため、教育委員会がその架け橋となって、学校や家庭、関係機関等と情報を共有するなど連携を深めてまいります。

次に社会教育の推進についてですが、社会教育は、幼児期、青少年、家庭、成人教育など、各世代が豊かで充実した人生を送るため、生涯にわたり学習する機会を提供していくことが必要です。

江差町の子どもたちは、町民の手で育むという想いのもと、みんなで育てるえさしっこ運動による青少年健全育成活動や、PTAと連携した家庭教育の推進、さらには文化会館を活用したイベントなど、子どもの健やかな成長を支える取り組みを進めます。また、幅広い世代での学びの場として、小学生向けプログラミング教室やシニアカレッジ江差学園の活動など、各世代が楽しく学習・交流ができる機会の充実に努めます。さらにコミュニティ・スクールの活動や部活動の地域移行の取り組みなど、引き続き生涯学習推進員を配置し、学校と地域の連携を支援します。

読書はこころの栄養素です。

幼児期から高齢者まで多くの町民が本に親しみ、豊かな心を育むため、図書館においては、企画展の実施や、開館時間の延長、フリースペースの開放など、更なる利用促進に向けた取り組みを積極的に展開します。

誰もが健康で元気に心豊かな生活を送るためには、スポーツや芸術・文化活動の機会の充実が必要です。道内プロスポーツ団体との連携によるスポーツ教室や、水泳、スキー授業などにおける学校との連携、スポーツ少年団等各団体の活動支援など、地域のスポーツ環境の充実に努めます。また、文化協会と連携し、各団体の活動を引き続き支援するとともに、芸術鑑賞に親しむ機会を提供します。加えて、江差町社会教育施設長寿命化計画に基づき、誰もが安心して利用できる施設の維持管理に努めます。

本町は自然や歴史の中で育まれてきた文化遺産が数多くあります。

これらの貴重な資源の価値を町民全体で共有し、後世に保存・伝承していくことが重要であり、江差町歴史文化基本構想の具現化に向け、エエ町、江差宝箱会議の取り組みを通じて、文化遺産をまちづくりに活かすための仕組みを検討します。また、文化財の保存活用については、文化財施設の適切な維持管理に努めるとともに、所蔵資料の北海道デジタルミュージアムでの公開を進めます。

開陽丸遺跡の調査については引き続き継続し、保存活用方針を検討します。あわせて、近年中に開陽丸遺跡の国史跡への指定と、開陽丸遺物の国重要文化財への指定を目指します。

結びになりますが、自分は自分の主人公。世界でただひとりの自分を創っていく責任者。この詩は、日本の教育者である東井義雄さんという方が、残された詩の一端で

す。

江差町教育委員会は、この詩にもあるとおり、誰もが有している可能性を引き出し高めていくためにも、SDGsの理念である、誰ひとり取り残さない持続可能な地域社会の実現を教育分野で実践します。

こうした考えのもと、あらゆる世代が健やかで、ふるさと江差に誇りと愛着を持ち、明るい家族の団らんと、生きがいや幸福を実感できる地域づくりに向け、全力で教育行政を推進してまいります。

町民の皆さま、町議会議員の皆さまのご支援とご協力を心からお願い申し上げます。どうもありがとうございました。

(議長)

以上で、教育行政執行方針の表明を終わります。

暫時休憩いたします。えー、1時から再開いたします。

休憩 11 : 41

再開 13 : 00

(議長)

休憩を閉じて再開いたします。

日程第13、一般質問を行います。今定例会の一般質問は、お手元に配布のとおり、7名の議員から通告がありました。通告順に従って、順次これを許可いたします。

まず、室井議員の発言を許可いたします。

「室井議員」

はい。

(議長)

室井議員。

「室井議員」

あの、ご飯食べてですね、大変、あの眠気差してるとこ、あの眠らないようなですね、厳しい質問いくかと思imasので、それなりの腹の準備しておいて下さい。

えーと、まず、最初に江差町の第6次江差町総合計画、都市計画マスタープラン及び立地適正化計画、更に公共施設の長寿命化計画などの見直し、改修などに関して、3点に視点を絞って質問させていただきます。

最初に、2020年から2029年までの10ヶ年の江差町のまちづくりの基本指針である第6次江差町総合計画、同じく都市計画マスタープラン及び立地適正化計画は、最直近の政策課題の目標を定め、更に2022年からの10ヶ年間に町有公共施

設の長寿命化改修の方向、定めた計画などがあります。

これからの計画は、各分野での成長を維持、増大させることを前提として策定されて来た傾向にありました。

しかし、近年の世界規模で多発している自然災害は、CO₂削減という緩和策だけではなく、環境課題に備えた適応策の検討と策定を行い、その取組みを推進することが重要とされており、その対応は、地方の小さな自治体にも及び、その一つが2015年の国連サミットで採決された持続可能な世界を実現するために定めた17の開発目標(SDGs)、今日、この議場の中に胸にバッチを付けた方がおります。その推進は地方創生に資するもので、当町の実情に合致する政策を推進すると第6次総合計画に明記されております。

江差町が現在、再生可能エネルギーとして検討、協議されている洋上風力発電も開発目標と関連し、環境、景観の保全と合せ、地域振興にどう寄与するべきかも検討課題とされております。

有望区域に指定されたゾーニング検討協議会が開催されておりますが、江差町にとって、何が重要で何を求めるべきか、しっかり検討され、対応を図るべきと考えますので答弁を求めます。

今は、何も決まっていないので、まだ早いという考えが先行しているのであれば、私は相当遅いと考えますので合わせて答弁を求めます。

夢のない事業であれば、最初から議論の土台に乗せるべきではないと考えますが、併せて伺いたいと思います。

次に、2020年1月に世界的に恐慌した新型コロナウイルスの感染症拡大があります。当町においても、経済活動などに大きな影響を及ぼし、その後遺症が今だに残されております。持続可能な江差町創生のためには、民間活力の最大限活用した政策転換が必要であると考えます。そのためには、現在ある計画や条例などの見直しが必要なものがあるのではないかと認識するので、今後検討するべきと考えますので所見を求めます。

この質問の最後に、昨年12月22日、厚生労働省人口問題研究所が、この先26年後の2050年の将来人口の推計を公表し、江差町を例にすると、現在人口の半数以下の46%、3,445人と推計されております。

第6次総合計画では、Uターン、Iターンなどを含めて、毎年60人の生産年齢人口を獲得し、約4,570人の総人口を目標としているが、現在の状況では相当厳しいと考えております。更に人口の半数以上が65才以上の限界自治体問題や、地域の将来を支える0才から14才人口が26年後には75.4%減少し、総数145人と驚くべき推計値が公表されております。

人口問題研究所の推計のみで全てを判断することは出来ないが、現在の計画の見直し修正、追加などの検討を思い切って行うべきと考えますが、その認識について答弁求めたいと思います。

以上。

(議長)

町長。

「町長」

室井議員の1問目のご質問にお答え致します。

初めに町総合計画などのまちづくり計画と再生可能エネルギーゾーンニング事業に関するご質問にお答えを致します。

議員ご指摘のように、近年の世界規模で多発している自然現象は、地球温暖化を起因とする気候変動の影響を大きく受けているものとされ、世界全体で平均気温上昇を抑えるための取組が進められております。日本においても2050年までに温室効果ガスの排出をゼロにする脱炭素社会の実現を目指すことが2020年の国会で宣言され、同年、町が策定した第6次総合計画においては、計画期間中の目指すべきまちの姿として誇りある暮らしを未来へつむぎ、みんなでつくる自分たちごとのまちづくりエエ町江差を掲げ、持続可能な開発目標SDGsとの調和を図るものとしています。

これらに関連して2023年3月、江差町地域再エネマスタープラン策定、6月、江差町ゼロカーボンシティ宣言、2024年2月、江差町再生可能エネルギーに係るゾーンニング報告書を取りまとめ、大型・小型風力発電及び太陽光発電を本ゾーンニングの対象としたところです。

私は、江差町は食糧や自然エネルギーを都市部に供給出来る大きな魅力ある地域で、この魅力を活かして地域の活性化を図るべきだと強く認識しております。

議員ご質問の再生可能エネルギー事業、特に洋上風力発電事業につきましては、誇りあるふるさとの暮らしが未来へつむがられるよう、基地港湾を補完する港湾として、発電機を維持管理するための現地法人等誘致と新たな雇用、産業の創出、地域企業の活用、作業員等の地域人材の育成確保などの地域振興策に加え、漁業者の確保育成に向けた漁業収入の安定化を図るための各種支援拡充、洋上で発電された電力の地域内活用、更には物流基盤の強化確立に向けた、函館江差自動車道江差木古内間をゼロカーボン道路として早期着手することなど、再エネ海域利用法に基づく法定協議会において強く要請することに加え、管内各町や漁協などで構成する檜山管内洋上風力事業推進協議会などの関係団体とも連携し、各種事業の実現に向けて尽力して参ります。

次に、時代に即した計画等の見直しに関してでございます。

議員のご質問にもありました、昨年12月に国立社会保障人口問題研究所が公表した2050年における江差町の人口が、現在よりも約半減するという厳しい数値が示されました。

また、地域経済を見ても、国内的にはコロナ禍からの脱却が進みつつありますし、町内の様々な行事が通常開催されるなど、以前の日常に戻しつつあるものの、ここ江差においては、まだ回復には至っていない状況と言えます。

そういった中で、ご質問要旨でございます、持続可能なまちづくりには、民間活力

を最大限活用すべきとの見解につきましては、私も議員と同じ認識です。町民の皆様が将来に明るい希望を持ちながら、いつまでも住み続けたいまちづくりを進めるためには、ソフト、ハードともに、民の力は不可欠であり、連携協定を締結しているサツドラホールディングス株式会社との事業展開については、官だけでは作り上げることが出来ない行政サービスを提供出来ており、今後においても新たな可能性を追求していきます。

また、今年秋には伏木戸地区に民間による宿泊施設が開業する予定であり、地域経済への好影響を期待しているところですが、今後とも江差町で新たな事業を展開したいという民間事業者からご相談がある場合は、しっかり向き合いながら支援して参りたいと考えております。

3点目に、現在の計画などの見直しや修正、追加などの検討を思い切って行うべきではとのご質問でございます。

執行方針でも申し上げましたが、令和6年度は、令和7年度から5か年間の計画期間となる第6次江差町総合計画後期基本計画の策定年度であり、各分野でご活躍頂いております町民や識者の皆様で構成する審議会で議論を積み重ねながら、積み上げながら策定して頂くこととなります。

策定の論点としましては、前期基本計画中に大きく動き出した項目、例えば洋上風力をはじめとした再生可能エネルギー関連や、サツドラホールディングス株式会社との事業展開などといったものが、新たに重点的な施策として位置づけられるものと想定されますし、以降に新しく策定される、あるいは見直し時期となる町の各種計画の議論は、町の最上位計画であるこの総合計画に則した形で進められることとなりますので、ご理解願います。

国全体が人口減少に向かっていく今日、決して右肩上がりの計画作りとはなりません。一方で、町としては国が推計した人口に、ただただ頭を抱えるのではなく、魅力あるまちづくりを推進する中で、この地域に住んでいる皆様が今以上に幸せを感じて頂き、UターンやIターンにもつながっていくような行政運営を目指して参りたいと考えておりますので、ご理解願いたいと思います。

(議長)

室井議員。

「室井議員」

はい。

えーと、再質問。1点だけですね、時間の関係もあります。議事進行に協力したいと思いますが、1点だけ質問させてもらいます。

人口減少に関してだけ。この人口減少問題ですね、決して江差町だけの問題ではありません。だからですね、私は必要以上に極端に悲観的になるべきでなく、現実をですね、しっかり直視し、問題点をしっかり把握し、視点や考え方を変えて対応してい

くっていう、そういう新しい心構えが必要になってくると思います。

ここです、人口減少なるということで、行政も議会もです、心をですよ、萎縮してどうなりますか。地方自治、本来の目的を失う可能性があります。夢をやっぱり持ってです、やっていく。これは皆、課長方も係長方も全職員がです、力を合せてやっていく。こういう考え方が必要になると思います。

そこで、ベースとなるのはです、やっぱり政策、計画、それから施設も含めて、いいですか、スクラップ、それからビルド、この考え方をです、しっかりです、肝に銘じて行うべきだと思います。スクラップはです、町民に対し、時間を掛けて低調に説明する必要があります。ビルドはです、継続してしっかりやるべきことは、継続して頑張ると。そういう考え方がです、必要になるかだと思います。私はその前提として、町民に対してです、先に不利益、犠牲はあってはなりません。ここは行政がしっかりです、分岐点を決めてやる必要があると思います。今日、執行方針、初めて読みました。私のこの次の質問を含めてです、ほとんど入っています。町長は私の考え方をどうしたのかわかりませんが、やや同じ考え入っています。だから私は町長です、駄目なものは駄目ってはっきり言います。しかし、いいものはです、全力で、ね、町長、助役のためでない、江差町民のために頑張ると、こういう気持ちを持っています。

それで、先のです、これ、1月17日の新聞に江差でセミナーあったんです。これ日本総研の主任研究員ですか、主任主席の講演があって、その前日、上ノ国で講演ありましたね。これ、まちづくり課長わかってますね。これ素晴らしい講演です。こういうことをね、やっぱり町長、助役だけ覚えてない、担当課長だけ覚えてたでしょうがない。やっぱり全課長とね、共有して江差にです、例えば絶対残したい物、少し修正して残したい物、これは無い方がいい物とかね、やっぱり皆で協議して絞っていく、それは何もね、悪いことではないと思いますけど、この辺を含めて答弁出来る範囲で結構ですので、再質問と致します。

以上。

(議長)

副町長。

「副町長」

えーと少し、もし外れてましたら、お許し頂きたいんですが、ま、人口減少問題と絡めて、いわば、まちづくりという質問です。ま、昨今の中では、ま、色んな方が人口減少問題はイコール少子化問題というふうにとらまえているところあるんですけども、ま、室井議員のこの1問目の質問と兼ね合わせて言うと、ま、あー、本当にこの1つ、江差町のターニングポイントになるのは、洋上風力が、あー、この設置されることの部分で各種計画の内容が変わってくるだろうと、まず、このように思っています。それは、あの、漁業者の振興のみならず、港湾のみならず、えー、先般、えー、

実は室井議員参加頂いたと思いますが、えー、この洋上風力、単に、ま、ちょっと、エネルギーの問題でございますけども、これで江差の地域にどれだけ新しい企業誘致を図るか。これは、漁業振興だけではなくて、建設業であったり色々な方々が束になって、この江差町の補完港になったとするならば、そこにどういった人方を住まわせるか。それから、ま、あー促進区域になったするならば、ま、その後もそうですけども、工事関係者やら色々な関係含めて、宿泊事業者含めて、ずーとずーと、ま、潤う。ただ、一過性のもではなくて、どうやって新たな企業というかそういった物をこの町に、の、振興のために持ってくるかということで、実は江差町は、江差町の思惑はございます。それから、檜山は檜山管内での一定程度の議論も進めておりますけども、そこではなかなかちょっと、いけないところがあって、これで函館渡島を含めて連携していると、こういうことでございます。ちょっと、ま、的外れるかも知れませんが、えー、先般の、21世紀の方のお声も参考にしながらですね、本当にスクラップとビルドをやっていかないとならないんで、これはくどいんですが、洋上風力というこのターニングポイントの事業含めて、きちっと切り替えをする、そういうイメージを持ってですね、まちづくりに、あの、全力を上げていきますんで、あの、議員含めて議会のご理解を頂きたいなど、このように思ってます。

以上です。

(「わかった」の声)

(「いいよ」の声)

「室井議員」

議長、いいですか。

(議長)

はい。室井議員。

「室井議員」

えーと2問目、ちょっと政策討論致します。これは、あの、考え方があるから、もし、駄目だ、駄目だとゆって下さい。でも、検討する余地が少しでもあれば、あると伝えて欲しいと思います。

旧鉄口旅館跡地、現在の江差商工会館を含む周辺地区の利用計画の検討策定について、考え方を伺いたいと思います。

当地区は、江差中心市街地の商業地域の中で、景観、立地条件など共に秀れた地区のひとつと理解しており、道道江差停車場線から中心市街地に入るラウンドマーク的な位置であると認識しております。

近年の社会情勢の変化の中で、事業所の廃業、休止、用途変更などにより、空地、空き家が存在している状況で、町民からは何か利用出来ないのか、という声も寄せら

れております。

土地利用の仕方によっては、持続可能な江差町を探る観点のひとつとして有望な地区と理解しており、利用方法を検討すべきと強く認識しておりますので、その考えについて、答弁を求めたいと思います。

また、他人の土地、財産であっても、遊休、何も使っていない施設があれば、江差町にとって、必要であるという強い意識と認識があれば、その方向へ積極的に導く最大限の努力をしなければならないと思います。

その観点からも、皆さんのお手元に別紙参考資料1を配布しておりますので、ご覧になってもらいたいと思います。

例えば、その参考資料によると、総面積約4,570㎡、1,385坪で、土地所有者区分をみると、江差町が全体の18%、国が20%占めており、江差町へ進出された企業が取得している480坪を含めると、全体で約3,300㎡、75%を占めます。

第1問の質問で、私は今後、思い切ったスクラップ、思い切ったビルドの考え方が必要であると提案しております。

この地区の有望性を考慮し、持続可能な江差町を創るひとつの可能性を求め、土地利用の検討、策定を図るべきと考えますので、答弁を求めたいと思います。

(議長)

町長。

「町長」

室井議員からのご質問の2問目にお答えを致します。

議員が参考資料1でお示しされた箇所につきましては、民地が含まれていること、また、町有地でも江差商工会事務所施設がございますので、総論的なご答弁となりますことをご理解願いたいと思います。

まず、当該地並びに近隣地について、登載されている町の主な計画について整理しておきます。

第6次総合計画では、土地利用の施策における基本方針として、民間活力の活用を図りながら空き地などを活用し、公共性と市場性、経済性を意識した、まちなかのマネジメントを進め、エリアの価値向上につなげる取り組みの推進を示していますし、商工業施策においても、空洞化が進む中心市街地及び商店街の活性化が重点施策として位置付けられています。

次に、江差町立地適正化計画では、市街地の形成に関する基本方針において、お示しされた箇所を含め、上町賑わい中心拠点とし、新たな起業、商業施設等の誘導による賑わいの再生を目指すとしています。

このように、どちらの計画においても示されているのは民への期待です。当該地は、国道から上町地区に通じる主要な道路に面した上、ある程度の面積も備えており一体

的な利活用が可能であることから、町と致しましても、民間企業から相談がございましたら、しっかり対応して参りたいと考えております。

一方で、令和6年度は、上町地区賑わいの拠点として旧江光ビル跡地に整備している、コミュニティプラザえさしの供用を開始する年です。

まずは、施設を中心としてまちなかに人が集まり滞在、散策することで経済の活性化へつなげていくことに、当面は力点を置きながら中心市街地の活性化を目指して参ります。

加えて一問目でご答弁申し上げましたとおり、令和6年度はこれら計画の見直しの時期になりますので、策定審議会の中で議員のご質問内容につきましても、共有を図りながら上町全体がどうあるべきか、民間と行政がどういった役割を担うべきかをご議論頂いた上で、必要であれば、個別の計画についての検討も進めて参りますのでご理解願いたいと思います。

「室井議員」

いいですか。

(議長)

室井議員。

「室井議員」

えーと、再質問、1点だけに絞って質問させていただきます。

平成10年3月にですね、現在の道立江差病院が円山町から伏木戸地区へ移転、供用されてから約25年が経過されます。

当時は、今日の伏木戸、柳崎地区の反映された姿を想像された方は、少ないのではないかと思います。

まちづくりは、施設の大小問わず、土地、立地場所との相関関係が言うまでもなく、極めて大きいと考えます。

今回、上町地区の活性化、江差らしい空間、景観の保持、創出なども面から、橋本町の一角を例として、土地利用計画の必要性があると提案致しました。

この地区は、利用性によっては、極めて優れていると、私は認識しております。私は、令和4年第1回定例会の一般質問で、用途地域の見直しを図るべきと提案しておりますが、何か検討された動きがあれば、答弁を求めたいと思います。

別紙参考資料2をご覧になって頂きたいと思います。宜しいですか、皆さん。この中ですね、これは用途地域なんです。ね、この中の赤くなってる部分、これは商業地域で、準防火地域という指定がされております。ちょうど、この赤のど真ん中に、今、コミュニティプラザが建設されております。準防火地域に木造建築を建てる、大幅な防火規制が掛かり、建設費の高騰に繋がっております。参考までに、設計費や備品など、約3,800万円を除くと、坪当たり、坪当たりですよ、畳2枚、270万、超

高級ホテル並みです。つまり、何を言いたいかというと、この地域の、ね、用途地域を変えていかないと、もう中心市街地に、家、建てれないよ。店、やれないよ。そういうことをちゃんとわかっているってやってもらいたいと思います。コンパクトシティ目指すなら、この検討もやっていかなきゃならないと思います。それと、約50年前、この地域指定、人口1万4,500人の時にですね、作った用途地域指定です。皆さん、どうお伺いしますか。私は、建設課長はですね、今回、凄い工事費、建設課に絡む工事費いっぱい上げてですね、ハードな部分を補っていくっていう、そういう意識が、ちゃんと感じておりますよ。少し、一段落したらですね、この用途地域、これは、まちづくりなんですよ。何もね、まちづくり推進課がですね、建物の壁をああしてけれ、窓をどうしてけれ、そんなことをやるのがまちづくり推進課の役割でない。これは、私は、厳しく見ていくよ、残り任期で。まちづくり推進課はですね、まち全体をどうする、どうしたら江差の町民がコンパクトシティを目指して集まってくれるんだと。そういう表から責めなきゃ駄目だと思いますけど、この辺についても、ついて、答弁出来る範囲で結構ですから、副町長が答弁するの、それとも担当課長、あ、副町長がいいね。どっちでもいいです。2人で答弁して下さい。

はい。

(議長)

副町長。

「建設水道課長」

建設水道課長。

(議長)

建設水道課長。

「建設水道課長」

室井議員から、用途地域に見直しの関係についてですね、ご質問頂きましたんで、私の方から、あー、事務担当としてのご答弁を申し上げたいと思います。あの、ただ今、ございましたように、令和4年の第1回3月定例会においてですね、質問を頂きましたことはですね、私も十分記憶してございまして、ま、その時にもご答弁申し上げたとおり、見直しの必要性、いわゆる50年近く経っている用途地域ですから、必要性ということは十分認識しているところでございます。ま、この間、あの、道の都市計画の担当部局ともですね、えー、今後の進め方であるとか、あるいは、ま、手続き手順について、下打ち合わせというか、協議をさせて頂いているところでございますし、それから、見直しに当たっての参考見積何かもですね、既に徴取しているところでございます。あの、以前から指摘されている内容からしますと、期間についてもそれ相応に2年3年程度、掛かるものと、ま、認識しておりますけども、あの一、今

の現状の課題であるとか、それか今後のまちづくりを見据えた中ですね、あの一、着実に取り組んでいかなければならないというふうに考えてございます。えー、あ、見直しに当たってはですね、マスタープラン、あるいは、立地適正化計画の整合も必要になりますので、今後のこれらの計画の見直し時期のスケジュールもですね、十分頭に入れながら、着手して参りたいというふうに考えてございますので、ご理解願えればというふうに思います。

「室井議員」

すぐ終わる。いいですか。

(議長)

室井議員。

「室井議員」

はい、あの一、課長ですね、やはりね、役場のね、中っていうのは行政っていうのは、色んな仕事がいっぱいあります。やりたくてもやれないこともあります。私の経験上は、そうでした。だからですね、ま、町内にいるややそういう専門に近い方とか、今、方ですね、知識も変える。仲間に入って検討してもらおう。これからそうやってお互いに、やっていくべきではないですか。そういうふうに思いますので、この辺は、副町長がちゃんと、リードしなきゃ駄目だよ。ちゃんと出来ますか。ちゃんと考えて下さい。

(議長)

副町長。

「副町長」

えーと用途地域の変更、えー、問題意識として持っているだけではなくて、ま、一言だけ言うと、色んなものある中で、今年度の予算の配分については、ちょっと、ま、ためらったというのもあるということです。でも、もう、直近の中で必要性は認識してございますんで、そういった中で、あの、十分あの一、事務方だけではなくて、我々も問題意識として強く持っている、以上でございます。

はい。

(議長)

以上で、室井議員の一般質問を終わります。

(議長)

次に、出崎議員の発言を許可致します。

「出崎議員」

はい。

(議長)

出崎議員。

「出崎議員」

えーと、私からは、2問、質問致します。

えー、1問目、江差港の長期構想見直しについて伺います。

能登で大きな地震が発生しました。現地に行って、派遣されて色々お手伝いした職員の皆さん、お疲れ様でした。

えー、能登半島における地震は、日本千島海溝地震災害に備えている渡島半島の太平洋側沿岸市町村の震災対策においても教訓を伝えております。

お配りしている資料1の図の赤い部分がですね、今現在、国の方でもですね、対策、資本投下して対策を立てている地域になります。

えー日本海側にある江差町は、もちろんこの津波避難対策特別強化地域には含まれていませんが、渡島半島全体を考えた時、振興局の所在地である、そして檜山の盟主として、渡島半島太平洋側の被災時に復興支援を担わざるを得ないと考えています。そのために半島の道路網と江差港の整備が必要だと思っております。

また、現在進められている檜山沖洋上風力事業のゾーニングにおいては、海域の多くが調整エリアとなることが想定されています。

そこで、防災支援機能の拡充及び将来の調整エリアの対応のため、総合計画の継続施策と位置付けられている江差港長期構想の見直しに着手する考えはないか伺います。

(議長)

町長。

「町長」

出崎議員からの1問目、江差港の長期構想見直しについてのご質問にお答えを致します。

まず、能登半島地震の教訓を踏まえた渡島半島太平洋側が被災した場合の復興等の支援を担う江差港と半島道路網の整備の必要性についてでございます。

令和5年第1回定例会における出崎議員からの一般質問でもご答弁申し上げておりますが、国におきましては、港を活用した災害対応支援として、港の機能を最大限活用した災害対応のための物流、人流ネットワークを命のみならずネットワークと名付け、船舶を活用した防災訓練の実施などの取組を通じて、ネットワークの形成を進めていくこととしております。町と致しましては、まずは、こうした国の動きと連携を

図って参りたいと考えております。

また、半島道路網整備についてですが、道南地域における商工業品や農水産物の輸送機能の向上はもとより、災害時における代替避難ルートの確保、高次医療施設への搬送時間の短縮などを図る観点から、現在、函館空港から木古内町まで開通している函館江差自動車道の早期延伸を実現する必要があります。

早期事業化に向けた取り組みとして、平成27年6月、江差町長である私が会長として先頭に立ちながら、檜山管内の官民と木古内町、木古内町議会など45団体で構成する、函館江差自動車道木古内江差間整備促進協議会を設立し、当該区間が早期に事業化されるよう、要請運動に力を入れていますので、江差町議会におかれましてもご協力賜りますよう宜しくお願い致します。

次に、洋上風力発電のゾーニングマップにおいて調整エリアとなる海域への対応についてでございます。

江差町再生可能エネルギーゾーニング検討協議会において、協議の結果を踏まえて、ゾーニングマップ及び環境配慮事項等についての整理を行い、報告書として取りまとめたところですが、洋上については、かもめ島周辺を含めた景観の保全を図るとし、港湾区域の範囲を保全エリアとする方向性が示されており、エリアの設定が今後の港湾整備に影響を及ぼすことはないものと考えております。

一方で、洋上風力が事業化された場合、江差港は洋上風力発電における基地港湾を補完する港湾、あるいは、運用維持管理の拠点として活用されることも想定しております。今後、道内の基地港湾の指定や洋上風力の事業化に動きがあった段階で、協議が進むものと考えておりますので、ご理解願います。

最後に、江差港長期構想の見直しについてでございますが、江差港長期構想は平成3年に策定し、平成22年を目標年次とした江差港の長期整備構想で、平成13年度に構想計画の見直しを行っております。既に目標年次が経過していること、計画内容が変更となっていることなど、見直し等を図る必要があると考えておりますが、北の江の島構想や洋上風力発電事業におけるメンテナンスの補完港として活用の見通し等を踏まえて、検討して参りたいと考えておりますのでご理解願いたいと思います。

「出崎議員」

はい。

(議長)

出崎議員。

「出崎議員」

ま、今の点について、ちょっと、再質問させていただきます。あの一、ま、去年の3月のえ一、議会でも、この江差港の見直しについては、言及しました。

で、え一、え一と国のですね、あの、命のみなどネットワークですか、このちょっ

と私調べてみたんですが、ま、色々事例は載ってます。だけど、これ江差町から何かその面でアプローチはしているんでしょうか。あの、はっきり言えばですね、太平洋側、特にこの渡島半島の基幹都市である函館がですね、被災した時、その復旧復興に江差港からの支援が必要になるということなんです。で、能登半島のケースで見られるように、渡島半島全体の復興支援体制を強靱にするためには、日本海側の江差港に復興支援機能を備えておくことが必要だと私は思ってます。その機能の整備は、ほとんど、北海道や、えー国の仕事になるでしょうが、地元江差としてですね、港の整備構想にしっかりと位置付けて、上級官庁との協議に望む必要があるというふうに考えています。

ちょっと、あの、お配りした資料の2の、えー、見て頂ければと思いますが、F18断層というのが、これが、あの、奥尻島と江差町の間、特にかなりですね、近い檜山海岸の方にあります。これを起因とする地震、津波はですね、最大マグニチュード7.7、それからF17断層、こちらの起因とする地震では、マグニチュード7.8、震度7クラスが想定されています。で、あの、能登地震はマグニチュード同じように7.6です。それから、阪神淡路で7.3、0.3違っただけで、マグニチュードのエネルギーは2倍になります。それクラスの、能登クラスですね、大きな地震が想定されています。ま、その時にはですね、江差も太平洋側から助けてもらわなければなりません。道路網と江差港の整備が必須だと、私は考えています。日本海側が太平洋側と同じように対策強化地域と位置付けられるにはですね、もう少し時間が掛かるように聞いています。今、南の方からやってきているというふうに聞いて、能登半島まで、まだ、届いていなかったんですね、見直しが。だから、太平洋側はこういうふうに赤く、もう強化地域で指定されるんだけど、日本海側がこれから江差港の方まで、北海道までくるには、まだ、かなり時間が掛かるようです。ま、そして、江差港の整備についてもですね、えー時間を要することでしょうから、出来るだけ早くですね、整備構想の見直しに着手して、それに備えておく必要があると思うんですが、その点、如何でしょうか。

(議長)

副町長。

「副町長」

あの一出崎議員の再質問、えーと、命のみなとネットワークへの、今の絡みでのアプローチは特にしていません。ただし、いま、我々も、ま、気付いた点として、ま、すべて洋上風力を、あの原因者にする訳ではございませんけども、えー、まず、この洋上風力の基地局の補完港になることでのこの港湾の、ま、整備促進が少なからず、まず近道とすれば、諮りたいなど。

それから2つ目は、今の能登半島の、いわば、半島道路のこの地震災害の時の1本道路の怖さ、これがまさしく渡島半島においても、この江差含めてですね、仮に海岸

沿いに国道1本しかと通っていない訳でございますから、接道となると柳崎であったり、上ノ国の道道との接道しかございません。そういう意味で、えー、町長も、あの一、高規格道路に、今度、話変わりますけども、ま、協議会の会長もしてございますけども、江差自動車道の渡島と檜山を結ぶこの道路の意味合いというのは、今まで以上に洋上風力の絡み、それから、この能登半島の地震による半島道路1本の怖さ、これらをですね、改めて付加した状況で、いわば、国に含めてですね、強い要請をまた、して参りたいと、このように思っております。

今現時点での答弁は、その程度になりますけど、宜しくお願いします。はい。

(議長)

宜しいですか。

「出崎議員」

はい。

(議長)

出崎議員。

「出崎議員」

はい。あの一、回答ありがとうございました。

えーと、ま、道路網の方は何となく、こう、イメージ出来るんですが、港の方についてですね、なかなか着手、その洋上風力以外の部分でなかなか手が付いていないのかという気がしたものですから、お聞きしました。

で、えーと、次、2番目に入らせてもらいます。

えー、2問目。江差北小中学校の垂直避難について、お伺いします。

江差北小中学校は、津波発生時の避難所に指定されています。現在、消防との話で垂直避難を前提に訓練が行われています。想定している厚沢部川河口部での最大遡上高は、これは、あの一、F18、先程のF18の地震が起きた場合の想定なんですけども、高さ15.64m、それから第1波到達時間が8分であます。ですから、あの一、2階への垂直避難、これは、ま、逃げる時間、そんなにないんですから、やむを得ないと、ま、思っています。

ただあの、存校舎内の中です、大規模な改築じゃなくて、既存校舎の中で階上増設について調査、検討出来ないものか伺います。

(議長)

町長。

「町長」

出崎議員からの津波発生時の垂直避難に関するご質問にお答え致します。

北海道日本海沿岸における津波浸水想定に関しましては、平成29年に北海道から公表され、議員ご指摘のとおり厚沢部川河口部における最大遡上高15.46mなど、町内4か所の想定値が示されています。

町ではこれらの公表値を基に令和4年3月に江差町防災ハザードマップを作成しており、ご質問の江差北小中学校につきましては、厚沢部川河口部などとは違い津波の浸水想定区域には含まれていないことから、避難所に指定しているところです。

現在、北海道防災会議のワーキンググループにおいて、日本海沿岸に関する議論が重ねられておりますが、道路や建物などの被害想定を検討しているもので、浸水想定区域の変更ではないことから、津波に関する避難所としての江差北小中学校への影響が想定されないため、ご質問にある既存校舎内の階上増設については、現時点では考えておりませんので、ご理解願いたいと思います。

「出崎議員」

はい。

(議長)

出崎議員。

「出崎議員」

再質問、行います。

ま、あの、北海道のシュミレーション結果だと、あの津波の基準水位は、あの辺は国道の手前まで、標高4.7mの北小中学校では、えー、津波が到達しないということになっているのはわかります。今の回答でですね、えー、道の見直しによっても、そのシュミレーション自体は、ま、やらないということなのように聞こえました。

ただ、自分はですね、あそこで津波警報出たら、決して学校へは避難しません。山の方へ車で逃げます。ま、私は、江差に戻る前の2年、復興庁からの派遣で気仙沼市で復興事業に従事してきましたが、市内の海に近い4階建ての高校で、これ4階建ての高校なんです、あの、4階のフロアの25センチまで、上まで、水位が上がったのを見てます。それから、ちょっと、その南側の山元町という所があるんですが、それは、小学校の2階の天井まで津波が水が上がっています。あの、ま、気仙沼市のは、海から100メートルくらいしか離れていません。それから、山元町の方で500メートルくらいですかね、で、あそこの今の水堀のある北小中学校は、海岸からだとも1キロくらい離れています。中に松林もあったりしてですね、真っすぐは来ないかも知れません。だけど、あの、厚沢部川の支流の鮫川が学校の近く200メートルまで来てます。で、これ、津波の想定についてはですね、これ北海道のシュミレーション、どんなデータ入ってるか、ちょっと自分、確認出来てないんですが、よく、あの、

川を伝ってくることが言われています。あの一、シュミレーションとおりに、なかなかいかないことも多くあります。ま、自分がですね、山に逃げて、子供達を学校に留めておいて、ま、そういうことについて、どうも忍びない思いがします。気休めかも知れませんが、2階のですね、更に上に避難出来る場所があれば、少しは安心出来るのかなというふうに思ってます。えーと、あそこは、学校は屋上もないし、ま、えー、お金も掛かることも考えると、そういう今の施設の中でですね、中三階で、何でも、どっかもう一段高いところがあればですね、えー、子供達も安心するんじゃないかと、それをですね、やっぱり専門家の建築士に見てもらって、その可能性を探って欲しいということが、あの、質問の前提です。実際の工事着手となるとですね、なかなか予算措置が、このいわゆる地域の指定されないとなつてですね、なかなかお金回ってこないと思うんですが、ま、調査、その可能性があるかないかの調査くらい着手出来ないものでしょうか、伺います。

「総務課長」

総務課長。

(議長)

総務課長。

「総務課長」

えー、ただ今のご質問にお答え致します。

えー、地震想定としますと、先程、町長答弁させて頂きましたように、浸水想定区域には入っていないと。今、現在、北海道のワーキンググループにおいてもその浸水想定区域の変更ではなく、被害想定ということでのご答弁をさせて頂きました。

ま、議員から万が一に備えて、そういった対策を講ずるべきではないかと、せめて調査、検討すべきではないかということの、2問目のご質問だったかと思えます。私もとしますと、例えば、学校施設を改築、まあ手を加えるとした場合にどういった財源措置があるのか、というところの検討はさせて頂いている状況にはあります。ただ、現状において、えー江差北小中学校に限らず、浸水想定がされ得る区域における対策というのも、町全体として考える立場にある中においては、まずは、そういった想定区域となる部分が、まずは優先させる区域かなというふうに考えておりますし、また、今後のワーキンググループ等の議論の経過を踏まえて、浸水想定区域が変わるような事態が生じるようであれば、その辺につきましては、検討項目というふうにさせて頂きたいと考えております。

以上です。

(議長)

出崎議員。

「出崎議員」

再々質問で、あの一、そうすると、なかなか、道からのそのシュミレーション結果の見直しが起きないとなかなか着手出来ないという回答になってしまうんだけど、そういうお考えでしょうか。

「総務課長」

総務課長。

(議長)

総務課長。

「総務課長」

はい。現時点でにおいては、ご理解頂いた内容で宜しいかと思えます。
以上です。

(議長)

以上で、出崎議員の一般質問を終わります。

(議長)

次に、増永議員の発言を許可致します。

「増永議員」

はい。

(議長)

増永議員。

「増永議員」

えーそれでは、私の方から質問させていただきます。

1 番目として、江光ビル跡地の建設施設の借金についてということで、ご質問致します。

これは、昨年12月に行われました第4回の定例会一般質問で、中期、中長期財政運営計画、令和4年度から令和8年度の再質問において、答弁漏れがあったので、改めて質問致します。

江光ビル跡地の建設施設の借金について、15年計画で返済となっております。その15年間、町長も、町民として私達と一緒に返済する意向があるのかお伺い致します。

一緒に返済するか、しないかで、ご答弁をお願い致します。

(議長)

町長。

「町長」

増永議員からの1問目、江光ビル跡地の建設資金の借入金についてのご答弁にお答え申し上げます。

まず、町民に誤解を与えてはいけませんので、施設整備にあたっての財源を少しかみ砕いて説明させていただきます。

旧江光ビル跡地活用拠点施設は、国のデジタル田園都市国家構想交付金、地方創生拠点整備タイプの内示を受け、建設工事費の2分の1が交付される予定です。

その残り2分の1を過疎対策事業債として借入する予定となっております。

増永議員の令和5年第4回定例会議事録を確認させていただきました。一般質問での再質問で、年間2千万円、15年計画で返済とのご発言がございましたが、少しそこには年数に関する誤解がございます。

建設工事に係る過疎債の返済期間は12年間です。

また、当該事業に係る元利償還額は、平均すると年間1,430万円の額となり、かつそのうち7割が普通交付税で措置されます。従いまして、町として持ち出す一般財源は、年間約430万円ということになります。

ご質問の点についてですが、町民として、そして町長として、町のために出来ることをこれまでも、そして、これからも、責任を持って着実に進めていく所存でございます。

「増永議員」

はい。議長。

(議長)

増永議員。

「増永議員」

ですから、その400万のお金を我々町民として、一緒に町長さん、お支払いするんですかって、僕、さっき、質問したんですよ。するかしないかの返答だけで、宜しいのでお願いします。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」

えー繰り返しになりますが、これまでも、これからも、町民として、町長として、責任を持ってまちづくりを推進していくという所存でございますので、ご理解願いたいと思います。

「増永議員」

はい。

じゃ、責任を持って・・・。

(議長)

増永議員。

「増永議員」

はい。

責任を持って、じゃ借金を払っていくというふうに、意向で宜しいんですね。

私は、そういうふうに理解しました。あとは、どういう方が、どういう形で、受け入れるかは別問として、私はそういうふうに理解しました。

それでは、2番目にいきます。

公式文書や書類等の印鑑省略について、ご質問致します。

えー今は、あの、国、道では、公式文書や書類等の印鑑省略を進めておりますが、江差町として具体的に印鑑省略をどのように進めているかをお伺い致します。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」

増永議員からの公文書等の印鑑省略に関するご質問にお答え致します。

議員が資料添付されてますように、新型コロナウイルス感染症への対応が求められる中、令和2年7月に地方公共団体における書面規制、押印、対面規制の見直しに関しに関して、総務省自治行政局長から都道府県知事及び指定都市市長への通知がなされ、同年12月には地方公共団体における押印見直しマニュアルが内閣府から示されております。

押印の見直しは、押印をなくすことが目的ではなく、行政手続きにおける国民の負担を軽減し、利便性を高めることが目的で、その先のオンライン化、デジタル化への第一歩であるとされておりますが、現段階において、当町では具体的な検討には至っておりません。

印鑑省略に限らず、住民の利便性、行政の効率化を図ることが必要不可欠でありますので、今後、検討を進めて参りたいと考えております。

「増永議員」

はい。

(議長)

増永議員。

「増永議員」

それでは、今の答弁でいくと、これからなんですね。これから進めていくってことですよね。でも、皆さん、資料2の1、見て下さい。先程、町長さんゆわれたとおり、案内はですね、令和2年7月7日ですよ。もう3年8か月が経っているんですよ。それを今からやるんですか。ちょっと、それ遅くないですか。そして、今、町長さんが言われたとおり、印鑑を省略することによって、これ、町民への住民サービスなんですよ。作業の軽減化、それともう1つ大事なものは、役場内の行政の効率化も図るってことなんですよ。いいですか、町長さん。じえんこをバラ撒いて、町民に配ることも大事かも知れません。で、施設を作ることも大事かも知れません。それも住民サービスかも知れません。でも、じえんこの掛からないこういうサービスもあるんですよ。それを3年8か月、投げたんですよ。そして、2の2の2を見て下さい。ここには、えー、公共、ううー、地方公共団体における押印見直しマニュアル、内閣府で出しているものです。ここの2の2の2、アンダーライン引いているとこ、見て下さい。どうしても残さなければならぬ手続きを除き、速やかに押印を見直すという考えのもと、押印の見直しが強力に推進した結果、民間から行政への手続きの99.4%廃止、又廃止の方向になって特に認印については、全て廃止になる見込みとなりました、って出てんですよ。これ、すごい大事なことだと思うんですよ。このことを踏まえて、申し訳ないんですけども、これからやるんじゃないかって、明日から直ぐやって下さいよ。町民サービスのじえんこの掛からない、直ぐやって下さい。金掛かる訳でないですから。すいません、それじゃ、いつやるか、教えて下さい。

「総務課長」

総務課長。

(議長)

総務課長。

「総務課長」

ただ今のご質問にお答え致します。

3年8か月投げていたと、というようなご発言がございました。実際、私どもは、通知を受け取ってから、内部としてどういった方針を立てるべきかということは、それは、内部として、課としての検討は進めてございます。ただし、この押印に関しましては、町全体、役場庁舎のみならず、行政サービス全体に係わる検討事項ということで、ことになりますので、そういう意味では全町的な取組、検討が出来ていないというのが現実でございます。それがまず、1点。

2点目。国のマニュアルにおいて、先程、下線部分のご説明がございました。文字通りありますように、コロナ禍において、国では、強力にこの見直しを図って行ったというような前触れがございました。実際、私どももこのコロナ禍において、この押印を最優先出来たかということ、残念ながらそこは、出来なかったという状況にございます。

いずれにしましても、先程、答弁させて頂いておりますように、この見直しというのは、必要な行政サービスであるという認識を持ってございますので、検討を進めさせて頂きたいと思っております。

「増永議員」

はい。

(議長)

増永議員。

「増永議員」

はい。えーそれでは、あの課長さん、是非ですね、あのそれを、いち早く全町として対策を考えて頂きたいと思っております。確かに課で相談、相談してやってたかも知れないですけども、それは外に見えてこなければ、やってないのと同じように見えますので、ま、形になるような形でこれを進めて頂きたいと思っております。それは、町民は望んでると思っておりますので、宜しくお願い致します。

ちなみにですね、こちらの方の、あの一状況はですね、えー一道に確認しましたら、小樽市と中標津町が進めております。で、小樽市は、もう間もなく始めるらしいです。そういった情報もありますので、是非、早目にただの住民サービスが出来るので、お願い致します。

はい。次、3番目いきます。

えー、江差町の公用車についてです。えー、令和5年第4回定例会一般質問において、江差町の公用車について、えー、公用車が多いと質問した際に、3台分について

は、リース契約終了後に公用車を減らすと答弁がありましたが、今でも変わりませんか。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」

増永議員の3問目のご質問、江差町の公用車についてのご質問にお答え致します。

えー、少し確認も含めた答弁とさせていただきますが、ご質問の要旨にある3台分についてはリース契約満了後に減らすという答弁につきましては、12月定例会の再質問で増永議員から、聞いたところによれば、リース期間が満了する前に車を返すことも出来るのだが、出来るとのことだがどうか。という内容に対して、担当課長よりお答えしたものであります。

その答弁の前段では、担当課長からリース契約の解約は原則的に禁止されているという指摘があることと、リース会社との信用関係の元で成り立っている本契約において、町の一方的な都合のみを理由として相手側に迷惑をかけてまで取る方法は厳に慎むべきであるといった内容をお答えしたところであり、現在においてもその考えに変わりはありません。

前回の答弁と重なりますが、引き続き運行状況等を踏まえた適切な配置台数の見直しに努めて参ります。

「増永議員」

はい。

(議長)

増永議員。

「増永議員」

はい。えー、じゃー変わらないってことですよね。それで、まあ、リース契約原則禁止って言葉も、これも疑問符ですし、慎むべきではないかというのも疑問符なんです。というのは、次の俺の資料の3の2の1見て下さい。これは、リース契約の契約書です。ニッサンセレナ函、函館5000ひ2329。これのですね、3の2の3、の19条、下線引いてる部分。必要があるときは、この契約を解除することが出来る。そして②、損害を生じさせたときは、その損害を賠償しなければならない。これが、私が12月に言ったリース契約を解約した場合に、リース契約の残高と車両本体価格

との差額分が出れば、それをお支払いすれば契約は出来るという条件のもとです。そしてこれは、3台分とも同じ内容で書いています。

僕はこの契約書を持ってリース会社を回りました。各ディーラーさんに、これ江差町の契約書、これに伴って解約した場合、これは違法なんですか。あなた方断るんですか。聞きました。そしたらいや、これは合法です。契約書に載ってるんでこれは出来ますよって言ってるんですよ。

それともう一つ、いいですか。この3台分がこの今、来年、あ、来月の令和6年の4月から契約が終わるまで、おいくらお支払いするか町長さんご理解してますか。僕計算しましたよ。セレナ2329、えー、リース契約538,560円、保険料44,330円。ホンダ4872、リース契約268,950円、保険料47,450円。セレナ2430、リース契約559,680円、保険料44,330円。

トータルいくら。1,503,300円ですよ。150万だよ。これ一般家庭で考えてみてくださいよ。あなた方自宅のさあーあ、無駄な車あったらすぐ止めないがい。役場がいいの、これ、して、こういうの。まあいい、とりあえず、やらない、あの一、リース契約は終了し、あの一、するまでやらないということでもいいですね、わかりました。次行きます。

4番目行きます。

江差、あの一、町長の公用車も同じく、同じような答弁でありました。えーこれは、えー副町長さんが答えておりますが、一番最後の最後に答えています。えー、如何に削減できるか、町長公用車の今のグレードですね、そういったこと考えます。リース終了後ですよ、終了後。終了する前に出来るでしょ。で、これも同じく契約書がついております。で、同じくこれも確認しました。合法ですね、違法ではありません。信頼関係がどうのこうの、商業、商業ベース上における商業の道徳的な感覚で合法ですよ、違法じゃないです。信頼関係失う訳ではないですよ。そういうことが、ちゃんと乗っかってんですよ。それでも町長さんのお車も、あれですか。リース終わるまで考えないんですか。ご答弁お願いします。

(議長)

増永議員。今の4問目の答えでいいんですか。

「増永議員」

はい。4問目でいいです。

(議長)

はい。町長。

「町長」

只今のご質問にお答え致します。

昨年の第4回定例会一般質問において、町長公用車の必要性に関する質疑において、令和8年度までのリース期間の使用をご答弁しておりますが、現在もその考えに変わりはございません。

「増永議員」

はい。

(議長)

増永議員。

「増永議員」

はい。えーそれではですね。今あのトヨタアルファード、こちらをですね、2年間なるんです、終了するまでに。そしたらこれがですね、年間リース代と保険料入れたら167万1,354円掛かるんです。すると、ま、先程の、うーと3問目の質問と、ちょっと重複しますが、これですね、今、町の3台と町長さんのお車を足すと、おいくらになるかご存じですか。317万4,654円も掛かるですよ。こんな無駄遣いしていませんか。それでもまだあれですか、リース契約を続けるつもりですか。ご答弁お願いします。

「財政課長」

財政課長。

(議長)

財政課長。

「財政課長」

えーと、そうしたらですね、今あの一、町長公用車、まあ契約ということについて、事務手続き的なことですね、私の立場の方で、えー3問目、4問目少し絡みの答弁になりますが、お答えをさせていただきます。

えーあの一、ま、増永議員からですね、金額的な話という観点でも質問が3問目4問目でもございました。それと、その解約することが違法じゃなくて合法だよという話でもございました。まあ、そこら辺も絡めての答弁ということになります。

まずあのリース契約の途中の解除というのは、原則的に禁止されていると、私こういう風に12月定例会でも言いましたし、今も言います。違法か合法・適法かということは一言も言っておりません。ですので、あの一、適法だという解釈があるのであれば、そのとおりなのかも知れません。まず原則的に、禁止されている行為だというような答弁だということでご理解頂きたい。

それと、増永議員の提出頂いている資料の中で、えー、解除することが出来る項目、

条項の話もありました。これはですね、あの一まあ、私これも12月に言いましたけれども、この途中解約というのは、取って取れない方法ではないということもきちんと書いてます。出来ないとは一言も書いていないです。ただし、厳に慎むべきことだということを書きました。ですので、その禁止項目をうたっている条項ですけれども、そこでは必要がある時という文言がございます。これは、まあ、個人レベルで言いますと、交通事故にあった時だとか、その車が盗難被害にあった時だとか、まあ、そういうことを書いています。ま、果たして、町がこの条項を適応させる時にどんなような理由を掲げていくかということも整理の必要があるんじゃないかなというふうに思っております。

さて、あの、リース契約の金額について、えー、まあ、ある程度ご確認頂いたという話もございましたが、町の方でもご質問頂いたという関係上ですね、えーと、少しあの、調べた経過がございますけれども、あの必ずしも両方合わせていくらというふうに話もありましたけれども、必ずしもリース契約を払い続ける金額と、そのディーラーの方に早くあげることによって支払う金額を比べた時に、金額のはっきりした話は今申し上げませんが、必ずしも町が得をすとかという計算にはなっていないという情報も持っています。ということがあります。それと、このリースを早く上げるということは、増永議員も書いてますけれども、損害賠償金、あるいは違約金というお金を払わなければならないと。これはどういうことかという、相手に対して、町の都合によって損害を与えるということです。そして約束を違えるということです。これを町の都合によって、相手にそういうことをやるということは厳に慎むべきであって、やらないということを今回町長の答弁でも改めて言ったということです。及び、損害賠償をもし払うということであれば、この自治法の適用によって議会の議決も頂かなければならないと、こういう手続きもあるということでございます。

そういうことを総合的に勘案して、えー、今の財政基盤強化の計画通りに、令和7年度の期間満了をもって、して、解約するということには変わりはないということでございますので、ご理解頂きたい。

それと、公用車の見直しについては、じゃあ、行わないのかということ、これ引き続き行っていくということも合わせまして、ご理解頂きたいと思います。

以上です。

「増永議員」

はい。

(議長)

増永議員。

「増永議員」

そしたらさー、禁止、禁止でないって言いながらさー、何で契約書に載っかってん

ですか。そういうのが。おかしいんじゃないですか。それは都合のいい解釈じゃないんですか。どう考えても僕はおかしいと思うんですよ。

それですね、今回のこの一件をちょっと弁護士さんに相談したんですよ。そして、これは地方自治法第242条の1、不当な公金の支出、財産管理を怠る事実に該当する恐れがあるというふうに言われました。

それで僕は、どうすればいいかということを考えた時に、住民監査請求、作ってきました、作ってあります。今日、これ出しますので、それで監査委員に調べてもらいましょう。それが僕はいいと思います。宜しいですね、これで。

はい。それでは、次、いきます。5番目いきます。

えー、旧江光ビル跡地建設、建設施設について、旧江光ビル跡地建設資金、建設施設計画の際に、江差町の貸施設の現状と、えー施設建設後の財政シミュレーションをおこったか、行ったかどうかをお伺い致します。

「町長」

議長。

「町長」

町長。

「町長」

増永議員の5問目、旧江光ビル跡地建設施設についてのご質問にお答えを致します。

まず、前段で申し上げますが、跡地の施設整備においては、これまで商工会としての提言をはじめ、商工会三役などとの意見交換、上町の商店街組合や町内会、特に議会との協議を重ねながら施設整備を進めてきたということをご認識頂きたいと思います。

その上で、旧江光ビル跡地活用拠点施設は基本構想及び基本計画を策定し、それを基に進めて参りました。

基本計画では、様々なニーズ分析を実施しておりますが、その一つに町内類似施設について調査を行っております。議員がお示しした資料5-2の概要版ではなく、計画本編の中に記載しております。町内の各施設がどのような施設であるか、年間何人の方が利用されているか、などを整理し一覧にしております。これらの施設の現状を踏まえた上で、基本計画を策定しております。

また、建設後の財政シミュレーションについてでございますが、基本計画の中で概算事業費の積み上げやランニングコストの整理はしておりますが、トータルとしての財政シミュレーションは実施しておりません。

「増永議員」

はい。

(議長)

増永議員。

「増永議員」

えー、それではですね、資料5の1の1、見て下さい。これはですね、課長さん方にご迷惑かけたんですけども、あの、現状の江差の有料で使われた数字です。で、金額です。で、たまたま2018年度、2019年しかないんですよ。これは、2020年、あー、2020年はコロナのため、数字に的には出来ませんでした。それと、2018年以前のものについては、資料としては残ってません。ですから、この2年間しかありません。でも、これ2年間でも、もろ出てます。あー、あの、この資料見てですね、一番最後見て下さい。5の1の3、総施設33施設もあるんですよ、江差町に。33施設、わかります。33施設あって、2018年度、利用金額360万、33施設で360万ですよ。で、2019年、77%で278万1,433円、これだけの収入しかないんですよ、町長さん。これだけの収入はなくて、本当にあの施設が町長さんが思い浮かべるような施設に本当になるんですか。それが、ちょっと僕は疑問に思います。

そして、5の2の1、これが町長さんが言われた江光ビル跡地活用拠点基本計画書、その5の2の2、見て下さい。ライフサイクルコスト及びエネルギーのこの部分の下の方、見て下さい。で、左端の枠で囲んだところ、建設費は氷山の一角で意外と少ない、修繕費、運用費等が圧倒的な割合を占めてる。この右側の丸い図見て下さい。船に乗っているのは、これは町民ですよ。町民が見えているのが建設費いくらですよ。先程町長、あの、町長さんが言われた金額ですよ。でも、海の下には、運用費、修繕費、保全費、一般管理費、これがとんでもなく掛かりますよ、って示してるんです。だ、この部分に関して、こういう形になることは、町としては、ご理解してたんですか。まず、これが1問の質問です。

そして、5の2の4、ランニングコストの試算、この計算でいくと約1億5千、あーごめんなさい、1,500万、年間掛かりますよって書いてますよね。

そして、5の2の5、収益を上げる必要があると事業収入の考え方で。そして、収入金額を上げる工夫が必要であると。ただ建物た、たって、建てるだけでは駄目ですよ、というふうに言われています。この、ま、借金を除いて、維持費約1,500万、ところが先程見た江差町の33施設で270万しか収入上がってないのに、これ、どうやって、どうやって、これを上げていくのか、具体的に教えて頂きたいと思います。

次、60ページ、これは先程、町長さん言われた交付金の関係ですよ。これは、内閣府の地方創生拠点整備交付金事業、そして、認定基準ってとこの①番目、自立性って書いてんですよ。将来的に交付金に頼らず、頼らず、事業として継続していくことが可能となる事業であると書いてあります。本当にこれ自立出来るんですか。これが3問目。

そして、4問目については、交付金に頼らないということは、これは江差町の一般財源から出していくってことなね、ことなのでしょう。

以上4点、ご質問致します。

「まちづくり推進課長」

まちづくり推進課長。

(議長)

まちづくり推進課長。

「まちづくり推進課長」

えー増永議員から江光ビルに関して、4点ご質問ございました。えーと、先程、室井議員の2問目でご答弁申し上げましたとおり、施設の目的としては、貸し室よりも、まずは、地域の上町地区の活性化をしていくための施設だということを、まずご理解頂きたいと思います。

2点目、えー、ま、計画の中でも、ま、ランニングコストの関係が出ています。で、えー、ま、ん一、計画どうり、どうりというか、概ね同じような金額のランニングコスト、今回、6年度予算でも、入れていくことになってございます。あの、予算要求して、予算で提案させていただきます。あくまでも、施設、ま、このランニングコストに関しては、当然その国からだとか、道から支援を頂いて、進めるものではございません。まちの一般財源を投入させて頂くということで、進めることになります。あの一、地方創生の臨時交付金、確かに自立性というところは記載があります。私達も少しでも収入は得ながらということは考えてございますが、えーま、地域の活性化のための施設だということを、前回もお話させて頂いています。そこを是非、ご理解頂きたいと思います。

「増永議員」

はい。

(議長)

増永議員。

「増永議員」

そしたら、あの、僕1問目の質問では、こういう修繕費、建設以外よりも、修繕費、運用経費が掛かるという認識で取り掛かっていったということで、宜しいんですね、まずはね。そうですね。一番最初、僕は、こういうふう質問したんですよ。建設費よりも、修繕費、運用経費が圧倒的に多いということをこの図では出てますよねって、そういうことを理解してあなた方はこの計画を進めたのですかってことを、僕は聞いたんです。いいですか。それをわからないで、どうのこうのじゃないですよ。掛かる、要するに建設費よりもとんでもねえ、このあと、じゃんこ掛かるどよってというような条件で、あなた方はこれを進めたのですかってこと、僕聞いてるんですよ。

それと、2問目の、については、あの捻出する方法は、結局、今の答弁ではなかったですよ。まちの活性化という一括りで説明されてますよね。でも、それおかしくないですか。俺、この間も、この議会でゆったじゃないですか。あの、あなた方が作ったこの、これ、令和4年11月、この段階で先程僕が言いました収益を上げるための考え方、出てますっしょ。今まで、何もやってこなかったんですか。それと、一番最後に、もう、これあれだったんですけども、ここにもちゃんと計画載ってるでしょ。なぜ、これやらなかったんですか。ですから、再質問としては、あなた方は、この計画する上で、計画した段階で、その収益を上げることを全くしてなかったかどうか、っていうのが1つ。

それと、計画は4年前、あーごめんなさい。4年前じゃねえや。えーと、令和4年の11月から出来てる。この段階から何で事を進めなかったんですか。今、もう、6月ですよ。あと3か月ないんですよ。まったくそれだったら、行き当たりばったりじゃないんですか。ですから、2問目としては、あなた方をこれを作ってから、そういう収益を上げる努力をしたんですか。

以上2問、お願いします。

(議長)

まちづくり推進課長。

「まちづくり推進課長」

えーと2問、ご質問頂きました。修繕や管理にお金が掛かるという点に関しての、お話だったと思います。あの、当然、その、施設を整備するという事は、国からこのあと、交付金などもらう、今想定ではございません。そういう意味では、建物は当然、修繕費も掛かってきますんで、記載されていることは間違いないと思います。ただし、それを如何に抑えていくかというところは、当然、我々がこれから進めていかなきゃいけないということで、ご理解頂きたいと思います。

2点目についてです。収益を上げていくという点に関してです。あの、私達はこう考えています。施設は、これから今、あの、歩き出す施設でございまして、しっかり、こう、今、まず建設のところに建設あるいは整備というところで、えー尽力をさして頂いています。これから、あー、ま、どういうふうに活用していくか、あるいはどうやって収益を上げていくかというところは、しっかり対応していきたいと思いますので、ご理解頂きたいと思います。

以上です。

「増永議員」

はい。

(議長)

増永議員。

「増永議員」

課長、ご苦労様です。

でもね、問題はね、こういう事実がある中で、あなた方はこれに基づいて、進んでいる訳ですから、やはり、この、この計画どおり事を進めて頂かないと、町民は納得しないんですよ。現に、ここにもう作業工程があって、本来、もう終わってなきゃならない作業を、今これからやるんですよ、あなた方。おかしいんじゃないんですか。と僕は、思います。じゃ、それは、答弁は、宜しいのでいいです。

次、6番目いきます。

えー6番目、北の江の島構想の津波対応とオープン後の財政状況について、ご質問致します。

令和5年第4回定例会一般質問において、北の江の島拠点施設基本計画案の津波対応について、担当課長よりコンサルタントの大山さんの力を借りて、全体で作り上げる、と答弁がありました。どのよう形で大山さんが関わるのか。

また、今回の建設資金に対して、どのように回収するか具体的に町民にわかるように説明をお願い致します。

(議長)

町長。

「町長」

増永議員からの6問目のご質問にお答え致します。

令和5年第4回定例会一般質問の中で、北の江の島拠点施設基本計画の津波対応について、担当課長が大山氏の力を借りて、とあるがどのように関わるのかというご質問だったというふうに思います。

少し誤解があるようなので、正確にお伝えさせていただきます。大山氏と町職員で作上げたのは基本計画でございます。昨年の10月に議員の皆様にもご説明した上で完成したところです。

この基本計画をもとに、現在進めている基本設計について、建築分野で総合的な知見を有する設計業者へ委託しております。

なお、津波対策については既に委託業者へ十分検討するように指示していることをお伝えしておきます。

次に、建設資金のご質問でございます。

ランニングに関する収支につきましては、令和4年3月に策定した北の江の島拠点施設基本構想において示しており、簡潔に説明をさせていただきます。

当時は、一般財団法人開陽丸青少年センターと一般社団法人北海道江差観光みらい機構に施設を担って頂くとした場合の想定であり、ランニングコストに関しては、令和3年度に法人へ財政支援している補助金以内での整理が可能と想定しています。

資金回収という点ですが、10月に皆様にお示しした北の江の島拠点施設基本計画でご説明させて頂いた通り、整備する施設は、そこを拠点としてかもめ島やいにしえ街道をはじめとした街中に人を周遊させることで、地域経済の活性化を目指すものでありますので、施設単体での資金回収を想定しているものではない、ということをご理解願いたいと思います。

「増永議員」

はい。

(議長)

増永議員。

「増永議員」

はい。それでは、えー大山さんの話は全然、出て来ませんでした。そして、その建設改革、基本計画なんたらっていう、その去年の12月に提出頂いた部分に関して、えー、実は僕は大山さんとちょっとお話をさせて頂いたんです。この津波対応について。電話で話ししました。それで、大山さんいわく、課長さんは大山さんの力を借りてって言ってました。でも大山さんは、ゆってました。私は、災害のプロではありません。津波対応については江差町の計画を盛り込んで下さい、言いました。ということは、大山さんはこの津波対応に関しては、まったくゼロですということを僕は言いたかったの。それ、履き違えてもらいますと困るんですよ、課長さん。いいですか。その上ですよ、その上で、江差町が出している防災ハザードマップ、今、江差町さんは、その今回の江の島構想において、そういう津波対応をするようにという、今、設計をゆってると、いう話、あんばい式ですけども、その辺、あそこにどういうふうにするのか僕わからないんですけども、万が一、ま、いろんなそういう物を建てて作ったかも知れ、作るかも知れませんが、あの今現在の開陽丸から、あのこのマップでいくと、対鷗館に逃げなさいとなっている。一番近いのは対鷗館です。でも、対鷗館までなんか行けません。一番近くて、レストラン津花館さんです。すると、いいですか、あの開陽丸から、レストラン津花館さんまで、距離なんぼあるかご存じですか、町長さん。600メートルなんですよ。600メートルで、人間が100メートル歩くのに、1分掛かるそうです。それと単純計算すると、じゃあ、6分で着くべやって、思うっけさ。ところがさ、あそのこどこ、さがになってんでえー、さが。ってこどは、300メートルは平たん、300メートルはさが。坂は倍かかりますよ。そしたら、あそこで、津波かかったら、あそこまで逃げるのに、9分かかるんです、9分。すると、あなた方が出してる防災の、あの、うー、計画でいくと、7分後に津波が来るとゆってるんです。っていうふうに、間に合わないんです。それと、資料6の1、これは、今年1月の町広報に出ております。防災街歩きに参加して楽しい防災対策。ここで、黒枠の真ん中辺り、見えてきた問題点。避難路が急で高齢者や子供達が歩くのが出来ないって書いてますよ、町長さんね。すると、町長

さん確かあそこに子供何かを作るんですよね。で、そういう、その人方、出来ないって書いてんですよ。矛盾していませんか。ま、これが事実なので、これもちょうと踏まえて、その、うー、基本計画ですか、に盛り込んで頂きたいというふうに思います。

それですね、これはお願いします。盛り込んで下さい。で、これは、町に報告しているってゆってるので、皆さん聞いていると思いますけども、それでお願いします。

そして、資料6の2、先程来から、人口が減る、減る、減るって出てますよね。そして、今、2024年、来年2025年、来年は100人減って6,701人です。そして町長さん、この北の江の島やって、借金を作った場合に、2040年ですか、終わるのが。そしたら、この間で、1,352人減るですよ。ってことは、この間、収入も落ちるんです。財政も苦しくなるんです。そういった中で、町長さん、先程の基本方針演説の中で、国内の社会情勢、経済情勢は大きく変わりましたって、町長さん言いましたよね。変わったんですよ。江差町も。世界、あの一、世界も北海道も。いいですか。今、この江の島構想は2018年に第、何か1回目の計画書、計画案が出た時です。もう今、6年経ってます。今現在。たった6年の間に、町長さんさっき言われたように、戦争はあるは、ねえー、コロナはあるは、考えられないことが起きてたんです。そういう状態の中で、今、まさに、資料の6の3、これはJR北海道の社長さんが出した部分です。駅前の再開発ビル、完成最長2年延期、正式表明。原因は何ですか。資材高騰、人件費高騰、自分達の思っている予算では出来ない。だから変えたんですよ。いいですか。そして、札幌五輪、検討して中止になりました。そういう、今、状況です。そういった中でですね、今朝、今朝、北海道新聞、函館新聞読みました。七飯町議会、温泉施設延期、延期、理由はただ1つ、資材の高騰です。そして、全国的には、資材高騰人件費の高騰。でも、北海道は、千歳のラビタス、あの影響が凄いですよ。それで、あの一、JR北海道の社長の2年ずらすって。なぜ、2年ずらすかわかります。ラビタスの完成が2026年3月ですよ。終わってからやるってゆってるんです。ですから、あとですね、今日の北海道建設新聞、函館、七飯町、令和6年度の予算、一般会計予算過去最多の128億、前年、前年度同比に比べて12%増、その中の普通建設事業費3倍だって。3倍。20億8千万、考えられますか、江差町は。今、まさに、コロナの、あー、ラビタスの影響で、今、資材がこれだけ高騰している中で、建設費をどれだけ抑えるかってことを考えなきゃいけないんじゃないんですか。ならば、他の施設、北海道道内においても、札幌市、他の、えー、札幌市だとか、えーと、よその、あの、どう、道内における、おお、大きな事業は、公共施設は、全て2年延期しております。江差町も2年延期する考えがあるどうか、お聞きします。

「まちづくり推進課長」

まちづくり推進課長。

(議長)

まちづくり推進課長。

「まちづくり推進課長」

えー、大きく分けて4点ご質問頂いてましたけども、私の方から2点、お答えさせていただきます。

えーまず、大山さんの関係でした。えーと、増永議員の、こう、ご質問の中で基本計画と基本設計に関して、ここ、ちょっと、あの一ごっちゃになって、なんていうかな、一緒になってる部分があるなあーというふうな認識がございます。

えーと、こういうことです。基本計画を策定するにあたっては、総務省の地域力創造アドバイザーであった大山氏の力を借りて、私達役場が基本計画を策定したということです。大山さんは、決してその津波の専門家ではございません。それは間違いないです。建物の専門家でもございません。ただ、地域、全国的な地域のことをご存じなので、そこのお力を借りて作ったとういうことで、ご理解頂きたいです。で、今度は基本設計で、先程、町長話したように、えー、知見のある業者に今、お願いしているということになってございます。

続いて、ハザードマップのお話でございました。えーと、確かにハザードマップの避難所としては、えーと、対鷗館というのがございます。ただこのハザードマップで津波の際の波がどこまで、いくんだということがございます。それは、あー、ま、地図を見て、見てもらえればおわかりになりますけども、おーアネロイド気圧計のもう少し上の方というところで、津波は、ま、そこまでという形になってございます。あの一施設を整備するに当たっては、もし、ま、今、えー、業者の方をお願いしているのは、例えば垂直避難の可能性ですとか、そういったところを可能性については、今、指示してますんで、えー、ま、完成する前には、また、議会の皆様にもですね、その点、ま、今の検討状況をお知らせしながら、ご意見を頂く場があるかなと思っております。

以上です。

(議長)

副町長。

「副町長」

はい、えーと、私からもちょっとダブリますが、えー津波の対策がどの程度、可能なのかは、あの、基本設計出来ましたら、その上で、議会にはきちっと示しながら、また、意見色々頂く格好になるかというふうに思います。

で、最後の後段、えー多分、増永議員は、色んな資材の高騰やら何やら含めて、他の自治体含めて、えー延期したり、そういったものがあるけども、江差町の北の江の島、2年延期する考えはないのかっていう答弁、あの質問だというふうに、宜しいですか。現時点では、あーあ、2年延期するとかっていう考えは持ってはございません。ただ、今後、今、基本設計も出来上がりますけども、ま、色んな面で、えー、本当にそういったことも含めた中で、あの、情勢というのは、ま、ラピダスの問題やら、色々、あの、

出しておられましたけども、今後の、今後に向けての中でですね、あの一、何が何でも絶対やるんだという意味、意味合いではございませんけども、これからの進み具合の中で、情勢がどういうふうになるかということについては、それは、あの、いくらかの可能性はあるというふうには感じますけども、今の時点で、2年延期するとかという考えは持ち合わせておりません。

以上です。はい。

「増永議員」

はい。

(議長)

増永議員。

「増永議員」

あ一、ま、必ずやる、やる予定ではないというふうに、とらまえていいですか。

ただ、あの一、その、わらしのただはんこきみたく、なんたかったやるっていう考えでは、ないということで、まず、理解していいんですね、副町長さんね。

その中で、先程ちょっと僕も資料言い忘れたんですけど、七飯町の温泉施設の工事着工、確かに今、あの一、副町長さんは、今後、今後の状況でどうなるかわかりませんってゆってるかもしんねえーですけども、もう一、もう一、始まってんですよ、副町長さん。いいですか。この七飯のこの施設は、この新聞に書いてあるのは、去年の12月上旬に建設業者から資材高騰、供給の問題があり、改めて室内を検討し、事業を進めていきたいと回答があり、って、2年ずらすとした。今、去年のもう12月にこれが起きてるんですよ。それと札幌市だって、去年の6月ですよ、6月にもう、26年に予定した、これ、1年遅らせるって書いてるんですよ。登別市、こちら2010、じゅう、う一、2011年から2028年、公共事業のプラン見直し。そして十勝管内清水町、25年度に予定していた町立体育館の建て替え2年延期。こちらの方は具体的に数字は出ていますよ。約20億と見積もっていた事業計画が、去年の10月時点で23億9千万で膨らみましたって。黙って2割、3割、もう今上がってんですよ。ってことは、町が出した12億っていうのは、もう幻になっているんですよ、今現在。だったら、今から修正掛けてもいいんじゃないんですか。なんたかった、やるって理由はないでしょ。副町長さん。だから、あなたが今、説明したのは、これからでない。今、もう、おきていますよ。今、検討しなきゃいけないって僕は、ゆってんですよ。いいですか。その件に対して、どうですか。副町長さん。

(議長)

副町長。

「副町長」

増永議員、今この場で、この本会議場で、あの質問は、それは全然、あの一結構なんですけれども、今、この場で、2年を延長する考えはないのかっていう質問に対しては、私は、今、考えてございません。

で、これから、基本設計出来て、また、議会と議論してて、我々、ま、執行部、議会含めて、この一大プロジェクトを本当にやるかどうかっては、ま、もう、やる考えで進めていますけれども、途中でのそういったところ、ま、今調査費やら、これまでの色んなお金は使ってますよ。コンサルの委託料、これ、議会と両輪の中で、物事を進めないとならない訳ですから、議場の場で、議会の場で、反対するのであれば、反対するとか、延期するべきだとか、そういった形のどっかのタイミングあるだろうというふうに思います。

繰り返しになりますが、今の時点で、2年延期する考えについては、今は持ち合わせておりません。

以上です。はい。

「増永議員」

はい。

(議長)

以上で、増永議員の一般質問を終わります。

(議長)

暫時休憩致します。

えー、2時55分まで休憩致します。

休憩 14 : 46

再開 14 : 55

(議長)

休憩を閉じて、再開いたします。

(議長)

次に、塚本議員の発言を許可致します。

塚本議員。

「塚本議員」

私からは、本定例会、ま、年度初めということもありますし、4問の質問をさせて頂きます。

まず、第1問ですが、江差町における、防災対策の見直し（点検）についてであります。冒頭、町長のご挨拶にもありましたが、1月1日の能登半島地震による亡くなった方々へ、謹んでご冥福をお祈りすると共に、被災者の方々にお見舞い申し上げ、一刻も平穏な生活に戻られますようお願いばかりであります。

この度の災害を通じ、日本海沿岸における災害に対し、江差町においても冬期の災害予防の点検と同時に見直しを含めて、再検討していく必要があると考えております。

冬期の災害では、避難所において第1に暖房の確保や飲料水の確保、断水が発生した場合の簡易トイレの確保など多面にわたります。

この度、江差町より職員が珠洲市の復旧支援に携わった経験も大いに、この見直しに役立つことが考えられます。

えー、去年の5月、あ、5年ですね、5年の3月に、この出来たばっかしの、この分厚い防災計画、我々もいただいておりますが、あの、出来たばっかして見直しするのかっていう話もあるんですが、あのー、詳細までに謳っている部分が必ずしも、あるとは言えませんが、今、このような計画は作っただけでなくて、一定程度、他の町村においても、ま、これらの、ま、江差町と違って昨年作っているかどうかわかりませんが、えー、防災計画の見直しの動きがあるというふうにも伺ってます。

江差町としての対応をお伺い致します。

(議長)

町長。

「町長」

塚本議員からの防災対策に関するご質問にお答え致します。

当町における地域防災計画は、災害対策基本法や防災基本計画など、関連計画の改訂に対応するため、令和5年3月に大幅な見直しを行ったところです。

議員ご指摘の冬期における対策としましては、主に積雪寒冷対策計画における寒冷対策の推進として、避難所対策、被災者及び避難者対策、住宅対策などを掲げております。

また、災害時備蓄計画においては、想定災害を地震最大震度6.2、避難者数1,124人として行政備蓄を掲載しているところです。

今回の能登半島地震による珠洲市への災害支援につきましては、議会の承認、議決を頂き、義援金を始め管内各町及び檜山振興局のご理解、ご協力により職員を派遣したところですが、厳冬期における被災地滞在支援を行ってきた経験は、今後役に立てるべきとの考えは議員と意を同じくするものです。

毛布やストーブなどの厳冬対策、トイレの使用が出来なくなった場合の対策など、地域住民とともに、厳冬期の被災を想定した再点検を行う必要があると考えておりますので、ご理解願いたいと思います。

(議長)

塚本議員。

「塚本議員」

えー、再質問ではありませんが、江差町防災会議は、えー、基本法第42条の定めるところにより、計画に随時、検討を加えるというふうな条文も一文ありますので、必要な部分はあれば、随時、それに更に修正を加えて、より実行性のあるものに、えー、作り直すこともお願いして、第1問目を終わらせて頂きます。

えー、2問目に入らせて頂きます。江差町におけるデジタルトランスフォーメーション、進めるための具体的な推進についてであります。

えー、町長の先程の執行方針で、デジタルトランスフォーメーション、ま、以下DXと言いますが、これを追求していくという部分があります。

自治体に求められるDXは、地域住民の利便性や行政サービスを向上させるためのものと考えてます。そのための一環として、マイナンバーカードを活用していくことや、行政手続きのオンライン化、テレワークの推進、セキュリティ対策の徹底、ま、先程の話ありましたが、ま、脱ハンコなどのが挙げられます。

江差町においては、DXをどのように取り進めるのかをお伺い致します。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」

塚本議員からのデジタルトランスフォーメーションの推進に関するご質問にお答えを致します。

これまで町独自の取組として、地域公共交通や健診、ワクチン接種の予約、保育所や小中学校との連絡ツールや納税、図書館蔵書検索、アンケート調査などに加え、農業や水産業分野でのICT活用の他、国の制度としてマイナンバーカードの利用を通じた転入転出手続き、税情報の連携、税分野での電子申告などの取組を行ってきているところです。

議員ご指摘のように、デジタルトランスフォーメーションによる利便性と効率化を図ることは重要なものと認識しておりますが、現状を維持した場合とデジタル化に移行した場合の比較検討が出来ていないことから、まずはこれらの比較検討を進めた上で、人材や財源の確保、もたらす効果など、総合的な見地からデジタルトランスフォーメーションに取り組んで参りたいと考えておりますので、ご理解願いたいと思えます。

(議長)

塚本議員。

「塚本議員」

はい。議長。

ま、国が、大々的にこのDXを推進するというので、各市町村に下ろしてきてますが、場合によっては、非常に、あの一、支出変更等による膨大な予算が掛かるということも想定されます。えー最終的には、ま、行政の効率化と住民サービスの向上、この辺をしっかりと見据えながら、えーランニングコスト等も検討して今後のDX推進に努めて参りたいと、そういうふうにと考えるとこであります。

えー、続きまして、3問目に入らせて頂きます。

江差町におけるパートナーシップ制度における、制度に対する考え方であります。えー、照井町長はこれまで、不幸ゼロのまちの実現を図ると明言をしております。江差町に在住しているすべての町民が、江差町に住んで良かったと思えるまちづくりが重要であります。そこで、近年道内、ま、近隣では、函館市、北斗市も含めますが、多くの市町村がLGBTなどのカップルを認めるパートナーシップ制度の導入の動きがあります。令和6年度末には、道内で約8割の市町村で、あ、6年度末ですね、6年度末には、道内で8割の市町村が、導入を進める、更には、また導入予定が、動きがあるというような情報も得ておりますが、江差町としても、一人一人の個性を尊重し、誰一人取り残さないためにも、同制度の導入に向けた検討が必要と思われませんが、えー、江差町での見解をお伺い致します。

(議長)

議長。あ、議長じゃない。

町長。

「町長」

塚本議員の3問目、パートナーシップ制度に関するご質問にお答え致します。

去る1月に新聞報道された内容によりますと、パートナーシップ制度を既に導入している10市に加え、2024年度末までに導入を予定している19市町、市と町を含めると、道内人口の7割が本制度を利用可能になるということでございます。

近年、同性同氏の結婚が認められないのは憲法違反だとして、各地で国を訴える訴訟が起きており、1審では違憲や違憲状態との判決が立て続けに出ています。

こうした司法の判断などを踏まえ、本来であれば国の制度として確立させるべき案件だと考えています。しかしながら、国による制度化の議論が一向に進まない状況から、地方出来る取り組みをやっていこうというのが、今日のパートナーシップ制度の広がりだと認識しています。

私は、誰にとっても望まない要因のゼロ化を目指す、不幸ゼロのまちの実現を目指しています。その一環として、江差町も他の先行自治体の取り組みを参考にして、令和6年度中のパートナーシップ制度の導入を目指して参りたいと考えております。

(議長)

塚本議員。

「塚本議員」

えー、北海道や、えー道の動きが、えーなかなか腰が重いという中で、全道の市町村もそういう動きがありますし、江差町も前向き検討するということで、大変うれしく思って次の質問に入らせて頂きます。

えー、4つ目の最後に質問になりますが、学校図書館で子供の読書活動を支える学校図書司書の配置についてであります。

えー、文部省の調査では、専任の学校司書が配置されている公立小中学校は47%、司書を全く配置していない学校が11%となっております。本をそろえるだけでは、学校図書館の活用が進みません。司書の配置は、学びの差につながると考えます。2016年度施行の改正学校図書館法で、小中高への配置が自治体への努力義務とされております。教育長の先程の方針の中には、えー、読書は心の栄養素という強いお言葉も聞いております。えー、江差町における今後の学校図書司書の配置する考えについて、お伺い致します。

「教育長」

教育長。

(議長)

教育長。

「教育長」

学校司書の配置に関して、ご答弁申し上げます。

塚本議員の仰るとおり、学校図書館法第6条第1項に、配置に関する努力義務の規定がうたわれております。

学校司書は、学校図書館の運営の改善及び向上を図り、児童又は生徒及び教員による学校図書館の利用の一層の促進に資するため、専ら学校図書館の職務に従事する職員とされています。

現在、江差町において学校司書の配置はされておりませんが、司書教諭の資格を持つ教員や、江差町図書館の司書の協力を仰ぎながら、学校図書館の充実に努めているところであります。

また、児童生徒の要望も取り入れ、各学校において学校図書館の購入を行っており、

全校一斉の読書活動や、国語や社会などの授業においても、学校図書館を活用した取り組みが行われております。

議員からは、学校司書の配置に関する考え方とのご質問でございますが、現時点においては、これらの取り組みを継続的に進めてまいりたいと考えておりますので、ご理解願います。

(議長)

塚本議員。

「塚本議員」

えー、学校図書の配置は、中々有資格者の確保等で大変です。ただあの一、色んなデータによりますと、学校司書、図書司書を配置することによって、子供たちの読書が倍増しているというデータもあります。

今後、配置に向けた教育委員会等の更なる検討をお願いして、質問を終わります。

(議長)

以上で、塚本議員の一般質問を終わります。

(議長)

次に、大門議員の発言を許可いたします。

「大門議員」

議長。

(議長)

大門議員。

「大門議員」

と一、子供議会を開催する考えについて質問いたします。少しちょっとあの一質問が長くなりますが。

選挙年齢が満18歳以上となり、18歳未満の未来の有権者へとるべき、こども議会を用いた諸政策及び選挙の意識づけに関してであります。18歳の有権者となる高校生たちへ、選挙の際、どのように考えて投票すべきかをどう教えればよいか、特に日々の生活へ直接影響が及ぶ基礎自治体レベルの地域政策にかかわる機会は少ないものです。今この地域では何が大きな問題なのか。その問題に対し、今までどんな手だてがとられてきたのか。その結果はどうであったか。その経緯を踏まえ、これからどのように新たな方策をとろうとしているのか、またとるべきなのかなど地域の課題に対し、とられてきた政策及びその結果の評価、また現在行われようとしている近い

未来に行われようとしている政策に対する考え方など、現在の地域政策に関して体系的に学べる教育課程は存在しません。有権者のほとんどは政策に関してよくわからないまま18歳を迎え、そのままただ与えられた1票をもてあましているのが現状ではないでしょうか。新たに18歳になる若者が地域の課題に興味を持ち、自ら考え、1票をもてあまさないようにするための方策が必要です。

そこで、こども議会が大いに力を発揮するのではないかと思います。興味を持っている層の子供たちに働きかけ、同世代の意識、意思決定に関して大きな影響を及ぼす存在になってもらい、その子供から興味が薄い層の子供たちに働きかけてもらうのが、よいのではないのでしょうか。既に有権者である人も、地域政策に関して公に学ぶ場を今まで得られなかったわけですから、子どもたちが早い段階から社会的・政治的な参加を体験することは、成人後の積極的な町民参加につながる可能性があります。子ども議会は、そのような参加意識や能力を養う場として役立ちます。公教育の期間中から有権者と同じように考えさせ、またその考えを地域の有権者とともに語り合い、有権者ともども地域の課題、地域政策に対する知見を深め、生きた教育を受けさせることが必要なのではないのでしょうか。

それは、そのまま現在の有権者全体に対する生きた有権者教育にもなると思います。

18歳未満の未来の有権者へとるべきこども議会を用いた諸政策及び選挙への意識づけに関して提案いたします。

この提案を踏まえ、どのようにお考えか伺います。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」

ただ今の大門議員のご質問にお答えいたします。

議員のご質問は、子ども議会の開催を通じて、地域課題や政策に対する関心を高め、政治や選挙への参加意識を醸成することができるのではとの内容と受け止めさせていただきました。

私は子ども達が考えたことや要望が、実際にまちづくりの中で実現するということが政治や行政に関心を持ってもらう一番の近道だと考えています。

学校遊具の整備やテニスコートの有効活用を図る際、直接子ども達と意見交換を行い、その意見を取り入れた予算案を議会へ提出し、議決というプロセスを経て学校遊具などの整備を行ってきました。子ども議会の開催を通じ、政治や選挙への参加意識を醸成するとの議員ご提言につきましては、昨今の選挙投票率の低下や政治への無関心をどの様に改善し政治参加を促すのかという、正に選挙管理委員会が担う部分が

きいものと考えております。

今回の議員からのご提言に関しましては、改めて選挙管理委員会へも情報提供し、選挙や政治意識の向上につながる方策を行政としても検討して参りたいと考えますので、ご理解願いたいと思います。

(議長)

以上で、大門議員の一般質問を終わります。

(議長)

次に、小梅議員の発言を許可いたします。

「小梅議員」

はい。

(議長)

小梅議員。

「小梅議員」

はい。えーと。早速質問に入らせていただきます。第1問目。ふるさと納税のルール変更後の対応について伺います。

10月より、ふるさと納税の経費の算定ルールが変わりまして、返礼品や送料の他に仲介サイトなどの事業者への手数料も経費に含まれた合計が、寄附金の50%以下になるように決められました。

返礼品についても、地場産品の基準が厳しくなり、ルール変更後は、殆どの自治体が50%を超えると予想されていましたが、江差の実態はどうなのでしょう。何%位で抑えられているのかお聞きします。

それと、幸い寄付額は随分伸びているようですが、水産物の漁獲量が低迷している現状から、人気の商品はどのようなものが有るのか、お尋ねいたします。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」

小梅議員からの、ふるさと納税に関するご質問にお答えいたします。

いわゆる、ふるさと納税に関しましては、独自の努力で財源確保に結びつけること

ができることから、令和3年に作成した財政基盤強化に向けた取り組みで2億円を目指すとしました。令和5年1月からの暦年ベースでは既に目標である2億円を超えており、残り一月となった令和5年度においても同じく目標額を確保できると見込んでいます。

ご質問の一つ目は、昨年10月に改正されました、ふるさと納税経費の算定ルール改正に伴い、江差町としてそれを順守できるかのご心配でございます。先ず参考として、令和4年度における経費率の実績をお伝えしますと49.5%で、今年度の経費率についても、新しいルールはしっかりクリアできるものと予測しています。

続いて、人気の返礼品についてのご質問でございました。こちらも令和5年1月からの暦年ベースで集計すると、ベニズワイガニ関連と生うにの2種類で寄附総額の半分以上を占めています。ただし、議員ご認識のとおり水産物の漁獲量には好不漁の波があり、また返礼品取り扱い事業者の多くが高齢であることから、今後においては事業を継続していける準備について、各事業者へ促しが必要と考えております。いずれにしても、今後とも安定的な財源確保に向けて、ふるさと納税の増額に向けた取り組みを強化して参ります。

「小梅議員」

議長。

(議長)

小梅議員。

「小梅議員」

はい。わかりました。

それでは2問目にいきます。ニシンの活用について伺います。

和食がユネスコの無形文化遺産に登録されて10年が過ぎました。農水省がホームページで紹介している北海道の郷土料理は三平汁です。

江差はニシンの繁栄が息づく町のストーリーで日本遺産に認定されながら、今ニシンの活用が目立っていません。

2月のなべ祭りでも、昔風の三平鍋とは様変わりしていて、時代の流れを感じました。たしかに郷土料理は食の多様化や家庭環境の変化で、受け継ぐのは難しく、次世代に繋げていくことが困難になっています。ですが、江差にとってニシンは、重要な産物です。昔からの庶民の味として、気軽に食べられる様な仕組みが出来ないものでしょうか。今年も群来が確認されたり、漁も本格化して明るい兆しの中、消費拡大に向けての対策が如何か伺います。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」

小梅議員からの2問目、ニシンの活用についてのご質問にお答えいたします。

ご案内のとおり、この地域は江戸時代から明治時代にかけてニシン漁とニシン加工品の交易で栄えましたが、次第に資源量が減少し、大正時代にはニシンの回遊が見られなくなりました。

現在、檜山管内各町と連携を図りながら、地域の歴史・文化に根付いた特別な魚であるニシンの復活を目指し、ニシンの種苗生産と放流等を実施しており、平成28年からは北海道の支援を受けながら、年間100万尾の種苗生産と放流を行っております。平成29年2月には104年ぶりとなる群来が確認されたほか、今年2月24日にも、かもめ島前浜で群来が確認されています。ひやま漁協江差支所の水揚げを見ると、平成29年には1トンにも満たなかったニシンの漁獲量が、令和5年には17.9トンまで増加しており、種苗生産・放流などの取組が資源量・漁獲量の増加に寄与しているものと考えております。漁獲量が増加し、ニシンの旬である春先にスーパーの魚売り場へニシンが並ぶ光景が日常化してきたことを契機として、ニシンの消費拡大とニシンを活用した食と観光の展開を図り、地域経済活性化につなげていくことが重要であると考えています。

昨年、日本遺産が再認定となり、改めて当町のストーリーであります、江差の五月は江戸にもない～ニシンの繁栄が息づく町～を題材にしたまちづくりを進めることとしており、その中で、ニシンを中心とした食に関する事業の展開を図ってまいります。

また、これまで、江差町観光まちづくり協議会を通じて、およそ2,000kgの江差産ニシンを確保し、ニシンを活用した商品開発のほか、年間を通じての町内の飲食店での提供や各種イベントでの活用を図ってきたところですが、ニシン三平汁、ニシン漬け、ニシンそばといった郷土料理の保護と継承、ニシンの消費拡大を図る観点から、各種イベントでのニシン料理の提供機会の拡大、飲食店などでのニシン料理の提供の促進、ニシン料理を学ぶ機会の創出などについて検討していきたいと考えておりますので、ご理解願いたいと思います。

「小梅議員」

議長。

(議長)

小梅議員。

「小梅議員」

よろしくお願いします。

えーと、私方も、あの一小さなかあちゃん食堂っていうのをやってるんですけども、たまたま旅行などで寄ってくださる方がいまして、そういう三平汁を食べると、こういうのを道の駅で是非やって欲しいって、そういう声をよく聞きます。あとラーメンとかそういうのはどこでも食べられるんだけど、こういうものっていうのは本当に食べられないから、こういうとこ江差とかに来た時に、気軽に食べられるような、あの一ものがあればいいなって、よくそういう声を聞きますので、言っておきます。

それから、北海道なんかからでも随分あのーこういうお魚フェアとか、ニシンとかこういうものが、うちらみたいなちっちゃな所にも案内が来ます。これは2月中にやっている事業ですけど、だから、すごくみんな力をいれているだなんて思って感心していますので、江差もどうぞよろしくお願いいたします。

それから、今日のお弁当の中に大きな魚の切り身が入っていました。あんな大きい切り身が入っているのはちょっとお弁当の中でも珍しいものですから、大抵シャケとかそういうのはわかるんですけど、他の魚で大きな切り身が入っていました。こういう風な切り身がニシンとして、あの沢山食べられれば、もっともっと消費が広がるのかなって思ってます。よろしくお願いします。

それでは第3問目いきます。

えーと少年、子供たちの居場所についてでございます。

家庭内での諸問題や学校でのいじめ等で居場所を失い、相談する人も無く、孤独感到に陥る少年たちが随分おります。

同じ境遇での知った顔を求めて、広場、その広場が居場所になっているんですね。そこに集まる少年たちの迷惑行為が社会問題になっています。

最近では、ワゴン車の座席の無い後部にカーペットを敷き、テーブルを置き、住宅のリビングのように仕立てて、どこにでも出向ける居場所としてのリビングカーでの支援も出てきているようです。

江差では、コミュニティプラザえさし内の中高生用のシェアスペースが、正に子供達の居場所になります。明るい笑顔と元気な笑い声が飛び交う様子を想像して、楽しくなりますが、教育委員会、若しくは教育長さん個人の自身の考えでも結構です。居心地の良い場所づくりの為の利活用をどのように考えているか教えてください。

「教育長」

教育長。

(議長)

教育長。

「教育長」

えー小梅議員から子供の居場所についてのご質問についてご答弁いたします。

子どもの居場所づくりは、家庭・学校をはじめ、子ども達が安全・安心に過ごせる環境を提供していくことが必要であり、教育委員会といたしましても、この間、運動公園内に新たに子どもふれあい広場の整備を行ったほか、冬期間の子どもの運動不足等を解消するべく文化会館大ホールを活用した、わくわく子ども広場の開催、さらには、図書館のフリースペースの開放などを行ってきたところでございます。

議員からは、この度整備されるコミュニティプラザえさしの中高生用のスペースの利活用について、どのように考えているかとの主旨のご質問でございますが、今回整備される中高生用スペースに限って申し上げますと、子ども達が自由に利用できる場所として整備されることから、教育委員会として特定の利用は考えてございません。

一方、施設全体を通しての利活用については、各スポーツ少年団のレクリエーションや、シニアカレッジ江差学園での活用のほか、世代を超えた交流など、施設の機能を有効に生かした社会教育事業の取り組みを行って参りたいと考えております。

また、学校教育の観点からは、マチ歩きや調べ学習など、社会科や特別活動の時間を利用した活用や、子どもたちの絵画や書道の展示などギャラリーとしての利用など、教育委員会といたしましても、マチの新たなランドマークとして、子どもから高齢者までの幅広い世代が集い、生きがいや幸福、そして何よりも楽しいをキーワードに、未来に希望が持てるよう、持てる施設となるよう学校や各団体などと連携し、様々な活用機会の創出を図って参りたいと考えておりますので、ご理解願います。

(議長)

小梅議員よろしいですか。

「小梅議員」

ありがとうございました。

(議長)

以上で、小梅議員の一般質問を終わります。

(議長)

次に、田畑議員の発言を許可致します。

「田畑議員」

はい。

(議長)

田畑議員。

「田畑議員」

議長、その前に、ちょっと私は、超暑がり屋なものですから、いや、上着脱いでも宜しいでしょうか。

「打越議員」

なにしたって。

(議長)

んん？

「田畑議員」

暑いから上着脱いでも、いいですか。

(議長)

どうぞ。

「打越議員」

ずんぶ、張り切ってるんでねえが。

「田畑議員」

いや、何も・・・。

(「笑い声」)

「田畑議員」

そういうことはないです。

「田畑議員」

えー、それでは、はい。あの一、質問させていただきます。

えー、町長、大変、お疲れのところ、あの一本当に恐縮ですが、あの一私の方から質問させていただきます。

まず1つ目、江差町の情報公開の実態について質問致します。

主権在民、議会民主主義の制度のこの国において、情報非公開、議事録提出無し、このことは選挙の無いどこかの国と一緒に、戦慄が走ります。日本遺産認定再審査について、令和5年5月15日以降、12月初旬まで一度も町民と議会に対し、情報や議事録を公開していない。資料にもありますけれども、黒塗りの、えー、黒塗りとは非公開としている法的根拠を、まず、話して下さい。お願い致します。

(議長)

町長。

はい。

「町長」

宜しいですか。

(議長)

はい。

「町長」

えー、田畑議員の1問目に関しまして、反問権に、を、行使したいと思いますので、議長の許可をお願いします。

(議長)

ただ今、反問権の行使の要求について、許可致します。

事務局、これより持ち時間を停止して下さい。

宜しいですか。

※ 反問権

時間停止 15 : 28

(議長)

町長の発言を許可致します。

「町長」

議長。

「町長」

えー、反問権に許可ありがとうございます。

この間、田畑議員の日本遺産再審査における議事録公開の要求に関しましては、私達江差町は審査を受ける側であり、情報公開するかどうかは、文化庁の判断によるもので、その判断を尊重する立場にあることは、これまでもお伝えしてきたとおりでございます。

田畑議員の質問趣旨で、選挙の無いどこかの国と一緒に発言されていることは、甚だ遺憾であります。誠心誠意、お答えしたいと思いますので、次の2点について、質問に回答して頂いた上で、答弁したいと思いますので、宜しくお願い致します。

まず、1点目ですが、田畑議員は、日本遺産の再審査に関して、町に情報公開請求をしています。その中で、請求目的では、興味よりとお答えになっています。どんな疑問や疑義をお感じになっているのか。興味よりでは、私には理解することが出来ません。この日本遺産再審査に関して、どのような疑問や疑義をお持ちだと、お持ちなのか、まず、教えて頂きたいと思っております。

その上で2点目として、その疑問や疑義を晴らすためには、どのような内容をお伝えすれば宜しいでしょうか。具体的にお知らせ下さい。やましいことは、何1つありません。議事録を公開せずとも、答えられる内容については、誠実に答弁させていただきますので、宜しいお願い致します。

「打越議員」

よし、わがった。

(議長)

田畑議員。答弁お願い致します。

(議長)

田畑議員。

「田畑議員」

えー興味を持つ、これは、あー、一般的な、何も、あの一、足すも引くもない、興味ある事から全てが、あの物事は、僕は始まると思っています。だから、これには納得いきません。

2問目ですけど、では、お話をさして、反問します。

まず少し、あの前段で、この日本遺産の全容を少し、あの、バックヤードを説明したいと思います。

まずは、今、日本で108。

「田畑議員」

今、笑ったんじゃないですか、あなた。笑いましたよね、今ね。笑ったでしょ。あんた、無礼だ。

(田畑議員が許可なく席を立ち、照井町長に歩み寄る)

「打越議員」

何やってんだ。

(議長)

何やってんだ。

「田畑議員」

笑った。

「打越議員」

駄目だって。

(議長)

駄目だって。

「田畑議員」

ふざけんな、こら。

「打越議員」

田畑、なんで、おめえ、なんで、立ってあるぐ。

(議長)

暫時休憩。

休憩 15 : 31

※ 議会運営委員会開催

再開 15 : 47

※ 反問権中断

(議長)

えー、休憩を閉じて再開致します。

(議長)

えー室井委員長より、えー報告があります。

議運での報告がありますので、室井委員長、宜しくお願い致します。

「室井委員長」

すいません。では、報告致します。

えーと、田畑議員のですね、あの一執った行動、ね、議場の中においてる行動は、決して見逃し、許されるべきことではありません。

よって、田畑議員の質問、全部終わったあとですね、議運においてどうするか、協議をしたいと思いますので、議長の方でそれを取り計らって下さい。

以上。

(議長)

はい。

えー、わかりました。それでは、えー、引き続き田畑議員の、えー、反問権の答え、2問目の方からお願い致します。

※ 反問権再開

時間停止 15 : 49

「田畑議員」

えー、ちょっと、メモしそびれて、あの、2問目、何でしたっけ、すいません。ちょっと、もう一度、お願い致します。

(議長)

町長。

「町長」

はい。えー2点目につきましては、1点目として、この日本遺産の再審査、再審査に関して、どのような疑念や疑義をお持ちなのか、その点を晴らすために2点目として、具体的にどのようなことがお知りになりたいのか、どのようなことをお伝えすれば、えー、ご理解頂けるのか、その点について、お話を頂ければこちらとしては、誠実に答弁をさせて頂きたいと思いますので、宜しくお願い致します。

「田畑議員」

はい。議長。

(議長)

田畑議員。

「田畑議員」

えーと、先程5月の件で、話しました。じゃあ、時系列的に、あの、質問さしても

らいたと思います。

これは、あの・・・。

(議長)

質問じゃなくて、答え、お願いします。

「田畑議員」

あ、答え・・・。

は、え、だからこれから、あの一逐次、中身をです、話したいと思います。どんなことを質問したかということですよ。

「塚本議員」

どういう疑義があるか・・・。

「田畑議員」

具体的なことを兼ねて、ここを知りたい。これどうなっているのか聞けばいいですね。日本遺産に関しての。5月15日から12月初旬までのこと、話せばいいと、思うんですけど。

「室井議員」

議長。

「田畑議員」

いい、どうですかね。

「室井議員」

違うっしょ、ちゃんとしなさい。

町長が、今、質問して・・・。

(議長)

質問してるんですよ、はい。

「室井議員」

いいがい。

(議長)

はい、わかっています。

「室井議員」

ね、答弁すればいいだけの話でないの。
違うんですか。

(議長)

そうです。

「室井議員」

ちゃんと、整理しなさい。

(議長)

田畑議員。

「田畑議員」

はい。議長。

(議長)

町長からの質問に答えて下さい。

「田畑議員」

え、だから、今、話しているんですけど。あの一、まず、5月の15日から、ちょっと時系列的に説明、話したいと思います。

えー。

「室井議員」

落ち着いて、しゃべれ。

「田畑議員」

はい。

ここに、ありますけど、これ、あの、えー、今回、あのたくさん資料あったものですから、事務局の方では、町に予算がないみたいなこと言われて、多すぎるということで、かなり、あの一うー、削減して、えーおります。

でも、この場で、やっぱり少し話した方がいいなと思って、ま、話しさせてもらいますけれども、大事なことです。

この5月15日の、この一連の文化庁のメンバーの視察です。全部で文化庁メンバー入れて、えー、ま、7、8人ですかね。町担当者入れて。一応、あの一日本遺産、これは12のコンテンツがなっております。もちろん、中村家、横山家、入っております。多分これの審査に来たんだろうと僕は思っております。

ところが、これを見ましたら、なんと横山家がすっぽりと抜けております。これ、どこでどうなったかわかりません。前もって、文化庁と擦り合わせがあったものと推測されます。あえて、飛ばしております。

ま、このことを、まずはちょっとお聞きしたいなと思っておりますけれども、全体像として、これは、これ見た限りでは、単なるこれ、観光施設の一般的な観光の、ただ数時間で回ったに過ぎない。

でもその中で、文化庁との4時から、あの一、え一、質疑応答されてます。それも非公開ですね。ま、もちろん、請求したことありませんけど、これ見たら非公開です。これもやっぱり、疑念、残ります。なぜ、あの、変わったことも。更にこのことが進んで、5月から6、7、8と僕ら全くわかりません、どうなっているか。どう進んでいるのかわかりません。

ただ。7月の日付けは忘れましたが、読売、うっあ一、北海道新聞、あ一、函館新聞もかな、え一、日本遺産の再審査の結果、審査の結果、再審査があったと。これは、あの、新聞でも見てわかると思いますけど、なぜ、じゃ再審査なったんでしょうか。

要は、当初の12のコンテンツ全てきちっとやればですね、僕はあり得ないと思うんです。全てやれば、もう、多分、文化庁も判子押したと思います。よくやったと、と思うんです。で、再審査があったのは、全国でこの年はですね、令和5年は、17か所ですよ。ローリング、6年目の。たまたま、江差に来たんです。17か所です、全国で。そのうちのなんと、ここと、埼玉県の行田市が駄目ってことだったんです。要は再審査ですよ、いやもう1回作り直せと、いうことになったはずです。

だから、8月末に町で再生プランを作って、改善策を作って出した。それも私見せなさいと言いましたけど、それは、見せられない、ま、いいでしょう。

そして、9月5日ですよ、文化庁来て、ヒアリングしました。俺、そんな時も、私も、傍聴させてくれと言ったんです。ま、それは、権威なのか、議員としていいのか。

でも、町側としては、絶対無理ですと。非公開ですから、ね、議員であっても、傍聴は出来ません。ここで、またクローズですよ。情報公開してないんです。ただ、現状ですね。それから、また、9、10、11、12まで、ずっと誰も何も知らないですよ。

「室井議員」

議長。

(議長)

はい。

「室井議員」

議事進行。

(議長)

はい。

「室井議員」

駄目だって、黙って、聞いているだけだ。

ねー、町長がさ、これとこれ、何を答弁したらいいんですかって伺ってんだぞ。簡潔にしてもらえば、いいんでないの。

「田畑議員」

いや、これは……。

「室井議員」

全部、やってるのが。

「田畑議員」

いや、これは、12月までは、言うべきだと思って……。

(議長)

ちょっと、ちょっと、田畑議員、ちょっと、待って下さい。今、室井議員しゃべってます。

「田畑議員」

ああ。

「室井議員」

ちゃんと、簡潔に……。

(議長)

はい。

「室井議員」

ねえ、答弁、あの質問して下さい、答弁して下さいって言えばいい話だ。

(議長)

説明は、はい。わかりました。

田畑議員、簡潔にお願い致します。

「田畑議員」

はい。

今おおよそ、8割言いました。あと、最後ですけど。

それで、12月のはじめにこういう形で、皆さん資料見たいと思うんですけど、これが、何よりですよ。この日本遺産についての評価です。

はい、1つ、2つ言います。

まず、不可となったのはですね、日本遺産を活用した集客活性化です。評価理由、観光客見込み数について、目標は達していない、これバツですよ、だから再審査でないですか。

もう1つ。日本遺産を核としたコミュニティーの再生活活性化、これも不可です。駄目だということです。やってないからですね、で、まだこれ陳腐な話がですね、評価理由は、地域の文化に誇りを感じる住民の割合及び小学校4年生から中学生へのアンケートについて、調査の大半が、未、実施だそうですよ。要は行ってないそうです。

ここで、単純にですよ、小学校4年生に何を聞くんですか、これ。これ、評価も、ま、これが、この今回の今の質問の、あの、大体、転用なんですけども。これについて聞きたいと思います。

(議長)

はい。わかりました。

「町長」

議長。

(議長)

はい。対する回答がされましたが。

「町長」

ちょ、ちょ、宜しいですか。

(議長)

はい。町長。

「町長」

今、日本遺産の再審査における、経緯をご説明を頂きましたけど、今1つ、何を聞きになりたいっていうかですね、何をお知りになりたいのかというのは、判然と致しません。文化庁の審査のメンバーが知りたいのか、12のコンテンツとおっしゃいましたけども、何を12のコンテンツとおっしゃっているのか、ちょっと、わかりませんし、えーと、今の最後の部分、不可となった部分、小学校4年生の部分、そこが詳しく知りたいということなんでしょうか。

何が知りたいのか、もう一度、明確にえー、お答え頂かないと、こちらも答弁出来

ないので、明確にお答え下さい。

(議長)

田畑議員、簡潔にお願いします。

「田畑議員」

じゃあ、1つ。この黒塗りをですね、文化庁のこの用紙、これを明日までに、これを黒塗り取って下さい。したら文化庁メンバーの名前わかりますから。それ、まず、お願いしたい。

それから、当初の8年前のプランの中にはこれ、全部12のコンテンツ、あの、役場の中にもありますけども、あの一追分やら、沖揚げ音頭やら、横山家、中村家もありますけれども、その12コンテンツがこの日本遺産の大きなプランの、だと思っんですけど。それ違うのであれば、私も考え方直しますけど、これが日本遺産そのものを、この12をね、あの、要は観光振興ですよ。それで、最後にはまちの経済発展ですよ。これがメインだと思う日本遺産はね。そこです。

(議長)

暫時休憩致します。

休憩 15 : 57

再開 15 : 58

(議長)

休憩を閉じて、再開致します。

「町長」

ごめんなさい。ちょっとまだ、反問権の中で、お伺いしたいんですけども、えーと文化庁の審査委員をお知りになりたいと。それは、どういう理由で、どういう疑問をお持ちになって、そういう公開を求めているのか。その、なぜ、文化庁の審査委員のメンバーをお知りになりたいのか。そこがですね、どういう疑問をお持ちかということとつながっていることでもあります。

もう1つ、えー情報公開請求で、不服であるのであれば、法的手続きがあるはずで。議会を通さずにも。田畑議員は、議員としてではなく、住民として情報公開請求をされています。その手続きに不服がある場合は、その手続きは正規な手続きがあるはずで。当然、それはご存じで、今、こうやって、明日までに出せと、おっしゃっているんだろうなと思いますけれども、そういう手続きを踏まれたのかどうか。まず、そこも確認をしていきたいなというふうに思います。

もう1つ、12のコンテンツとおっしゃいますけれども、今、ちょっと担当と確認

しましたけども、おそらく構成文化財のことだろうなと思っております。構成文化財は26の構成文化財で、江差町はストーリー、江差の5月は江戸にもない、ニシンの繁栄が息づく町でストーリーを作り上げております。その12のコンテンツが何を指すのかというのも、私には分からないというところで、まずですね、色々ご主張があるんでしょうけれども、えー、ここは議場の場ですので、えー、議場の場で反問権として、何に疑念、疑義を持たれてご質問されているのか。その疑念をどうしたら晴らせるのか。どうやったらご説明出来るのか。何を知りたいのか。もう少し整理して、お話しして頂けないかと、いうふうに思います。

「田畑議員」

議長。

(議長)

田畑議員。

「田畑議員」

そんなに面倒ですかね。あの一、ここは、ま、行政と我々だけ知り得る、これ、あの資料ですね、多分。ま、請求すれば、一般の方も出来ると思うんだけど、これが、もし、この庁舎から出て、もう一般にじんこうかいしゃされた場合、これは何と申しますか、これ。なぜ黒塗りするんだという、これ大事なこと。ま、これが、あの質問の理由ですし、先程ゆったように、26と言いますけれども、あの大きなそのポスターには12しか載ってないんですよ。それ皆、それしか見てないんだ。誰も26、26なんてわからないですよ、町民は。ね、そこを、私言ってるんです。そのうちの柱の横山家、欠けてる。6年前から。対応が何もしてない。町も議会も悪いけど。それ皆、不満を持っていると思います。その2点ですよ。これじゃ足りませんか。

「田畑議員」

したら、まずは、あの一、何回も言います。あの、黒塗りを消してもらいますか。どうですか。

(議長)

なぜ、知りたいかっていうことを、先程、町長聞いているんですけども、それ、それについてお答え願います。

「田畑議員」

逆に、なぜ、黒塗りするのかわからない。

(議長)

いや、それ質問に質問、まず、答えて下さい。

町長が、なぜ、それを、名前を知りたいのかって聞いているんですよ。

「田畑議員」

俺・・・。

(議長)

その、その部分を、全然、答えになってないんですよ。

「田畑議員」

私は。

(議長)

さっきから。

「田畑議員」

いや、わかるんだけど。

(議長)

わかるのであれば、答えて下さい。

「田畑議員」

その単に私はね、なぜ、黒塗りするんだということ言ったつもりだったけど。

(議長)

だから、なぜ、だから、なぜ、名前を知りたいんだということをまず、町長は聞いているんですから反問権で。その答えをゆって下さい。

「田畑議員」

あ、どんな人が、この江差に来て、ちゃんと審査したのかなあってこと、やっぱり興味ありますよ。だからです。以上。

「打越議員」

やっぱり、そういうことだな。説得力がない。

「田畑議員」

うんだね、ちょっと微妙ですね。

「打越議員」

理由を言えばいいんでねえが。

（議長）

理由を再度、あるようであれば、どうぞ。

「町長」

えー再びちょっと、質問させて頂きますけども、最初の反問権の時に興味というところでは、私達は、どういう疑念を持たれていて、どういうふうにお答えすればいいのかというのが、わからないというところをお伝えさせて頂いております。

一番最初に申し上げましたけれども、文化庁が江差町を日本遺産の認定地として審査をするというプロセスです。それであれば第一義的には、その情報公開をすべき相手先としては、文化庁になるのではないのでしょうか。我々は審査を受ける側の立場です。そういった時に、我々が積極的に、そういった審査を受ける立場として、情報公開をすべきかどうかということは、あー、文化庁の意向を踏まえて、判断すべきものだというふうに思っております。

田畑議員は議会だと、先程おっしゃいましたけども、田畑議員は一町民として情報公開請求をして、その情報公開請求で出てきた資料を議会に提出されております。ということは、議会に提出された資料と一般的に公開されるものだとすることを私は認識しています。ということは、これは、一般公開されるものですし、請求する相手は議会を通してではなくて、江差町に対してされて、田畑豊利さん個人が江差町にしているというところで、議会を通じてやっていないというところで、それを議会をとおして、黒塗りを取って出せというのは、筋が違うのではないかなというふうに思っているところです。

で、先程、あのポスターに12ということをおっしゃってお話をされてますけれども、繰り返しになりますけども、江差町は構成文化財26を上げて、そのうちには横山家も入っていますし、旧中村家住宅も入っています。色んな文化財をまとめて、ニシンの繁栄が息づく町ということで、ストーリーを作り上げています。その12というところで、こだわられてもですね、こちらはその12に何か意味があるものではなくですね、ポスターの中で、えー制約、紙面的な制約のある中で、12の文化財、構成文化財をピックアップして載せているというだけであってですね、当然、田畑議員は議会に出て来て、議員さんとして日本遺産のご質問されているんですから、構成文化財が26あるというのはご存じだということを前提に、ご質問していただかないですね、我々も議論が深まらないのではないかなというふうに思っています。

繰り返しになりますけども、田畑議員は、何がこの日本遺産再審査に対して、疑念をお持ちになって黒塗りをオープンにしろとおっしゃっているのか、はっきりと、申し、おっしゃって頂く、ということが、私達の答弁につながるのかなと思いますので、

是非、そこの部分、教えて頂ければなと思います。

「田畑議員」

はい。

(議長)

田畑議員。

「田畑議員」

えー、それでは、もう一度、ちょっと、あの一、スタートラインに戻しますけれども。んーんー、12コンテンツ、これは、あのポスターに下にも掲示していますけど。

(議長)

田畑議員。町長の質問と答弁が噛み合っていないんですけれども。

「田畑議員」

いや。

(議長)

ちゃんと、聞いていました。

「田畑議員」

聞いていますよ。

(「何も聞いていない」の声)

「田畑議員」

だから、行政の、我々の、あの話をですね、一步出た一般の町民はわかんないんですよ、このことが。26だとわかりませんよ。12のポスターしか見てないんだ。これが日本遺産、みんな思ってますよ、100%。それは感じ方が違うわかります。

じゃあ、ちょっと戻して、なぜ、その5月15日に来て、あの、再審査になったのか、じゃあ、町長、なんかお答え出来る。お願いします。

日本で、あの年は17のですね……。

「町長」

反問権使って……。

(議長)

ちょ、あの、反問権使って、町長が質問がしているんですよ、田畑議員に。

「田畑議員」

ま、まずいんですか、それなら。

「打越議員」

町長が質問したことを、あなたが答える。

(議長)

答えるだけなんですよ。

「田畑議員」

今、答えてるつもり……。

「室井議員」

ちゃんと、聞け。

「塚本議員」

答えになっていない。

「室井議員」

議長。

(議長)

はい。

「室井議員」

あの、議事進行に町長だけ、聞け。

(議長)

はい。

「室井議員」

もう1回質問、させ……。

(議長)

暫時休憩致します。

休憩 16 : 07

再開 16 : 10

(議長)

休憩を閉じて、再開致します。

(議長)

えー、今までの、えー、流れを見ましても、えー、答えがなかなか出て来ないというような状況なので、以上で、反問権の行使を終了致しまして、事務局は、持ち時間を再開して下さい。

※ 反問権終了

時間再開 16 : 10

(議長)

暫時休憩致します。

休憩 16 : 10

再開 16 : 11

(議長)

休憩を閉じて、再開致します。

町長。

「町長」

えー、田畑議員の1問目の日本遺産の再審査についての情報公開についてのご質問にお答えを致します。

反問権を行いました、その点について、ご質問にお答え頂けていませんので、私くしどもとしては、答弁出来る内容がございませんので、答弁を差し控えて頂きますので、宜しくお願い致します。

「打越議員」

わがった。

「飯田議員」

議長、2問目。

(議長)

それでは、2問目、お願い致します。

「田畑議員」

大変、あの、未熟なもんですから、あの、本当に時間、取らせてすいません。

2問目、日本で最も美しい村連合加盟事業について、質問致します。

えー、この事業の主たる目的は、江差町の観光振興、経済発展です。しかし9年間で資料にもありますけれども、900万円以上投資した結果、その費用対効果はどうなってるのでしょうか。

内訳の資料を見ると、町長と職員の出張費が殆どだと思われませんが、具体的に、何時、何処に、何をどれくらい作り、今日どのように進展、経済効果をもたらしているのか。少なくとも歴まち1.1キロメートルの範囲では、ほとんど変わっていないように気がします。むしろ景観は増々悲しく寂しくなっています。

どうか、このことについて、お答え下さい。お願い致します。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」

田畑議員からの2問目、日本で最も美しい村連合加盟事業についてのご答弁を申し上げます。

まず、この事業の主たる目的は、ご質問にありますように、観光振興、経済発展ということもありますが、12月定例会において田畑議員の質問に対し答弁をさせて頂いておりますように、本事業は素晴らしい地域資源を持つ美しい町や村が、地域に誇りを持ち、将来にわたって美しい地域づくりを行い、地域の活性化と自立を住民自らの手で推進することや地域の営みによって形成された景観や環境、地域の伝統文化を守り、これらを活用することで観光的付加価値を高め、地域資源の保護と地域経済の発展に寄与することを目的としております。

当町が加盟登録となった地域資源は、いにしえ街道、江差追分、姥神大神宮渡御祭となっており、日々の生活の中で町民自らが地域の美化活動や伝統文化を守る活動が展開されていることが評価されたものであり、質問にありますように、具体的に何を作るということではなく、町民自らの活動で守られている地域資源を観光振興、地域活性化につなげていくものであります。

その上で、費用対効果というご質問であります。例えば、札幌市や東京都などで

の観光プロモーションを当町単独で実施するよりも、加盟している魅力ある町村と一緒にすることで、江差追分や姥神大神宮渡御祭という登録資源をはじめ、江差町をPRする場となり、来場された沢山の方々に当町の魅力を発信で出来ることは十分意味のあることだと考えております。

今後とも、加盟町村と連携しながらプロモーション活動を展開し、多くの方々に当町へお越し頂くことで地域経済の活性化につながるよう努めていきたいと考えておりますし、そのためにも、引き続き、日本で最も美しい村連合の活動を通じ、いにしえ街道を含めた当町の登録資源を将来に渡り守りながら、美しい地域づくりに町民とともに取り組んで参ります。

(議長)

田畑議員。

「田畑議員」

あの一、質問にちゃんと答えていないような気がします。

再質問ですね。平成27年、111万9千円、ずーとこうありまして、で、ま、900万以上使っているんですが、どう見ても、これ、旅費、需用費、負担金だけなんです。これで、今、町長答弁したようなことは、合致しないと私は思いますよ。

この本当、主たる目的、簡単ですよ。今、ずーと話しましたが、こういうことです。生活の営みにより、形成された景観です。海、山、川、浜、浜あえて言いますけども、環境や地域の文化、これもわかります。守り、そして最終的には、地域の資源保護等、地域経済の発展に寄与する。何にもしてないんじゃないんですか、と私は、思いますけども、もう一度、この1年間の費用、もう9年間で9百数十0万使ってますけど、何にも見えてこないんですよ、町の発展が。

発展することは、もう、最終命題ですよ。今、色々町長おっしゃいましたが、で、それ、わかるって、わかります。ただ、見えてこないんだよ。この1.1キロの間に、他、どこかわかったら、1.1キロ間にもし何かあったら1つ、説明して欲しいなと思います。

「追分観光課長」

追分観光課長。

(議長)

追分観光課長。

「追分観光課長」

えー、まずあの一、1.1キロという、その歴町街区のお話を田畑議員の方からされていると思いますが、えー12月定例会の方でも、私の方で、ご答弁させて頂いて

おります。先程、町長からの答弁もありましたように、まずは、この美しい村の登録資源としては、いにしえ街道、歴街だけではありません。姥神大神宮渡御祭、江差追分も登録資源としてなっております。で先程、町長から答弁でありますように、えー、地域振興、観光振興、ま、経済活性化とゆった部分でございますが、えー、まずは、地域にあるその資源を守る、守る活動、それが評価されて今なお、観光客が来て頂いているという部分では、なかなか数字上で、その経済効果という部分は、見えない部分ありますが、先程、町長が答弁させて頂きましたように、出張で札幌や東京に行ってプロモーション活動しております。その中で、PRして、江差に足を運んで頂いている方、また、あの一北海道連携会議、負担金を出しておりますが、そちらの方で実施しておりますスタンプラリーというのがあります。それでも、江差にお越し頂いている方が、えーおります。その中のコメントです、例えば、いにしえ街道がすばらしい街並みだったとか、えー、姥神大神宮渡御で笛や子ども、あの一、太鼓、子どもが奏でてる姿に感動したとか、そういう色んな意見を頂いて、また、江差に行きたいというようなコメントも頂いております。そういう意味では、この事業、先程から、ま、あの、加盟で900万というお話ありますが、そういう出張旅費だとか、えー、負担金を用いながら、加盟することによって、えー江差に足を運んで頂く環境、それが最終的には町民の皆さんによって、地域文化が守られ、それを持ってまた観光振興につなげていく取り組みを続けて行きたいというふうに考えておりますので、宜しくお願い致します。

「打越議員」

わがった。

(議長)

田畑議員。

「田畑議員」

今、あの一、すごくいい答弁のように聞こえますが、あの一もし、これ例えば、田畑商事であれば、とっくにこんなこと止めてます。利益上がらないのに、株主に配当出来ませんから、株主から、もう、一発止めてと言われる前段ですけど、じゃあ、課長いわく、リーピーター客も増えたかのようなことゆってましたけども、先程言いました日本遺産、これも全部絡んでますから、あの一日本美しい村連合含めて。書いてるじゃないですか、これ。観光客、観光客見込み数、目標達成していない。全然、これと話合いません。

これ前段にして、関連事項で、もう1つ質問します。

ここにこういう、あの、新聞、ミニ新聞と申します、あります。これも資料、たくさん使うから止めてくれと言われたから出しません。この場でお見せします。なぜ、これを見せるかという、これは、60部配った、あの、作って、配布したそうです

けど、ま、お金は、おそらく、この、町の5、60万の加盟料、全国で59ありますけど、その中の一部だと思います。多分使われたお金。これいうことありませんが、いいです。それで、これ見てびっくりしたんですが、これは、ボリューム42番目にも作った、作った背景とかいいんですけど、作り方とか作った業者もいいんですけど、基本的に今おっしゃったように、文化を守ったり、景観、環境、ま、メインですよ。はい。

それなのに、江差町、載ってます。これ、見てると思うんだけど、あえて議員の皆さんに見せますけど、ここに、なぜ、なぜですよ。一介の、一部の会社の代表、その会社の宣伝してるんですか、これ。何にも日本一美しい村連合と関係ないと私は思いますよ。ただし、追分、ね、それから、これ関係あると思いますけど。あと町長、載ってます。開陽丸の一部、載ってます。これも、まあまあ、百歩、千歩、譲ってもいいですけど、なぜ、いち会社のこういう宣伝になるんですか。ねえ、もっとぶっちゃけ言うと、照井、この方、ご存じですか。

(議長)

新聞。

「事務局長」

どっから、出てきて。

「町長」

別に。本来。

「田畑議員」

あ、照井町長、ま、これ資料配れなかったもんだから、あえてこれ、お見せしますけど。

(議長)

それ、議員。田畑議員。

「田畑議員」

ま、最後に、この方、ご存じですか。

(議長)

自分で、見るのはいいですけども、あの一、議運でその資料、認められてないので、あんまり、こう。

「田畑議員」

うー、いやいや、だけど。

(議長)

認められてないので。

「田畑議員」

事務局、ちょちょ、ちょっと。

(議長)

自分で読むのは、いいですよ。

「田畑議員」

ちょっと、待ちなさい。ちょっと、待ちなさい。

事務局で、俺、今回、たくさん資料あるから、町に予算がないから、節約しているから、カットしてくれって話だから、これしか載っけなかったんですよ。これ、もう本当に載っけたかったんですけど、皆さんに見てもらうためにね。相当ボリュームになりますから、あえて下げたんです。だからこの場で話をしております。

町長答えて下さい。

(議長)

町長。

「町長」

えー、今、その日本で最も美しい村が発行している冊子のお話だったと思いますけども、そもそもそれは、販売されているもので、配布しているものではございません。基本的には、それは、全国の皆さんに販売をしているものでございます。そういった中で、日本で最も美しい村を知って頂くということで、えー、江差町を取り上げて頂きました。その中に一企業が載っているのがおかしいというお話ですけれども、そういったことはですね、まさに日本で最も美しい村連合はどういう人選で、どういうことを取り上げるかというのは、我々の側ではなくてですね、えー、その編集をする側の判断でされているところで、私が何か意図をもってその企業、あー、一企業を助長しているということは、まったくございませんし、頑張っている企業を応援して、一緒に地域のために汗をかいていく。そのことが、行政、やってはいけないという考えは私は持ち合わせておりません。

地域の頑張る企業と一緒に地域を盛り上げていく、そういう思いで、日々やっています。その時に何か裏でお金が渡ったり、あるいは何か利益誘導があったり、そういうことはあってはならないと思いますけども、そういうことが無い中で、しっかり地

域の企業を応援していく、それが町長の1つの仕事でもあるというふうに考えておりますので、田畑議員のご指摘は当たらないと思っております。

「打越議員」

田畑、考えすぎだ。

(議長)

えー、それでは、えー田畑議員、3問目、お願いします。

「田畑議員」

はい。再質問、再々で終わりですね。

それでは、3問目に参ります。

えー、観光の現状とおもてなしについて、質問致します。

えー、令和6年2月現在、おもてなしなんて、微塵も見えないし感じられません。観光バス会社の大半が江差町の滞在時間は5分だそうです。この実態を照井誉之介町長はご存じでしょうか。

更に開陽丸の三本マスト、煙突は錆びついて今にも折れそうと皆が言っております。今年度中に錆びを落として綺麗に化粧をしませんか。そうしないと日本で最も美しい村連合になりかねないと私は思います。

屋外のトイレは11月よりクローズしてます。結果、立小便の数が増加しています。私も何度も見えています。トイレの上の観光案内のミニFM局86.5MHzも作動していない。電話した次の日に、作動しました。これは過去に3回ありました。こういう実態です。平成6年(正:令和6年)2月12日の現在、そうなっております。今動いております。今日も確認しました。

開陽丸周辺の環境は、砂とゴミだらけで最悪です。江差町でのおもてなしという言葉は、今後使用禁止と私は考えますが、如何でしょうか。

「打越議員」

田畑、それ、誰書いんだ。誰、書いでんだ。

(議長)

町長。

「打越議員」

おめえ、書いだのが。何だや、おめえ、書いら、仕方ねえべ、自分で勝手にしゃべってねえっが。

「田畑議員」

黙ってなさい。

「打越議員」

自分で書いたものだ。

(議長)

打越議員、ちょ、静粛をお願いします。

「町長」

田畑議員からの3問目、観光の現状とおもてなしについて、ご答弁申し上げます。まず初めに、観光バス会社の大半が江差町の滞在時間5分という点について把握しているかとのご質問ではありますが、把握はしていません。

次に、開陽丸のマスト等の錆びに関してのご質問ですが、執行方針でも述べさせて頂きましたように、今年度において、外観改修に向けた議論を進めて参ります。

また、開陽丸敷地内の屋外トイレの閉鎖に関しましては、冬期間の凍結対策もあり、数十年前から閉鎖させて頂いておりますが、その間、開陽丸管理棟のトイレを営業時間内利用頂いております。

その上で、屋外でのマナーについては、個人のモラルの問題と認識しておりますので、引き続き、管理棟内のトイレ利用について周知して参ります。

次に、ミニFM局の作動に関してですが、ラジオ機器やカーオーディオの状況により聞こえない場所もありますが、開陽丸屋外トイレ周辺については、作動している状況です。

更に、開陽丸周辺の環境についてでございますが、確かに冬期間は強風により港湾道路に砂やゴミが溜まることがありますが、状況により適宜、砂除去を実施しておりますし、ゴミについても、開陽丸職員が周辺の環境整備に努めております。

また、江差観光コンベンション協会が5月から9月に毎月1回実施している、かもめ島周辺の清掃活動には、町民や町内の各事業所、団体が多く参加されておりますし、私自身も参加をしながら環境美化活動に努めております。引き続き、町民含め、町内の各団体と連携しながら美化活動に努めて参りたいと考えております。

最後に、おもてなしという言葉の使用禁止に関し、行政として使用の禁止を判断する立場ではありませんので、お答え出来ません。

(議長)

田畑議員。

「田畑議員」

大事なことですけれども、今、町長、あの、私が言ったミニFMは、ちゃんと

作動している。確認しましたか、12日。作動してませんよ。あんた、嘘つくんじゃない。作動してない。ちょっと、答えなさい。調べて、駄目だ。

「追分観光課長」

追分観光課長。

(議長)

追分観光課長。

「追分観光課長」

えー、日付け、えー、12日ということは、田畑議員が確認された日だとは思いますが、私ども、この、あの、一般質問、あの、頂いたときにですね、その場で直ぐ確認をさせて頂きました。で、先程、あの町長から答弁がありましたように、えー、付近では作動はしております。ただ、あの、答弁にありましたようにオーディオ機器の問題だとか、カーオーディオの関係で、一部、聞こえない区間もあったのも確認はしておりますが、えー、田畑議員から、ご質問がありました開陽丸周辺のトイレの部分は、作動はしていることは確認させて頂いております。

以上です。

「田畑議員」

はい。再々。

(議長)

田畑議員。

「田畑議員」

駄目ですよ、そういう嘘ついたら。俺、いたんだから、10時から4時まで、そこに。あの、前で、アンケート問ってましたよ、12日。天気も晴れでした。車の数も123台、来てましたよ。すごく何かね、あのー、何か、あのーウミマスだか、サクラマスなんか、すごくあれで、相当来てました、町外含めてですね。ちゃんといましたよ。アンケートのやつも、ここにありますが、今日は見せない。時間ないから。はい。駄目、そんな間違っただこと言ったら。直しなさい。嘘つくんじゃない。

(議長)

町長。

「町長」

えー、田畑議員が調べた2月12日のことは、存じ上げませんが、確認して

ご質問、一般質問が出て来た段階で確認したところ、一部聞こえない所ありながらも、作動しているということ、確認をしました。

2月12日、どうであったかというのはですね、ご質問にお答え出来る状況ではない。それは、その時でしかわからないことですから、その時、作動していたのか、いなかったのか、ということをご答弁申し上げることは出来ません。

ただ、今の現状においては、あー、作動しているというのが現状でありますので、ご理解頂きたいと思います。

(議長)

えーそれでは、田畑議員、4問目お願い致します。

「田畑議員」

いいか、しょうがない。

それでは、4問目、最後になりますけど、えー、かもめ島で入口のラウンドアバウトについて、質問致します。

照井誉之介町長さんは、なぜ、そんなにラウンドアバウトの計画を急いで進めているのか、道の駅が出来てからでも遅くはないですかと思いますけど、答えて下さい。お願い致します。

(議長)

町長。

「町長」

ラウンドアバウトに関する田畑議員からのご質問にお答えします。

かもめ島入口に関して、カーブしている国道に、かもめ島へ向かう港湾道路やいにしえ街道からの下り、下り道路が交差している状況であり、北の江の島拠点施設整備にあたって、国道からかもめ島方面への車両の進入が増えることが想定されますので、交差点改良の要請を行ってきました。

函館開発建設部としても、かもめ島へのアクセス道路との交差点では、右折時の事故や出会い頭事故が発生していることから、令和3年度には事故危険箇所を選定されており、事故の発生を防止するとともに、円滑な走行及び安全安心な通行の確保を図ることを目的に事業化に至ったと聞いております。

議員からは、町がラウンドアバウトの計画を急いでいる、ま、町長がということですかね、ラウンドアバウトの計画を急いでいるという認識のようですが、今回整備する国道の交差点改良は、函館開発建設部が町の北の江の島拠点施設整備計画のスケジュールも念頭に置いて頂いた上で、事故危険箇所の解消に早期対応を目指し、改良方法についてラウンドアバウト方法を事業主体であります函館開発建設部が、選定し進められることになったものです。

町としても現況の改善について、早期対応を行うことが必要と認識しておりますことから、整備に向けて連携して参ります。

(議長)

田畑議員。

「田畑議員」

えーと、これも1つ、時系列的に、あの、お話したいと思いますが。

当初、令和3年の11月に開発局で、あの場所ノミネートしたということです。それから、始まった。でも、そのまだ前からこのことは、たぶんあったと思うんですが、そこから始まりました。いいですか。

で、これは、4月、令和4年の3月のこの町の、うー、北の江の島拠点の仮称です。整備基本構想、これにラウンドアバウト、載っておりません。まず、これ1つです。

そして、それから、約1年後ですか、えーこれ今、令和5年、2023年、だけど、この素案にはですね、前、あの一課長に聞いたんだけど、なぜ載ってないんだと、日付け、こっち載ってるんだけど、むしろ、時間的進んでる訳だから、きちっと載せるべきでないですか。いつ作ったのって、皆、思いますよね、載ってません。聞いたら書いてますけど、何か、あの、えーと、1月か2月頃でないかという話なんですね。これ、20日の、先月20日の11時45分に聞いたんです、電話で。そういうこと言っておりました。ま、そういう流れです。

それから、始まって、これは去年の10月ですね、このこと初めて私も8月議員になって初めてラウンドアバウトを知ったということなんですけど。

で、何を言いたいかと言いますと、ここから始まった、そして、えー、開発局の資料では、えー、令和27年(正:平成27年)か、10年間であそこの位置での交通事故は、えー、事故等は13年間で7件だそうです。新聞出たと思うんですが、ま、それは良しとして、中身はわかりませんが、即座に江差町、江差警察署に聞いたら、10年間は事故ゼロだというんですね。ま、どっちが正しいかわかりませんが、そういう状況です。

更には、もっと確認してみました。この道南地区で、じゃあ現状どうなのかと。自分で一応資料調べてみたんですが、えー、まず、江差町のことは言いました。

それで、次にですね、あの一、これ、令和元年の、えー、ごめんなさい。えーと、えー、今年の1月22日です。あの一、せたな警察署に確認しました。10年間で事故歴ゼロ、まず1つです。同じ日に今度は、森警察署に確認しました。10年間で4件だそうです。8人負傷しています。同じ日、八雲に電話しました。

(議長)

田畑議員。今、江差町のラウンドアバウトについて、質問して、再質問しているんですよね。

「田畑議員」

関連性があるから、今、しゃべっているつもりなんだけど。どうですか、議長。

「町長」

暫時休憩して・・・。

(議長)

暫時休憩致します。

休憩 16 : 37

再開 16 : 37

(議長)

はい。休憩を閉じて、再開致します。

「田畑議員」

はい。ありがとうございます。

八雲、えーこの10年間で事故件数、5件だそうです。死傷者2人です。

何を言いたいかと言うと、ふつう社会的には、危険地帯にノミネートした訳ですから、これは、私は、あの開発に進め方とここ、町とのことはよくわかりませんが、一緒にやるべきだと思うんですが、あのーそういう現状で、私、聞いてみました。開発さんに。明快な答えは、まだ頂いておりませんが、警察署は、そういう形です。

ただ、事故は色々ありまして、自損も含めると、そういう形になる。

要は、警察署届けていないのがゼロ。だけど、開発局では、たくさんある話で進めていると思いますけど、ま、そういう現状、1つ話して。

もう1つ最後に、なぜ、話をしますかという、あの、ここにですね、あの、あの、うー出入口の、こう山型っていうんですか、カーブの所に、実は、今年、去年の春に、定かではありません日付けは。あの、あのカーブにですね、松を13本植えた方いるんですよ、近所の方だそうですけど。

ただでさえカーブで見通し悪いのに、松植えたらもっと悪くなりますよ。その意図わかりませんが、現状です。このことも、町で把握しているかどうか、まずそれも聞きたいなと思っております。

(議長)

まちづくり推進課長。

「まちづくり推進課長」

えーと、ご質問が多岐にわたってますんで、抜けているかも知れません。あの一、ご指摘下さい。

えー、ま、3年の時点で、ラウンドアバウトという言葉がなかったということです。

当然私達もその時点では、交差点改良をというお話は、開発の方をお願いしていたと思います。ただし、それがどういう交差点改良になるかというのは、当然、あの、その時点でわかったかということになると思います。

それから、5年の2月、日付けが書いていないというお話ありました。これもお話されて頂きましたけども、えーと、お一、ま、本来は基本計画を年度内に収めようという思いで、私達、事務、進めてきましたけども、それを少し延ばさなければいけない。ただ、基本計画のもう、どこまで、今、詰めているかというお話を載せるために、それを議会でお渡ししました。それは、あくまでも、素案です。まだ、案にもなっていない。こういう形で取り進めているということで、5年の2月に、議会の方にお示ししたということで、ご理解頂きたいと思います。その完成版は、5年の11月、完成していいです。これは、議員もご存じだと思います。

で、えー、ま、議員がその私達は何も知らなかったと、ラウンドアバウトというお話をされてましたけども、えーと、ま、議員になってからというか、8月から、8月に入って初めてお聞きになったというお話ですけども、去年の2月か、1月だったと思いますけども、北海道新聞で函館開発建設部の方向性が、ラウンドアバウトを検討しているというのは出ていたと思います。ですから、情報は、あの一少なくとも、その時点では、ま、新聞、あのご覧になっていけばわかる、わかっている話でないかなと私は思います。

えーと、あとは、ん、カーブの所にある、林、松の木ですね。ま、それは、あの一、私達も見てはいます、はい。あの存じてはいるということで、ご答弁差し上げます。以上です。

「田畑議員」

はい。

(議長)

田畑議員。

「田畑議員」

なぜ、そこをちょうど、ピンポイントで話するかということですね、ま、ほとんどの方が、ま、多分9割以上、誰がやったか、いつやったかわかっているはずなんですけど、あえて言いません。あの、多分、プライバシーの問題もあると思いますが、言いませんけれど、また、この一会社の社長が、の土地なんです、あそこは。

平成26年に購入したらしいですけども。でも植えたのは間違いない、去年の雪解

けだと思えます。あの、何月かははっきりしません。多分4月以降だと思いますけど。ま、なぜ、植えたかという、色んな、んーん、議論あると思うんですけど、ま、なぜかという、簡単な言うと町民も我々も知らなかったと思うんですよ、3月までは。知ってる方いたかなと思うんですけど。それなのに、何か、さあそこが、このラウンドアバウト出来るから、ね、立ち退くためにあえて、松植えたという人が大半だそうです。これは、そうですから、あの確定では、確実なところは言えませんが、私もそう思います。そのことは、じゃあ、なぜ、その方がそのこと知っているのか、大変、大きな問題だと思います。誰かが話をしたか、誰かがリークをしなければ、わかりませんよね。どこの組織の誰かわかりませんが、少なくとも、議員と町民がそのことをこの社長に言うことはあり得ないと思うんですけど。それ以外の誰かが、多分、リークしたと思う。思われます。最後の質問です。その点について、お答え下さい。

(議長)

町長。

「町長」

田畑議員の憶測に関してのご質問には、お答え出来ません。

(議長)

以上で田畑議員の一般質問を終わります。

(議長)

以上で今定例会に通告がありました一般質問は、全て終了します。

これで、これで一般質問、終結致しました。

(議長)

先程、室井議員、室井委員長から、えー、議運を、あの一、開きたいとの主が、説明がありましたので、暫時休憩いたします。

休憩 16:43

※ 休憩中、議会運営委員会の開催。

再開 16:56

(議長)

休憩を閉じて、再開致します。

(議長)

定刻時間が迫っておりますが、まちづくり推進課所管の予算審議が終了するまで、会議を延長したいと思います。ご異議ありませんか。

(「なし」の声)

(議長)

異議なしと認めます。

まちづくり推進課所管の予算審議が終了するまで、会議時間を延長することに決定いたしました。

(議長)

えー、5時20分まで、休憩いたします。

休憩 16:58

(事務局より休憩時間の延長を伝える)

再開 17:43

(議長)

休憩を閉じて再開致します。

(議長)

先ほど、議会運営委員会より地方自治法第135条第2項の規定により、田畑豊利議員に対する懲罰動議が提出されました。

(議長)

お諮りします。

この動議を日程に追加し、追加日程第5として、ただちに議題とすることについて、賛成の方の挙手を求めます。

(議長)

挙手多数であります。

よって、この動議を日程に追加し、追加日程第5として議題とすることは、可決されました。

(議長)

田畑議員は、地方自治法第117条の規定により、除斥の対象となりますので、退場を求めます。

(田畑議員 退場後)

(議長)

追加日程第5、発議第1号、田畑豊利議員に対する懲罰動議を議題といたします。本件について、質疑希望ございますか。

(「なし」の声)

(議長)

質疑希望ありませんので、質疑を終結いたします。

(議長)

お諮りします。

懲罰の議決については、会議規則第114条の規定により、委員会の付託を省略することが、できないことになっております。

したがいまして、本案については5名の委員で構成する懲罰特別委員会を設置し、これに付託して、直ちに審査することにしたいと思いますが、ご異議ありませんか。

(「なし」の声)

(議長)

よって、本案については、「5名」の委員で構成する「懲罰特別委員会」を設置し、これに付託して、直ちに審査することに決定いたしました。

(議長)

暫時休憩いたします。

休憩 17:45

(事務局にて追加日程6及び追加議案の配布)

再開 17:47

(議長)

休憩を閉じて再開いたします。

(議長)

ただ今、追加議事日程を配布いたしました。

これを本日の日程に追加したいと思いますのですが、ご異議ありませんか。

(「なし」の声)

(議長)

異議なしと認めます。

したがって、本日の日程に追加することに、決定いたしました。

(議長)

追加日程第6、決定第1号、懲罰特別委員の選任についてを議題といたします。

(議長)

懲罰特別委員の選任につきましては、委員会条例第5条第4項の規定により、議長が会議に、諮って指名することになっておりますので、議長から指名いたします。

懲罰特別委員に、飯田議員、室井議員、小梅議員、塚本議員、西海谷議員。

以上のとおり指名したいと思いますのですが、ご異議ありませんか。

(「なし」の声)

(議長)

異議なしと認めます。

したがって、ただいま指名いたしましたとおり、懲罰特別委員に選任することに、決定いたしました。

(議長)

懲罰特別委員の選任に伴い、委員会条例第7条の規定に基づき、正副委員長の互選及び審査を行うため、懲罰特別委員会を開催したいと思いますのですが、ご異議ありませんか。

(「なし」の声)

(議長)

異議なしと認めます。

それでは、懲罰特別委員会開催のため、6時20分まで、18時20分まで休憩いたします。

休憩 17:49

※ 懲罰特別委員会の開催。

(事務局より休憩時間の延長を伝える)

再開 19:05

(議長)

休憩を閉じて、再開いたします。

(議長)

休憩中に懲罰特別委員会が開催され、委員長及び副委員長の互選が行われ、その結果が議長の手元にまいりましたので、報告いたします。

委員長に室井議員、副委員長に西海谷議員、以上でございます。

(議長)

追加日程第7、田畑豊利議員に対する懲罰の件を議題といたします。

本件について委員長の報告を求めます。

「室井議員（懲罰特別委員長）」

はい。

(議長)

懲罰特別委員長。

「室井議員（懲罰特別委員長）」

それでは、本委員会は、令和6年3月6日に付託された動議の審査を終了したので、下記のとおり報告いたします。

- 1、付託動議。田畑豊利議員に対する懲罰動議。
- 2、審査結果。明日3月7日、木曜日、1日間の出席停止といたします。
- 3、まとめ。

本委員会では、田畑豊利議員が本日開会の第1回定例会、一般質問第1問目において、理事者からの反問権への答弁の際、町長が笑っていたとして、その事に腹を立て、自席を立ち、議長からの制止命令にも聞かず、町長に対し暴行を行うような勢いで追

った（正：迫った）行為については、議会の品位や名誉を傷つけるばかりではなく、議員としての資質に欠ける行為であり、職責、責任の重さを認識しているとは思えないものであります。

議場における暴行未遂や秩序維持に反し、議事を妨害する行為については、許されるものではなく、江差町議会議員に就任以来においても、問題のある発言による議場での謝罪や、全議員への屈辱（正：侮辱）発言による問責決議、正当な理由のない会議への欠席が多い事により議長からの厳重注意など、度重なる行動に対し、注意・勧告を行って参りましたが、反省の態度がまるで見られないと判断し、明日1日間の出席停止とすることで全会一致で決定したものであります。

以上。

（議長）

これから討論を行います。討論希望はありませんか。

（「なし」の声）

（議長）

これから、あっ、討論なしと認めます。

（議長）

これから、田畑豊利議員に対する懲罰の件を採択します。
この採択は、起立によって行います。

（議長）

本件に対する委員長の報告は、田畑豊利議員に明日3月7日の1日間の出席停止の懲罰を科すことです。

本件は、委員長の報告のとおり決定することに、賛成の方は起立願います。

（議長）

起立、全員です。

したがって、田畑豊利議員に、明日3月7日の1日間の出席停止の懲罰を科すことは、可決されました。

（議長）

田畑豊利議員の入場を求めます。

（田畑議員、入場・着席）

(議長)

ただ今の議決に基づいて、これから田畑豊利議員に対し、懲罰の宣告を行います。
田畑議員、起立をお願い致します。

(田畑議員、起立)

(議長)

田畑豊利議員に、明日3月7日の1日間の出席停止の懲罰を科します。
以上です。

(議長)

追加日程第7、田畑豊利議員に対する懲罰の件を終了いたします。

(議長)

日程第14から日程第39の議案第6号から議案第29号、議案第32号、議案第33号まで、令和6年江差町各会計予算並びに関連議案について、これを一括議題といたします。

一括して、提案の理由の説明を求めます。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」(提案説明)

ただいま一括上程となりました、議案第6号、令和6年度江差町一般会計予算及び議案第7号から議案第12号までの6特別会計予算、議案第13号、令和6年度江差町水道事業会計予算、議案第14号、令和6年度江差町公共下水道事業会計予算並びに議案第15号から第29号、第32号から第33号までの計23議案についてでございます。

令和6年度予算につきましては、町政執行方針でも申し上げましたとおり、コミュニティプラザえさしのオープン、北の江の島拠点施設整備や江差マースの重点施策に加え、町民の安全安心を最優先としながら、次を見据えた事業展開を図るため、持続可能な財政運営に取り組む予算編成を行ったところでございます。

この結果、令和6年度の予算額は、一般会計で6億1,430万円、特別会計総額で2億1,412万円、水道事業会計では7億6,109千円、下水道事業会計では5億6,254万1千円となったところでございます。

各会計予算案及び関連議案の具体的内容につきましては、各担当課長より説明させていただきますので、ご審議の上、議決いただきますようよろしくお願い申し上げます。

(議長)

以上で提案理由の説明が終わりました。

ただ今、説明がありました、令和6年度各会計予算並びに関連議案について、各所管課の単位で補足説明を求め、質疑を受けることといたします。

(議長)

説明員入れ替えのため、暫時休憩いたします。

休憩 19 : 12

再開 19 : 13

(議長)

会議を再開します。

(議長)

日程第40、議案第6号から議案第29号、議案第32号、議案第33号の令和6年度江差町各会計予算並びに関連議案中、議会事務局、総務課、選挙管理委員会事務局、監査委員事務局所管の予算並びに関連議案について、一括、補足説明を求めます。

「財政課長」

財政課長。

(議長)

財政課長。

「財政課長」(補足説明)

はい。それでは、私から議会事務局及び監査委員事務局の所管予算につきまして、提案させていただきます。

まずは、議会費です。予算資料7ページ、事業No.1から4をご覧ください。本事業では、議員の皆様に係る報酬、期末手当、共済組合費等の人件費のほか、旅費、消耗品費、車両借上料及び議会だより印刷費等の議員活動費と、事務局経費を計上しています。

各事業費は記載のとおりですが、主な増減と致しましては、議員報酬等では、令和5年度人事院勧告に伴う期末手当の支給月数増により11万円増、議員活動では、改選期に伴う議員章や作業服の支給が、新年度では無くなりましたので22万3千円の

減、議会事務局事務では、今年度、議場音響システムを改修したことに伴い、新年度では、システム保守料21万8千円が減となりました。

ほかに、前年度から大きく変更となったところはございません。

次に、少し飛びますが、No.75と76の監査委員費です。

本事業では、監査委員報酬、旅費及び事務局職員の人件費等を計上していますが、前年度から大きく変更となったところはございません。

私からの説明は以上となります。

「総務課長」

総務課長。

(議長)

総務課長。

「総務課長」(補足説明)

それでは総務費から教育費に関わる事業並びに関連条例について、ご説明させていただきます。

まず初めに、関連条例です。

議案第17号、江差町会計年度任用職員の給与及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例及び議案第18号、江差町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例についてでございます。

両条例につきましては、関係法令の改正に伴いまして、会計年度任用職員に対する勤勉手当の支給が可能となった旨の文言修正を行ったものでございます。

対象となる職員数については約100名。要する手当、勤勉手当としての予算額は約800万円を計上してございます。実際には、4月から9月までの人事評価に基づいた結果を12月期に支給するという事で、今回800万の手当の内容となっております。

続きまして、議案第19号、江差町青少年問題協議会条例を廃止する条例につきましてです。

昭和38年に本条例を制定以降、青少年の育成等に関する取り組みを行って来、行って来た基礎となる条例でございますが、従来より教育委員会が設置している、江差町青少年健全育成会議においても、同様の取り組みが行われておりますことから、本条例を廃止するものでございます。

続きまして、予算についてご説明させていただきます。

事業番号13番、総務管理事務です。前年比約390万ほどの増となっておりますが、増の要因は役場庁舎や学校等に設置しているAEDを10基更新する、こちらが主な要因となっております。

続きましてNo.14、自治体情報システム標準化事業です。令和7年度末までの標準

化対応を行うために、総合行政システム、戸籍総合システムの標準化に係る改修を行うための費用として、1,170万弱の予算計上となっております。

続きまして、事業番号48、新栄デジタルテレビ中継局送信受信機更新です。予算額5,230万弱となっております。平成21年度に整備したこれらの機器の更新期を迎えることから、予算を計上させて頂いておりますが、関連する機器の製造に18ヵ月を要するという内容となっておりますので、令和6年度に機器を発注し、完成は令和8年度を予定しております。

続きまして49番、高度無線局環境整備・無線局開設状況調査です。こちらの事業は、令和4年度に町内全域で光ファイバーの利用が可能となりましたが、その後の利用状況を、について、中間報告を国にする必要があることから、家庭におけるWi-Fi環境の整備状況を調査するものとなっております。

続きまして111番、職員人件費・会計年度任用職員分です。前年比約580万円ほどの増となっておりますが、学童保育の町立化等々によりまして、人員の増を図ることから、予算が増額となるものでございます。

続きまして143番、南部桧山衛生処理組合負担金です。前年比約3,840万円の減となっております。その要因としますと、昨年度まで、あっ失礼しました。令和5年度までに焼却炉監視操作盤等更新を行った事業が完了するという事で、大幅な減となるものでございます。

続きましてNo.155番、再生可能エネルギー推進事務です。定例会資料1が関連資料となっております。執行方針でもお話しさせて頂いておりますが、公共施設における太陽光発電の導入可能性を調査する、いう内容になってございます。

続きまして157番、公衆浴場等確保対策です。前年比約180万ほどの増となっておりますが、ぬくもり保養センターにおける新貨幣や回数券に対応する券売機を購入するという事で、増額を見込んでございます。

続きまして160番、ぬくもり保養センター修繕工事です。表題にもありますように、屋根、トイレの改修を図る内容となっております。

続きまして282番、行政組合分担金・常備消防費です。前年比約940万ほどの増となっておりますけども、署員1名の増員となる23名体制、加えて、昨今の緊急、救急出動の増に対応するため、940万ほどの増を見込んだものでございます。

続いて284番、同じく分担金の消防団被服更新です。消防団員の活動被服並びに帽子の更新を図るということで、470万円ほど計上させて頂いております。

続いて286番、行政組合分担金・消防デジタル無線設備ネットワーク機器更新です。江差町、上ノ国町、両町で共同運用している機器の更新期を迎えたことから、予算計上させて頂きました。金額は397万円となっております。

続いて287番、行政組合分担金・消防車両更新です。導入後30年を経過する大型タンク車についての導入費用となっております。新たなタンク車につきましては、泡消火剤仕様や水の使用を省力化できる、そういった新たな機能を加えた内容となっております。

続きまして295番、防災情報伝達システム整備事業です。執行方針でもお話しさして頂いておりますとおり、携帯電話網を活用した行政無線の整備を図るという内容になってございます。

説明は、以上で終わらせて頂きます。

(議長)

以上で補足説明が終わりましたので、質疑を許します。
質疑希望ありますか。

(「なし」の声)

(議長)

質疑希望ありませんので、議会事務局、総務課、選挙管理委員会事務局、監査委員事務局所轄の予算並びに関連議案について、質疑を終わります。

説明員入れ替えのため、暫時休憩いたします。

休憩 19:22

再開 19:23

(議長)

会議を再開いたします。

次に、まちづくり推進課所管の予算並びに関連議案について、一括、補足説明を求めます。

(議長)

まちづくり推進課長。

「まちづくり推進課長」(補足説明)

えーそれでは、あの一、まちづくり推進課所管の予算につきまして、予算資料によって説明させていただきます。

えー予算資料7ページをお開き下さい。えー、まちづくりは、広報と企画事務、統計、この3つの事務事業になってございます。

えー主要のところだけ、説明させていただきます。

まず、7ページ、中程、15番、16番です。広報編集、令和6年度は毎月26ページ、4,150部を12ヵ月配布する経費でございまして。情報発信、んー情報収集発信強化については、主に町のホームページ管理とLINEの発信でございまして。LINE登録者は、今現在3,037名となっております。

続いて30番になります。(んっ30番でいいんだっけ) えーと、北の江の島構想

推進でございます。えー1, 404、1, 400、1, 400、4万2千円を計上させていただきます。

うち、1, 324万4千円が、北の江の島拠点施設整備に係る事業者選定支援業務委託費で、えーこれ、こちらに関しては、少し噛み砕いて説明させていただきます。

えー同施設の整備に向けて、一昨年基本構想、昨年に基本計画を策定しました。現在、それらの次の段階として、基本設計の策定と合わせ、拠点施設の整備と運営を民間のノウハウを活用して、トータル的にしていくと言った視点も重要となることから、民間活力導入調査業務を発注しているところです。

町としては、後段の調査を行った結果として、従来の発注方法と現在想定してるDBO方式を比較し、後者が経済的にも、或いは運営方法でも良いと判断した段階で、基本計画のスケジュールに、スケジュールに則りながら、年度内に設計から施工、運営までを担う企業体を公募し、決定する方針です。

その場合の支援業務に要する経費を当初予算で提案させていただきました。事業者の選定に向けたスケジュール、選定方法、参加資格要件などを整理し、公募に伴う町としての実施方針や町が民間事業者を求めるサービス水準を示した要求水準書を作、作成などに係る支援業務です。

本事業の業者選定は、通常、設計から運営終了までの企業体で構成して頂き、最長で15年という長期の契約にも成り得ます。事業者から提案書の審査に当たる、うー支援や補助資料の作成支援を受けながら、選定事業者との間で、町が取り交わす基本協定書や契約書案の作成支援につきましても、弁護士との連携の下、業務を進めて頂くものでございます。

続いて8ページ、39番、エコー管理です。1, 123万6千円、計上させていただきました。えー3月、3月末に施設完成、6月オープンに向けて準備を取り進めております。施設の維持管理費、費用等、おー1年目に必要なイベント企画費用となっております。

続いて40、40番、江差マース事業についてです。239、232万9千円でございます。えー、公共交通網の再編の一つとして、函館バス路線、館線・稲見線・木間内線が令和6年3月末をもって廃止となる見込みであり、同路線の廃止に伴い、町北部の大半が交通空白地になります。以上を考慮し、同路線の廃止に伴い、交通空白地となる町北部を対象範囲とする新たな交通サービス、北部乗り合いタクシーの運行を先行して開始するものです。運行形態としましては、えー鹹川町、朝日町、小黒部町、中網町、越前町に居住する住民に対し、対象に、利用者の自宅から江差高校及び道立江差病院までを利用者の配車予約に応じて、複数の利用者で乗り合い運行するもので、当該運行については、町内のハイヤー事業者へ業務委託する想定です。

えー、予算説明は以上ですが、続きまして、議案96ページをお開き頂きたいと思っております。

こちら、議案第16号、江差町コミュニティプラザえさしの設置及び管理に関する条例の制定についてで、説明させていただきます。

えー名称のとおり、今月末に竣工し、6月に供用開始を予定しているコミュニティプラザえさしの設置について、えーまた、使用料などを中心とした管理の基本的なものを定めるための条例を整備するものです。詳細については、割愛させていただきます。説明は以上です。

(議長)

以上で、補足説明が終わりましたので、質疑を許します。
質疑希望ありませんか。

(「なし」の声、「質問あるよ」の声)

(議長)

室井議員。

「室井議員」

まあ、あの一、尾山課長さんにですね、うーんと、質疑する最後のチャンスかなーと思って。思いっきり質疑(笑)させて貰いたいと思います。

あの一課長ですね、私は、あの一、この件に関してはですよ、ね。大きく言えば、考えてる事をね、応援するために、色々、提案して来たつもりでおります。だからですね、私は、決して、重箱の隅突っつくような、そういうことは言わないけど、ね、今回選んだ計画の基本設計のコンサルの、非常に優秀な会社です。良く選べたなーと、私は思ってます。だからですね、私は、今、江の島構想、これはまだ有るんですよ。ただ、先駆的に拠点施設として、今やるってことですから、そのことをきちっとね、あなたは今、3月で居なくなるけど、次のね、人にね、ちゃんと伝授していく。

それともう一つ。今、ラウンドアバウト、ねー、やる。ただの、ああゆうのだったら、止めた方がいい。やっぱり、江差らしいものをね、考えていく。そして、町民のね、理解を得る努力をしなければなんないんですよ。。そう言うことをね、もうベテラン中のベテランだから、自分が思ってるのを、やっぱり、町長、助役の顔を見れば言えない事もあると思うけど、この際、もう居なくなんだから、思い切ってね、考えてる事あったら、私の言う事に対して反論する事があったら反論してもいいし、考えてる事あったら考えてるなり、きちっと、まとめて、答弁して貰いたいと思います。
以上。

「まちづくり推進課長」

まちづくり推進課長。

(議長)

まちづくり推進課長。

「まちづくり推進課長」

はい。えーと、室井議員は、あー、この北の江の島構想、当初から、えーまあ、うー、かもめ島では歴史的な背景があるんだと、ゆうところからの、あのう、ご提言が多かったなあとは、私も承知してます。えーと、今回まあ、民間活力導入調査をお願いしている業者、これから、えー色んな運営を、運営をしてくれそうな業者に対して、サウンディングってあの、あなただったらどうしますかと言う問いをします。それに関しては、例えば、かもめ島だとか、マリーナだとか、いにしえ街道、これらとどう接点を付けながら、その拠点、拠点施設を中心にですね、どう、こう結び付けながら、やって行くんだと、いうところを確認しながら、提案して頂く、そこでなっございます。

あの一今回の拠点施設、最後ではありませんから、これから、その、おー膨らまして行くという事は間違いございませんので、後ろの方にもしっかり繋いで行きたいと思ってます。

えー、ラウンドアバウトに関して、えー、実はあの一、おー、これがしっかりこう決定になった段階で、えー、町長、おー、と、おー、私、うちの課、或いは建設水道課と一緒にですね、函館開発建設部の方に、えー訪問しました。で、え、町長の方から、建設部長の方に、えー地域に相応しいラウンドアバウトって事で、依頼した経緯ございます。

いずれにしても、おー、これから具体になって来ると思いますから、その辺は、しっかりこの、おー、詰めていきたいと、詰めて行くように、私が言うと無責任になるかもしれませんが、詰めるようには、後ろに繋いで行きますので、ご理解頂きたいと思えます。以上です。

「室井議員」

はい。

(議長)

室井議員。

「室井議員」

えーとですね、再質問になる。今度、副町長。

今、非常にいい答弁しましたよ。ね。ちゃんと上は、尾山課長の答弁を担保して下さい、きちっと。いいですか。いい答弁だから、私はね、応援したいんだよ。ね、課長方考えてる答弁にね、足踏みすっからさー。私は、やるよー。どういう立場になっても。ちゃんと担保してね、忘れず。

あー私はずっと応援して来てるんだ。ね。重箱の隅突つつくような事はしてないんだよ。ね。今、国交省、いいですか、それから文化庁、ね、こういうとことね、江差町がさ、何やって貰いたいんだ。ね、この歴史ある江差町のだよ、次に何かやってか

ないと、駄目になってしまうよ。そう言う事きちっとね、早く言って、副町長、あんたがやんなきゃ駄目なんだ。いいがい、答弁をして下さい。

(議長)

副町長。

「副町長」

えーと、尾山課長の答弁した内容は、町長も私も同じ方向でやってるって事、まず、あの一あらためて申し上げます。

それで今、室井議員の、私共伝えたい内容は、まさしく、まあ直球で言うと、開発建設部であったり、開発局であったり、いろんな国の機関含めて、色々と今、意向を政策過程の中で伝えております。それは、ラウンドアバウト然りでございますけども、そう言ったところも含めて、あの、まあ、申し訳ないですけども、ただ単に作ればいって事では無くて、その奥深いところはですね、きっちり、まあ水面下含めて、伝えてございますんで、あの、きっと室井議員は、そう言うところの関係機関との連携も調整もしっかりやれよと、こういう事だと思いますんで、意に、きっちり対しながら、あの、これから向かって行くという形になっておりますんで、くれぐれも議会としても、後方支援含めてお願いしたいと、このように思っています。以上です。はい。

(議長)

よろしいですか。

質疑希望ありませんので、まちづくり推進課所管の予算並びに関連議案についての質疑を終わります。

(議長)

以上で、本日の日程は、全て終了いたしました。

本日は、これで散会します。

皆さん、大変お疲れ様でした。

散会 19 : 35